

大網白里市
男女共同参画に関する市民意識調査の
結果について

令和元年 1 2 月

目次

I	調査概要	2
II	結果詳細	
1	属性情報	4
2	回答結果	
	【男女平等に関する意識について】	8
	【男女の役割分担について】	13
	【仕事について】	25
	【女性の社会参加について】	45
	【男女共同参画用語について】	58
	【ドメスティック・バイオレンス（DV）について】	62
	【ストーカー行為について】	72
	【男女共同参画社会実現に向けての取組みについて】	76
III	調査票	94

I 調査概要

1 調査目的

第2次男女共同参画計画策定にあたり、市民の男女共同参画に関する意識や生活実態などを総合的に把握し、計画策定に反映させるための基礎資料を得ることを目的とする。

2 調査時期

令和元年9月6日～9月24日

3 調査対象

大網白里市民かつ令和元年8月1日現在、20歳以上の男女1,500名

4 調査方法

郵送による送付・回収

5 調査回収数

474通（回収率31.6%）

6 結果の表記における注意事項

アンケート結果について、小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%とならない場合がある。

7 標本誤差について

市民意識調査は標本調査であり、一定の範囲で誤差が含まれる可能性がある。それは下記の式によって与えられる。(信頼度95%)

$$\text{誤差率} = 1.96 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p \times (1-p)}{n}}$$

(1.96は信頼区間、N=母集団、n=標本数、p=母比率)

※pは0.5のとき最大となるので、以下の計算では0.5とする。

大網白里市男女共同参画計画に関する市民意識調査の誤差率は、次のとおり4.5%であり、誤差率の基準である5%未満となっている。

$$N = 41,838, n = 474$$

【市民意識調査の誤差率計算】

N = 41,838 (令和元年8月1日現在20歳以上の人口数)

n = 474 (抽出サンプル数1,500、回収率31.6%)

$$\sqrt{\frac{41364}{41837}} \times \frac{0.25}{474}$$

$$1.96 \times 0.0228 = \boxed{4.5\%} \quad \text{誤差率}$$

計算結果 = 4.5% (誤差率の基準5%未満)

II 結果詳細

1 属性情報

回答者の属性情報は以下のとおり。

属性項目		件数	構成比 (%)
性別	男性	200	42.2
	女性	260	54.9
	無回答	14	3.0
	合計	474	100

年代	20歳代	30	6.3
	30歳代	54	11.4
	40歳代	59	12.4
	50歳代	81	17.1
	60歳代	128	27.0
	70歳以上	115	24.3
	無回答	7	1.5
	合計	474	100

居住地 区	瑞穂地区	105	22.2
	山辺地区	83	17.5
	大網地区	105	22.2
	増穂地区	101	21.3
	白里地区	75	15.8
	無回答	5	1.1
	合計	474	100

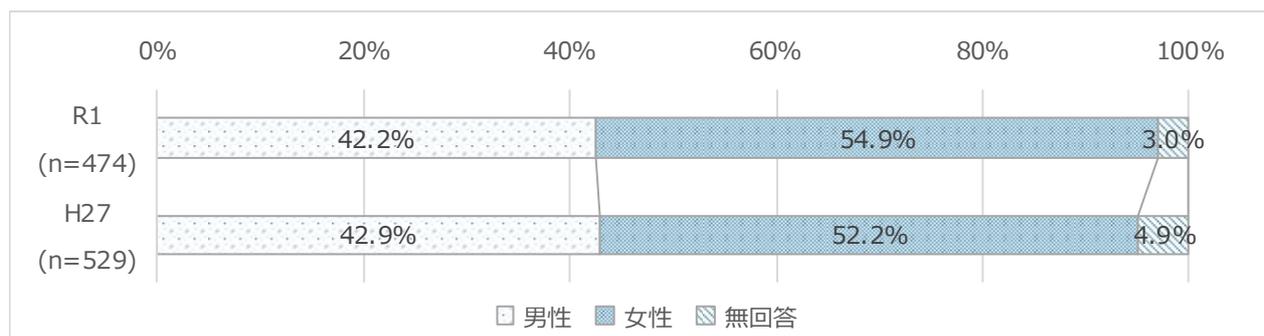
属性項目		件数	構成比 (%)
世帯 構成	単身	29	6.1
	夫婦のみ	174	36.7
	2世代家族（子どもと）	150	31.6
	2世代家族（親と）	74	15.6
	3世代家族	22	4.6
	その他	4	0.8
	無回答	21	4.4
	合計	474	100

職業	会社員・役員	115	24.3
	自営業・自由業	29	6.1
	パート・アルバイト	73	15.4
	公務員・教職員・団体職員	29	6.1
	農林水産業	7	1.5
	学生	4	0.8
	家事専業（主婦・主夫）	67	14.1
	無職	102	21.5
	その他	12	2.5
	無回答	36	7.6
	合計	529	100

【性別割合】

男性が42.2%、女性が54.9%で女性がやや多くなっている。

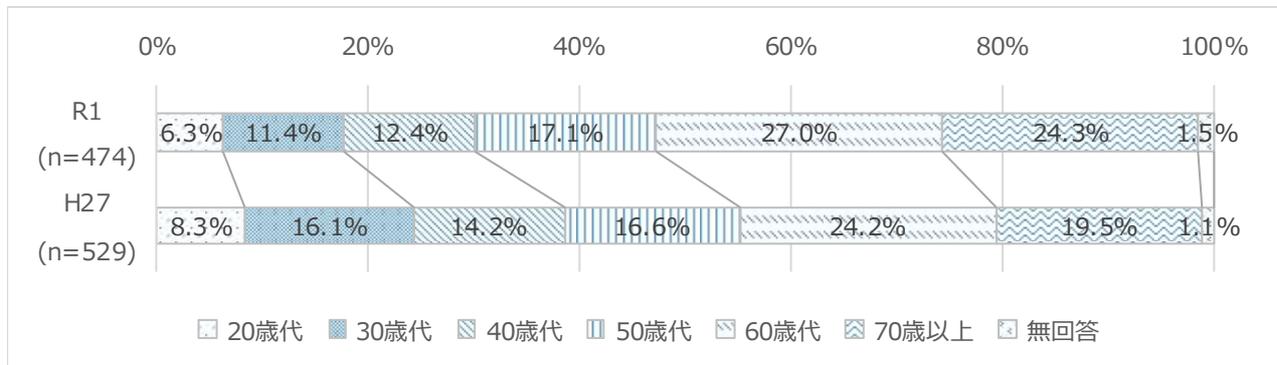
前回の調査と比較すると、男性はほぼ同じであるが、女性がやや多くなっている。



【年代別割合】

年代別でみると、最も高いのは、「60歳代 (27.0%)」で、次いで「70歳以上 (24.3%)」となっている。

前回の調査と比較すると、20歳代～40歳代が低下し、50歳代以上では高くなっている。

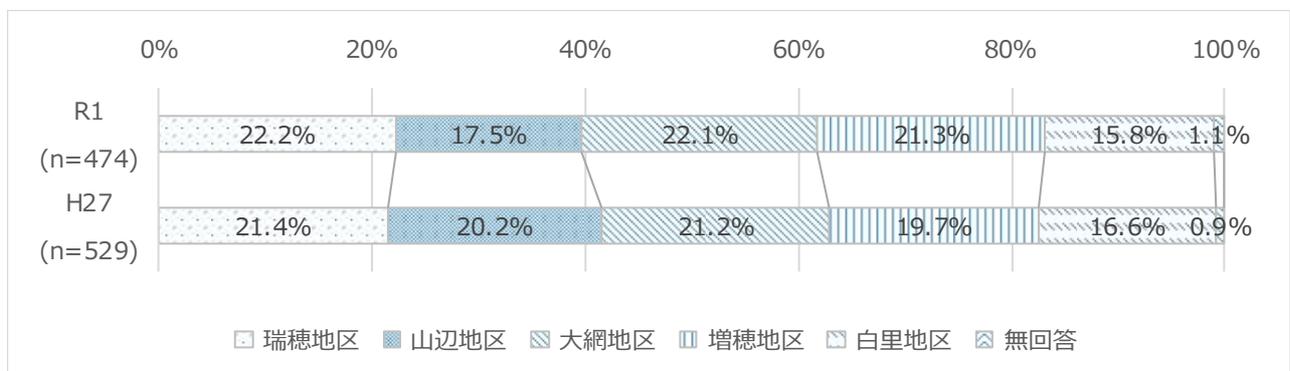


【居住地区別割合】

地区については、地域特性を踏まえ、下記のとおり5つの地区へまとめている。

①瑞穂地区	永田、小中、萱野、砂田、神房、経田、駒込、ながた野、みずほ台、みやこ野
②山辺地区	金谷郷、餅木、大竹、南玉、池田、季美の森南
③大網地区	大網、仏島、みどりが丘、小西、養安寺、山口
④増穂地区	富田、南横川、北横川、北飯塚、南飯塚、星谷、柿餅、柳橋、上貝塚、清名幸谷、木崎、柿餅上貝塚入会地、上谷新田
⑤白里地区	南今泉、北今泉、細草、四天木、四天木甲、四天木乙、北吉田、桂山、九十根、長国、下ヶ傍示、二之袋、清水

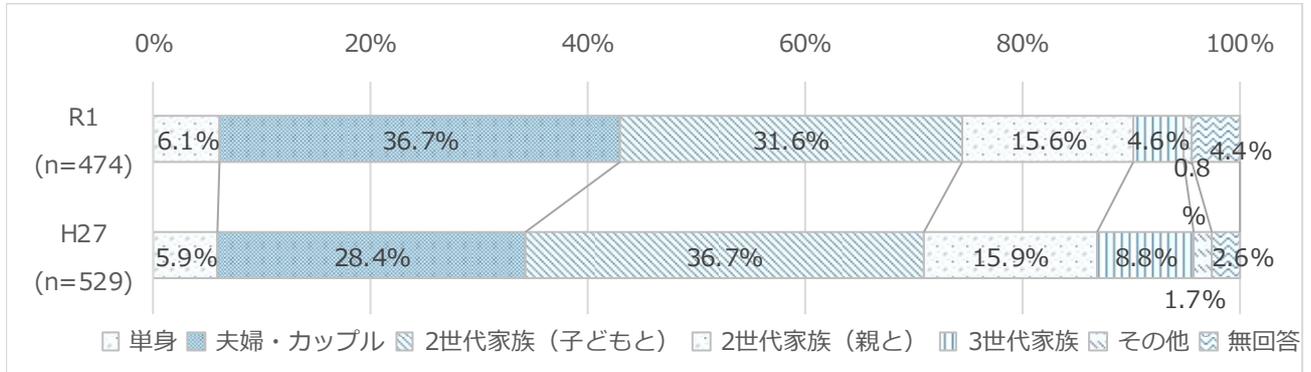
居住地区別では、「白里地区」、「山辺地区」が他の地区に比べ、やや少なくなっている。前回の調査と比較すると、「山辺地区」が2.7ポイント低下しているが、その他の地区では、大きな差異はない。



【世帯構成別割合】

「夫婦・カップル」が36.7%で最も高く、次いで、「2世代家族（子どもと）」31.6%となっている。

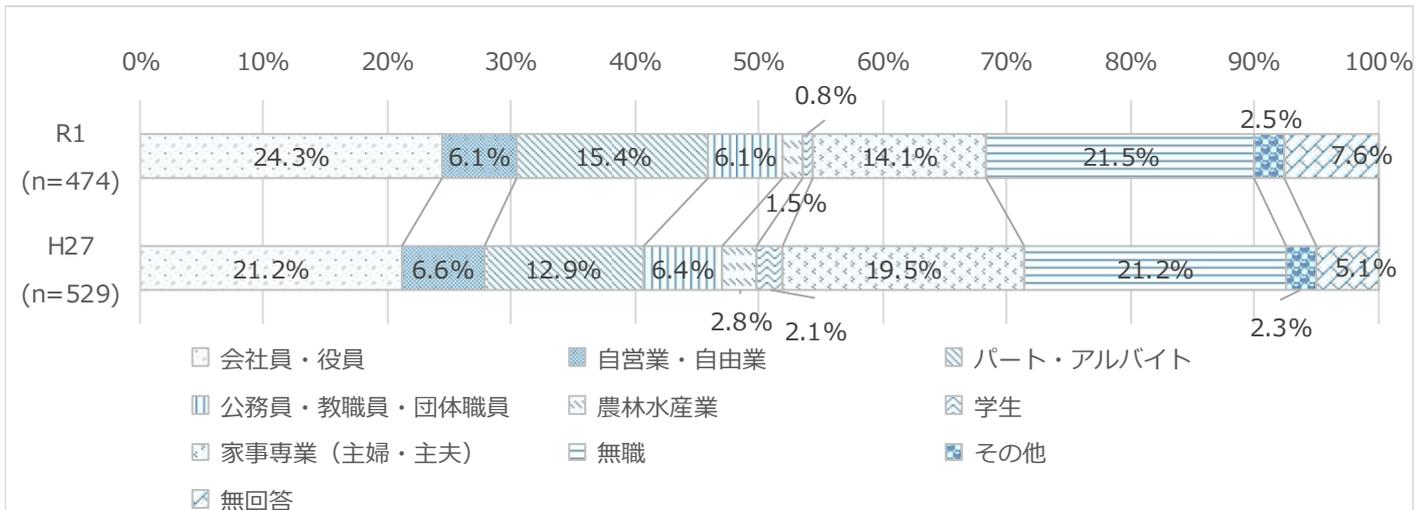
前回の調査と比較すると、「夫婦・カップル」が8.3ポイント高くなり、「2世代家族（子どもと）」が5.1ポイント、「3世代家族」が4.2ポイント低くなっている。



【職業別割合】

「会社員・役員」が24.3%で最も高く、次いで、「無職」の21.5%となっている。

前回の調査と比較すると、「会社員」が3.1ポイント、「パート・アルバイト」が2.5ポイント高くなっており、「家事専業（主婦・主夫）」が5.4ポイント低くなっている。



属性別の分析については、性別・年齢別・地区別を基本とする。
各属性の詳細は以下の通りである。

(単位：%)

		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	瑞穂地区	山辺地区	大網地区	増穂地区	白里地区
性別	男性	43.5	—	7.0	9.5	11.6	17.6	27.6	26.6	19.5	18.5	23.0	22.5	16.5
	女性	—	56.5	6.2	13.6	14.0	17.8	26.7	21.7	25.1	17.0	21.6	20.8	15.4
年代	20歳代	46.7	53.3		—	—	—	—	—	29.6	16.7	25.9	16.7	11.1
	30歳代	35.2	64.8	—		—	—	—	—	25.4	16.9	20.3	22.0	15.3
	40歳代	39.0	61.0	—	—		—	—	—	15.9	21.6	20.3	18.9	20.3
	50歳代	43.2	56.8	—	—	—		—	—	29.6	16.1	16.0	21.0	17.3
	60歳代	43.0	56.0	—	—	—	—		—	15.0	19.7	25.2	22.8	17.3
	70歳以上	46.1	53.9	—	—	—	—	—		20.2	17.5	21.1	22.8	18.4
地区	瑞穂地区	37.1	62.9	5.8	15.5	14.6	23.3	18.4	22.3		—	—	—	—
	山辺地区	45.7	54.3	6.1	11.0	12.2	15.9	30.5	24.4	—		—	—	—
	大網地区	45.1	54.9	9.5	13.3	11.4	12.4	30.5	22.9	—	—		—	—
	増穂地区	45.5	54.5	6.0	9.0	13.0	17.0	29.0	26.0	—	—	—		—
	白里地区	45.2	54.8	4.0	8.0	12.0	18.7	29.3	28.0	—	—	—	—	

(注) 未回答は数に含めていない

2 回答結果

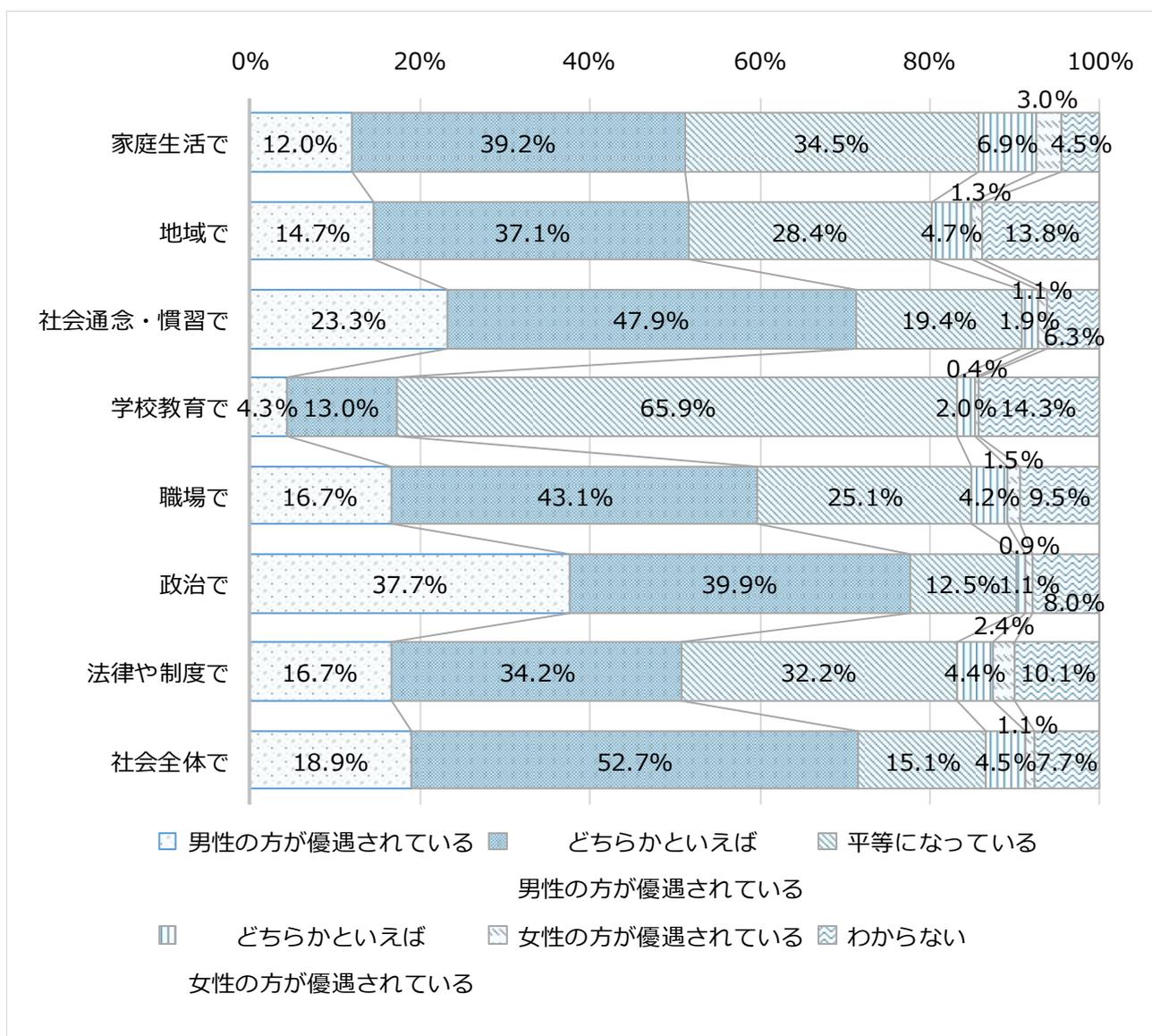
【男女平等に関する意識について】

問1 現在の社会において、男女の地位はどのようになっていると思いますか。

【全体】

「平等になっている」が最も高いのは、「学校教育で (65.9%)」で、次いで「家庭生活で (34.5%)」となっている。また、学校教育以外では、『男性優遇』（「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計）となっており、「政治で (77.6%)」、「社会全体で (71.6%)」、「社会通念・慣習で (71.2%)」では7割を超えている。

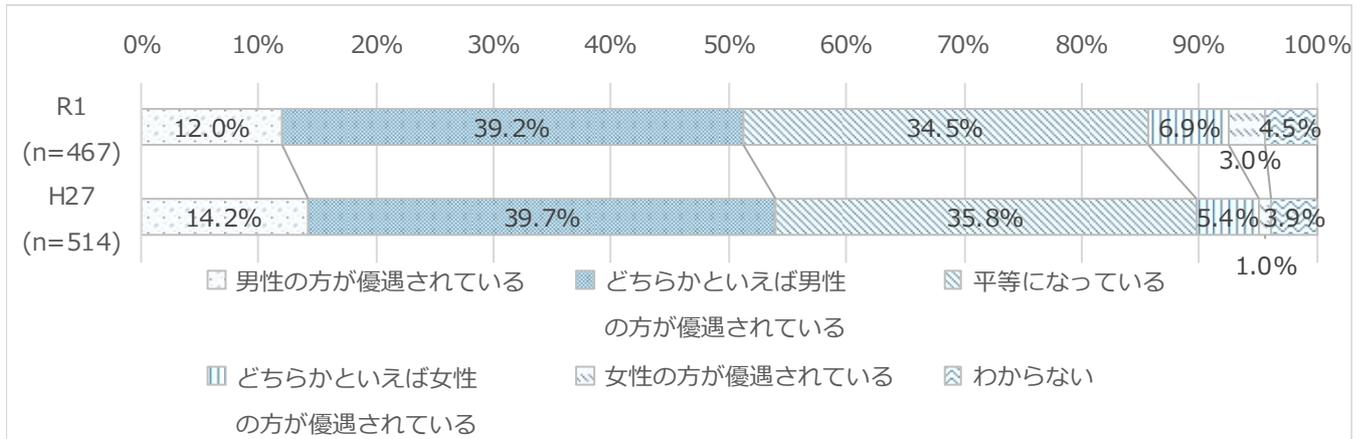
図表1 男女の地位について



【前回との比較】

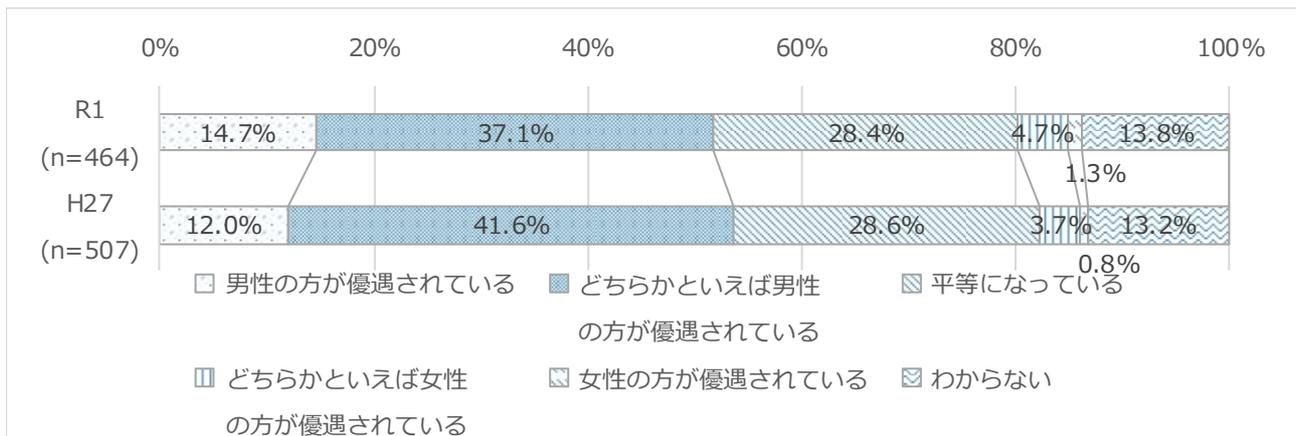
①家庭生活で

前回の調査と比較すると、「平等になっている」はやや減少しているものの、『男性優遇』が2.7ポイント低下し、『女性優遇』が3.5ポイント高くなっている。



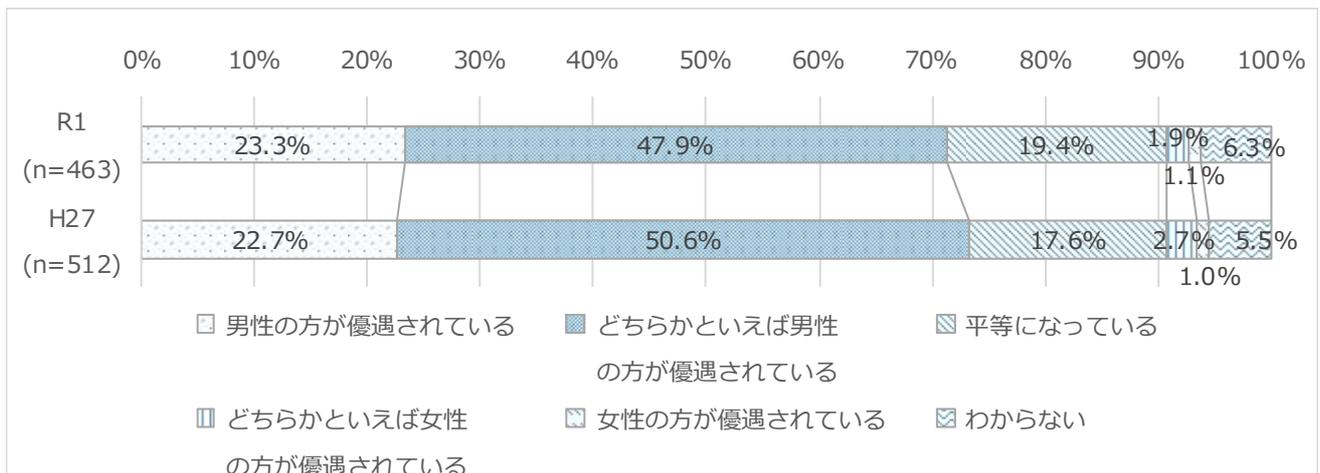
②地域で

前回の調査と比較すると、「平等になっている」はほぼ変わらない。また、『男性優遇』は1.8ポイント低下しているが、『女性優遇』は1.5ポイント高くなっている。



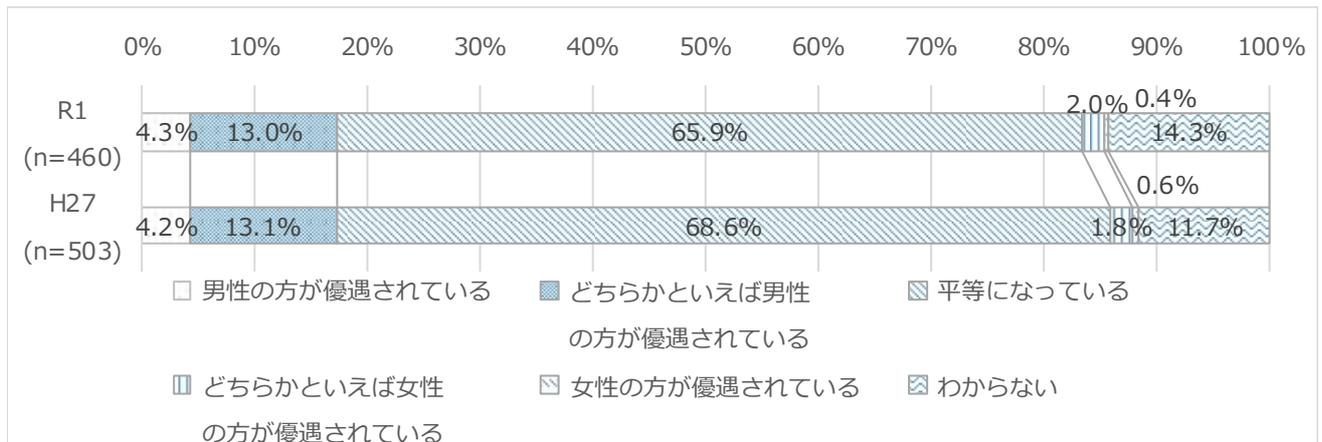
③社会通念・慣習で

前回の調査と比較すると、「平等になっている」は1.8ポイント高くなっており、『男性優遇』は2.1ポイント低下し、『女性優遇』も0.7ポイント低下している。



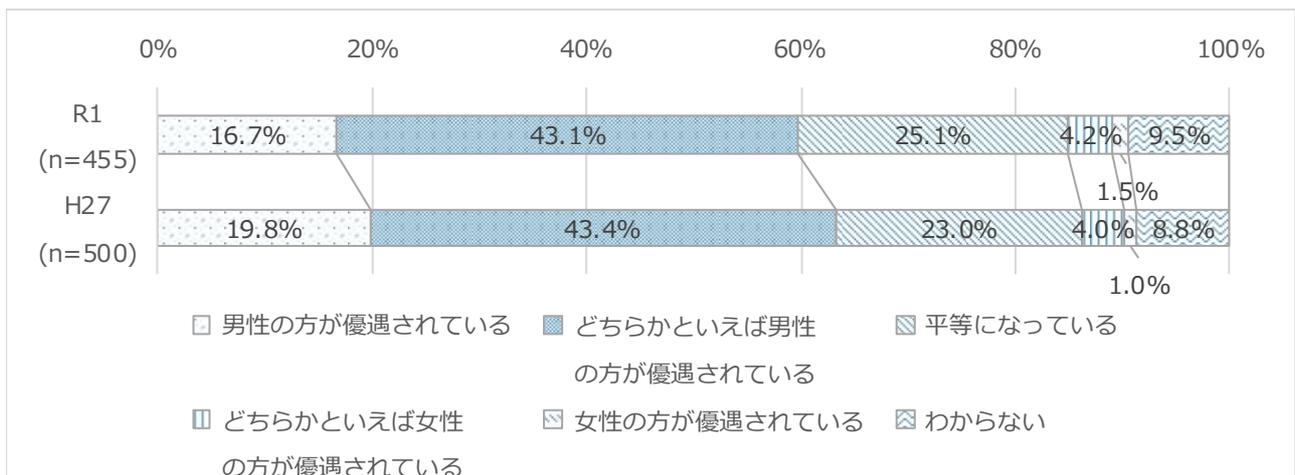
④学校教育で

前回の調査と比較すると、「平等になっている」は2.7ポイント低下したが、『男性優遇』及び『女性優遇』は同じ割合となっている。



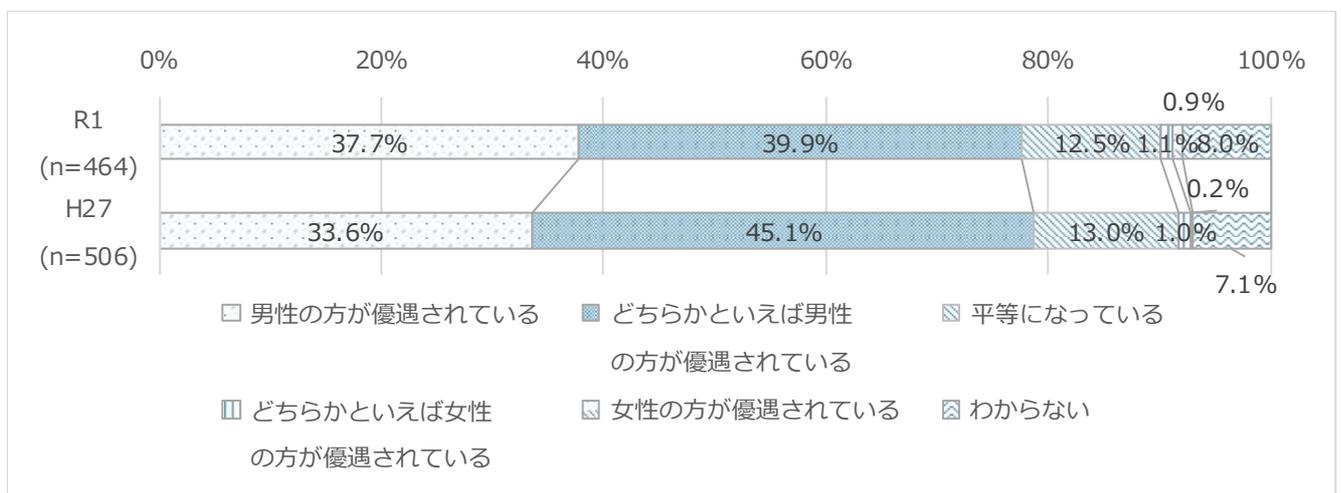
⑤職場で

前回の調査と比較すると、「平等になっている」は2.1ポイント高くなっており、『男性優遇』は3.4ポイント低下したが、『女性優遇』は0.7ポイント高くなっている。



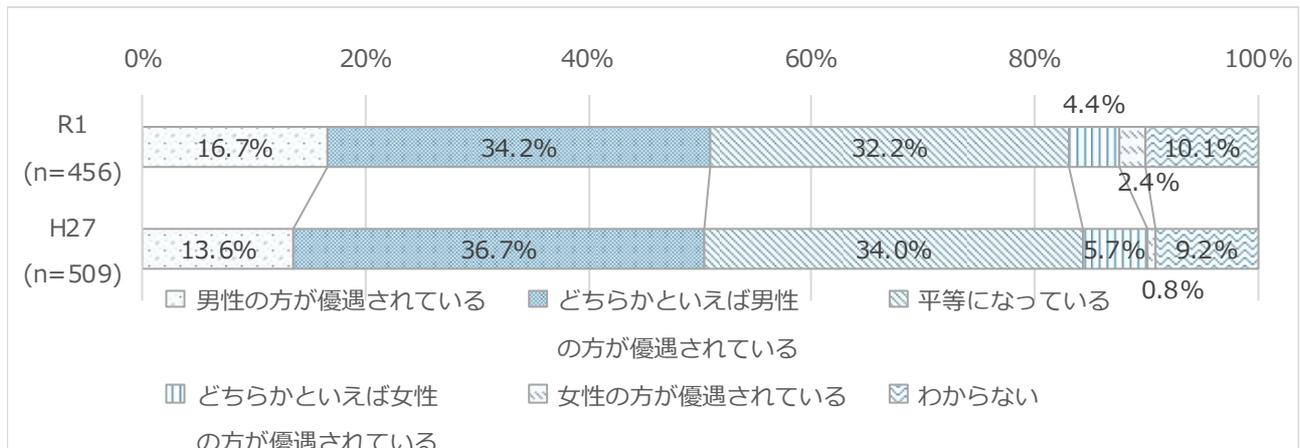
⑥政治で

前回の調査と比較すると、「平等になっている」は0.5ポイント減少し、『男性優遇』は1.1ポイント減少したが、『女性優遇』は0.8ポイント増加している。



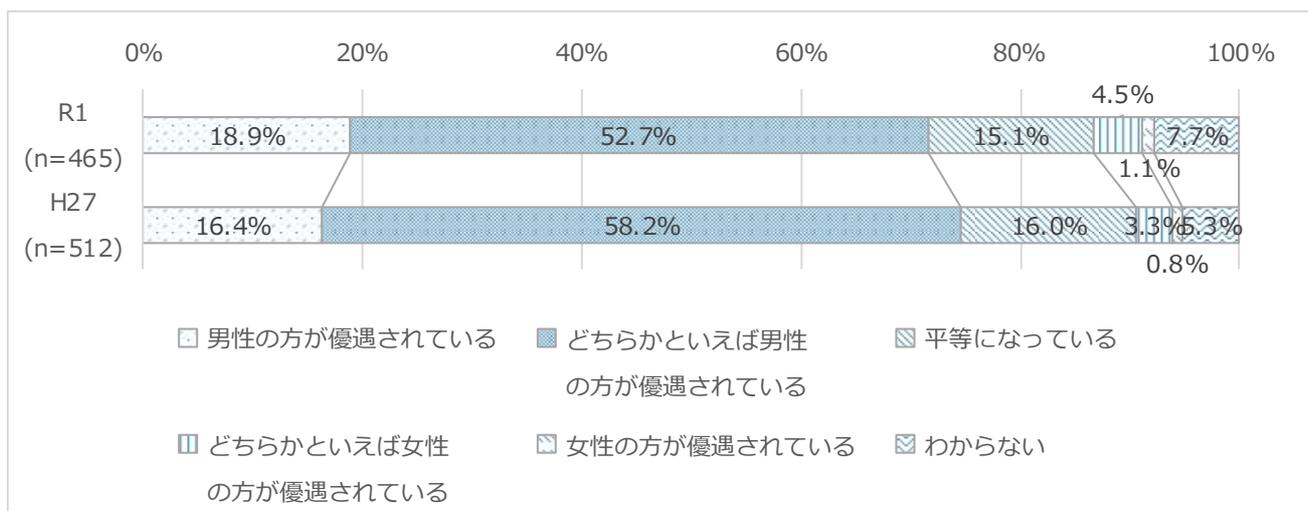
⑦法律や制度で

前回の調査と比較すると、「平等になっている」は1.8ポイント低下し、『男性優遇』は0.6ポイント、『女性優遇』は0.3ポイント高くなっている。



⑧社会全体で

前回の調査と比較すると、「平等になっている」は0.9ポイント低下し、『男性優遇』は3.0ポイント低下、『女性優遇』は1.5ポイント高くなっている。



【『男性優遇』と『女性優遇』の差異】

『男性優遇』と『女性優遇』の差異（『男性優遇』－『女性優遇』の値）をみると、「政治で（75.6ポイント）」が最も高く、次いで「社会通念・慣習で（68.2ポイント）」、「社会全体で（66.0ポイント）」、となっている。

性別でみると、全ての項目で「女性」のポイントが高く、女性の方が『男性優遇』と感じていることがわかる。特に「政治で（78.9ポイント）」や「社会通念・慣習で（74.7ポイント）」で高くなっている。

年代別でみると、全体的に60歳代で『男性優遇』のポイントが高く、20歳代で低くなっている。

地区別でみると、山辺地区では「社会通念・慣習で（81.5ポイント）」が最も高くなっており、大網地区では「学校教育で（22.1ポイント）」が他の地区より高くなっており、「社会全体で（55.8ポイント）」が他の地区より低くなっている。

『男性優遇』－『女性優遇』の差異

(単位：ポイント)

		家庭生活で	地域で	社会通念・慣習で	学校教育で	職場で	政治で	法律や制度で	社会全体で
全 体		41.3	45.7	68.2	15.0	54.1	75.6	44.1	66.0
性別	男性	33.0	38.6	58.9	11.7	52.3	71.7	31.3	59.1
	女性	47.9	50.4	74.7	17.4	54.4	78.9	55.0	71.6
年代	20歳代	26.7	27.6	57.1	3.4	27.6	69.0	24.1	51.7
	30歳代	40.7	38.9	68.5	14.8	54.7	75.3	35.2	55.6
	40歳代	33.9	44.1	61.0	13.6	38.6	71.2	37.3	61.0
	50歳代	43.2	39.5	63.0	19.8	50.6	76.5	47.5	69.1
	60歳代	46.0	55.9	79.7	19.0	64.0	82.0	52.8	77.2
	70歳以上	42.5	45.9	54.1	10.2	58.9	71.8	45.3	61.6
居住地区	瑞穂地区	37.1	42.3	74.5	14.9	52.9	81.7	43.1	67.3
	山辺地区	46.3	48.8	81.5	13.4	58.0	79.3	55.6	78.3
	大網地区	41.0	49.0	65.4	22.1	51.0	72.1	41.7	55.8
	増穂地区	41.4	42.9	62.0	11.1	55.7	74.0	44.3	67.7
	白里地区	41.9	44.6	58.9	11.1	52.1	69.4	35.2	61.6

※各属性において『男性優遇（「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計）』－『女性優遇（「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計）』を示している。無回答は除く。

【男女の役割分担について】

問2 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。

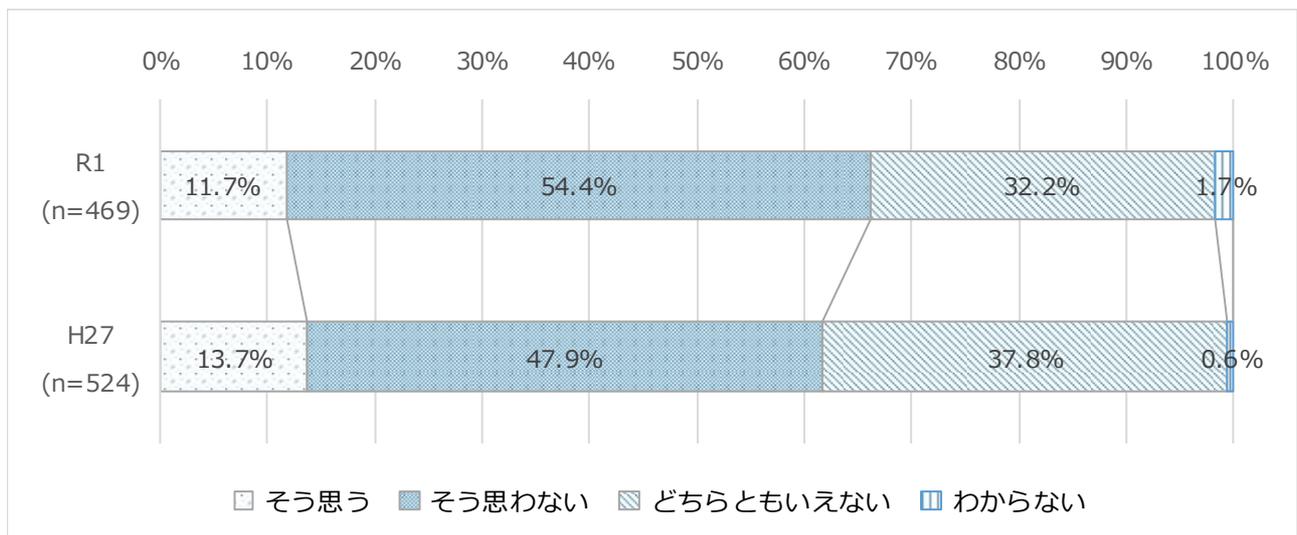
【全体】

「男は仕事、女は家庭」という考え方に対し、「そう思わない」が54.4%とほぼ半数となっている。一方、「そう思う」は11.7%で、「どちらともいえない」が32.2%となっている。

【前回との比較】

前回の調査と比較すると、「男は仕事、女は家庭」という考え方に対し、「そう思わない」が6.5ポイント高くなっていることから、性別による役割分業意識が薄れてきていることが伺える。

図表2 男女の役割分担についての意識



【属性別】

性別では、「そう思う」が男性14.6%に対し、女性が9.6%となっており、「男は仕事、女は家庭」と考える男性が女性に比べ多くなっている。

年代別では、70歳以上で「そう思う」が19.3%で他の年代に比べ高いのに対し、20歳代では「そう思わない」が72.4%で最も高くなっている。

地区別では、「そう思う」が高かったのは「大網地区(14.4%)」で、低かったのは「白里地区(6.7%)」となっている。一方、「そう思わない」が高かったのは「瑞穂地区(61.0%)」で、低かったのは「大網地区(46.2%)」となっている。

		回答合計	そう思う	そう思わない	どちらとも いえない	わからない
全体		469	11.7%	54.4%	32.2%	1.7%
性別	男性	199	14.6%	48.7%	34.7%	2.0%
	女性	260	9.6%	59.2%	30.0%	1.2%
	無回答	10	10.0%	40.0%	40.0%	10.0%
年代	20歳代	29	6.9%	72.4%	20.7%	0.0%
	30歳代	54	9.3%	48.1%	38.9%	3.7%
	40歳代	59	6.8%	61.0%	30.5%	1.7%
	50歳代	81	12.3%	50.6%	37.0%	0.0%
	60歳代	128	9.4%	53.1%	35.9%	1.6%
	70歳以上	114	19.3%	51.8%	26.3%	2.6%
	無回答	4	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	105	11.4%	61.0%	27.6%	0.0%
	山辺地区	82	13.4%	59.8%	25.6%	1.2%
	大網地区	104	14.4%	46.2%	37.5%	1.9%
	増穂地区	101	11.9%	51.5%	34.7%	2.0%
	白里地区	75	6.7%	54.7%	34.7%	4.0%
	無回答	2	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%

問3 結婚（事実婚含む）されている方にお聞きします。
 あなたの家庭では、家事等の日常的な仕事は、主にどなたがしていますか。

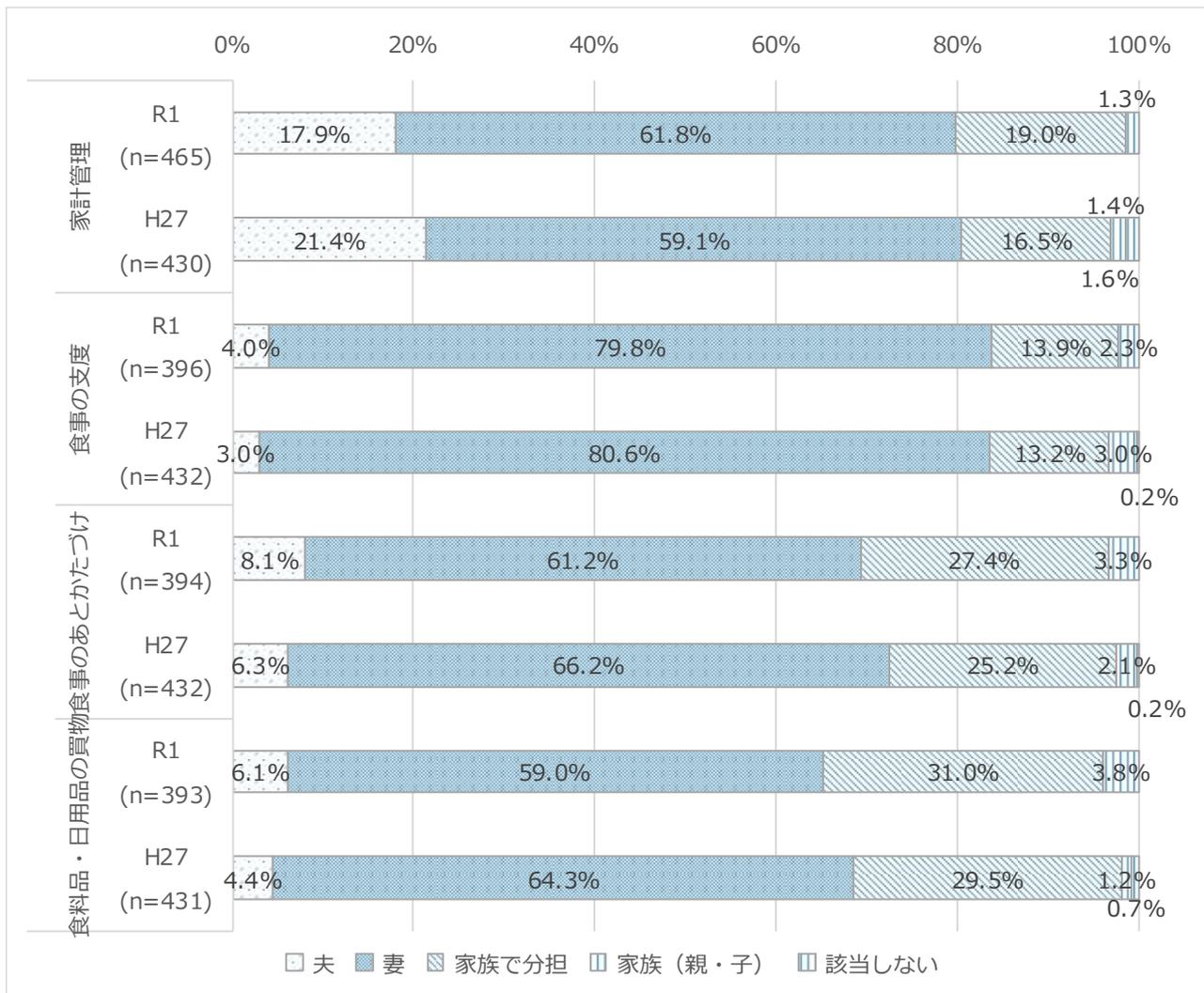
【全体】

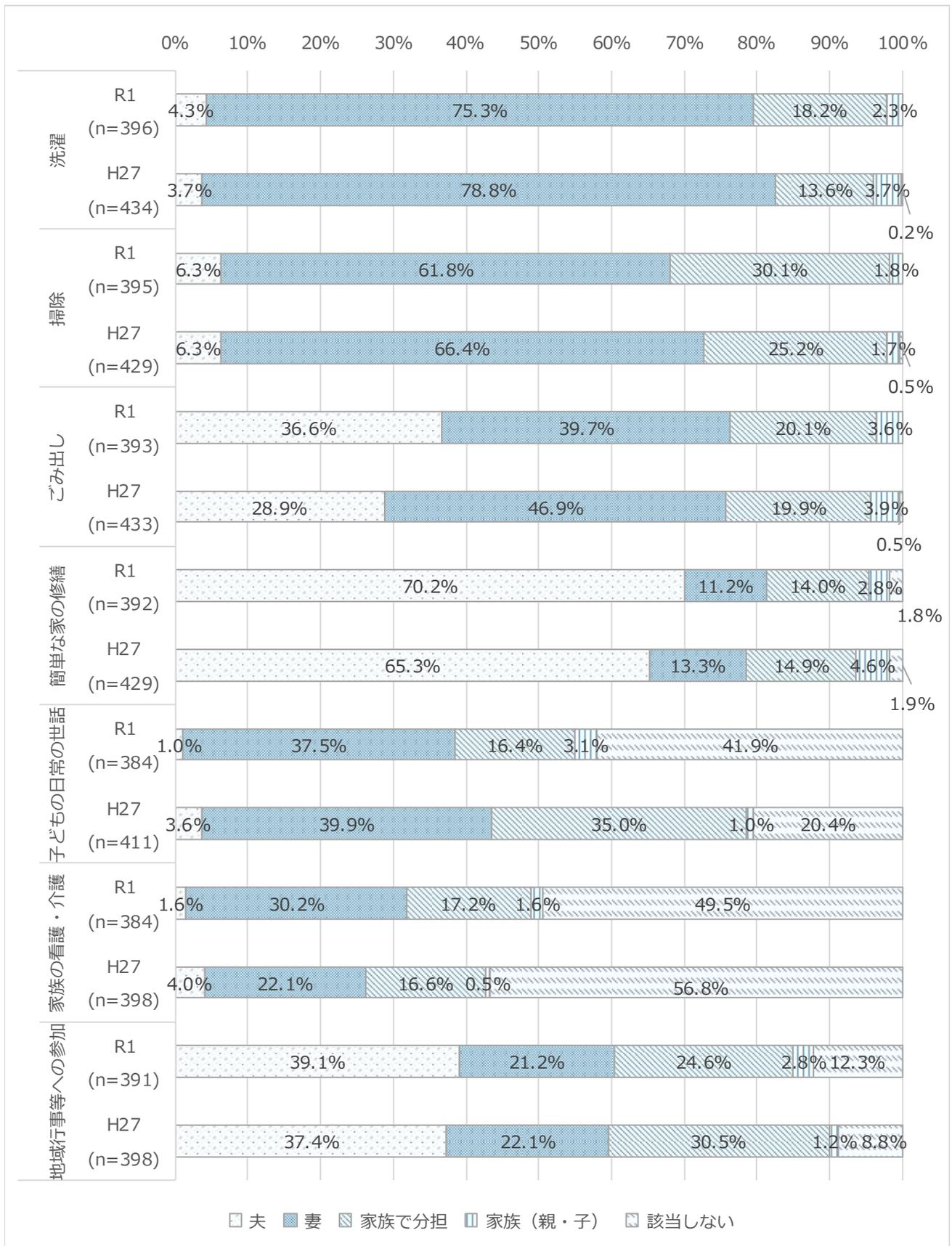
「夫」が高いのは、「簡単な家の修繕（70.2%）」、「地域行事等への参加（39.1%）」、「ごみ出し（36.6%）」で、ほとんどの家事で「妻」が高くなっており、妻が多くの役割を担っていることが伺える。特に「食事の支度（79.8%）」、「洗濯（75.3%）」が高くなっている。

【前回との比較】

前回の調査と比較すると、「夫」が高くなっているのは、「ごみ出し」の7.7ポイント、「簡単な家の修繕」の4.9ポイント、「食事のあとかたづけ」の1.8ポイントの順となっている。「家計管理（2.7ポイント）」、「家族の看護・介護（8.1ポイント）」については「妻」が高くなっているが、その他の項目については、「妻」が低くなっている。また、「家族で分担する」が高くなっているのは「洗濯（4.6ポイント）」、「掃除（4.9ポイント）」、「家計管理（2.5ポイント）」の順となっている。

図表3 家庭における役割分担





【属性別】

①家計管理

年代別でみると、40歳代では他の年代に比べ「夫」が「家計管理」を行っている割合が9.4%で最も低い。

地区別でみると、「白里地区」では、他の地区に比べ「夫」が「家計管理」を行っている割合が7.1%で最も低い。

		回答合計	夫	妻	家族で分担	家族 (親・子)	該当しない
全体		390	17.9%	61.8%	19.0%	1.3%	
性別	男性	160	22.5%	60.0%	16.3%	1.3%	
	女性	220	15.0%	62.3%	21.4%	1.4%	
	無回答	10	10.0%	80.0%	10.0%	0.0%	
年代	20歳代	13	23.1%	30.8%	46.2%	0.0%	
	30歳代	37	24.3%	48.6%	27.0%	0.0%	
	40歳代	53	9.4%	60.4%	30.2%	0.0%	
	50歳代	69	17.4%	59.4%	20.3%	2.9%	
	60歳代	116	16.4%	67.2%	16.4%	0.0%	
	70歳以上	99	22.2%	65.7%	9.1%	3.0%	
	無回答	3	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	
居住地区	瑞穂地区	88	14.8%	56.8%	28.4%	0.0%	
	山辺地区	72	22.2%	66.7%	9.7%	1.4%	
	大網地区	87	23.0%	57.5%	17.2%	2.3%	
	増穂地区	85	18.8%	60.0%	20.0%	1.2%	
	白里地区	56	7.1%	73.2%	17.9%	1.8%	
	無回答	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	

②食事の支度

年代別でみると、20歳代、30歳代では「夫」が「食事の支度」を行っている割合は0%であるが、40歳代以上では、割合が高くなっている。

地区別でみると、「白里地区」では他の地区に比べ「夫」が「食事の支度」を行っている割合が1.7%で最も低く、「妻」が行っている割合が84.5%で最も高い。

		回答合計	夫	妻	家族で分担	家族 (親・子)	該当しない
全体		396	4.0%	79.8%	13.9%	2.3%	
性別	男性	161	3.7%	77.6%	15.5%	3.1%	
	女性	225	4.4%	81.3%	12.9%	1.3%	
	無回答	10	0.0%	80.0%	10.0%	10.0%	
年代	20歳代	13	0.0%	53.8%	38.5%	7.7%	
	30歳代	37	0.0%	86.5%	13.5%	0.0%	
	40歳代	53	3.8%	75.5%	17.0%	3.8%	

	50歳代	69	2.9%	79.7%	14.5%	2.9%	
	60歳代	118	5.9%	81.4%	11.9%	0.8%	
	70歳以上	102	3.9%	81.4%	11.8%	2.9%	
	無回答	4	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%	
居住地区	瑞穂地区	90	5.6%	82.2%	12.2%	0.0%	
	山辺地区	72	2.8%	76.4%	18.1%	2.8%	
	大網地区	88	5.7%	79.5%	12.5%	2.3%	
	増穂地区	86	3.5%	76.7%	16.3%	3.5%	
	白里地区	58	1.7%	84.5%	10.3%	3.4%	
	無回答	2	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	

③食事のあとかたづけ

年代別でみると、20歳代では、「夫」が「食事のあとかたづけ」を行っている割合は0%であるが、70歳以上では13.7%で他の年代に比べ、約2倍になっている。

地区別でみると、「夫」が「食事のあとかたづけ」を行っている割合が最も低いのは、「瑞穂地区(4.5%)」で、最も高いのは、「山辺地区(11.1%)」となっている。

		回答合計	夫	妻	家族で分担	家族 (親・子)	該当しない
全体		394	8.1%	61.2%	27.4%	3.3%	
性別	男性	160	13.1%	50.6%	31.9%	4.4%	
	女性	224	4.9%	68.3%	25.0%	1.8%	
	無回答	10	0.0%	70.0%	10.0%	20.0%	
年代	20歳代	13	0.0%	46.2%	53.8%	0.0%	
	30歳代	37	8.1%	48.6%	43.2%	0.0%	
	40歳代	52	5.8%	50.0%	38.5%	5.8%	
	50歳代	68	5.9%	63.2%	25.0%	5.9%	
	60歳代	118	5.9%	71.2%	20.3%	2.5%	
	70歳以上	102	13.7%	59.8%	23.5%	2.9%	
	無回答	4	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%	
居住地区	瑞穂地区	89	4.5%	65.2%	29.2%	1.1%	
	山辺地区	72	11.1%	54.2%	31.9%	2.8%	
	大網地区	88	6.8%	65.9%	21.6%	5.7%	
	増穂地区	85	10.6%	58.8%	27.1%	3.5%	
	白里地区	58	8.6%	60.3%	27.6%	3.4%	
	無回答	2	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	

④食料品・日用品の買物

年代別でみると、20歳代では、「夫」が「食料品・日用品の買物」を行っている割合は0%であるが年代があがるにつれ、割合が増加している。

地区別でみると、「夫」が「食料品・日用品の買物」を行っている割合が最も高いのは、「増穂地区（8.2%）」で、最も低いのは、「白里地区（1.7%）」となっている。

		回答合計	夫	妻	家族で分担	家族 (親・子)	該当しない
全体		393	6.1%	59.0%	31.0%	3.8%	
性別	男性	160	10.0%	49.4%	36.3%	4.4%	
	女性	223	3.1%	67.3%	27.4%	2.2%	
	無回答	10	10.0%	30.0%	30.0%	30.0%	
年代	20歳代	13	0.0%	53.8%	46.2%	0.0%	
	30歳代	37	2.7%	51.4%	45.9%	0.0%	
	40歳代	53	3.8%	62.3%	30.2%	3.8%	
	50歳代	69	4.3%	62.3%	30.4%	2.9%	
	60歳代	118	6.8%	62.7%	24.6%	5.9%	
	70歳以上	99	9.1%	54.5%	32.3%	4.0%	
	無回答	4	25.0%	50.0%	25.0%	0.0%	
居住地区	瑞穂地区	90	5.6%	56.7%	32.2%	5.6%	
	山辺地区	71	7.0%	56.3%	33.8%	2.8%	
	大網地区	87	5.7%	56.3%	33.3%	4.6%	
	増穂地区	85	8.2%	61.2%	25.9%	4.7%	
	白里地区	58	1.7%	67.2%	31.0%	0.0%	
	無回答	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	

⑤洗濯

年代別でみると、70歳以上では「夫」が「洗濯」を行っている割合が8.8%で最も高く、次いで、20歳代の7.7%となっている。

地区別でみると、「夫」が「洗濯」を行っている割合が最も高いのは「山辺地区（6.9%）」で、最も低いのは「増穂地区（2.3%）」となっている。

		回答合計	夫	妻	家族で分担	家族 (親・子)	該当しない
全体		396	4.3%	75.3%	18.2%	2.3%	
性別	男性	161	5.6%	68.9%	23.0%	2.5%	
	女性	225	3.6%	80.0%	14.7%	1.8%	
	無回答	10	0.0%	70.0%	20.0%	10.0%	
年代	20歳代	13	7.7%	38.5%	53.8%	0.0%	
	30歳代	37	2.7%	67.6%	27.0%	2.7%	
	40歳代	53	1.9%	75.5%	18.9%	3.8%	
	50歳代	69	2.9%	65.2%	29.0%	2.9%	

	60歳代	118	2.5%	84.7%	11.9%	0.8%
	70歳以上	102	8.8%	77.5%	10.8%	2.9%
	無回答	4	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	90	3.3%	76.7%	18.9%	1.1%
	山辺地区	72	6.9%	68.1%	23.6%	1.4%
	大網地区	88	3.4%	79.5%	13.6%	3.4%
	増穂地区	86	2.3%	76.7%	18.6%	2.3%
	白里地区	58	5.2%	74.1%	17.2%	3.4%
	無回答	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%

⑥掃除

年代別でみると、「夫」が「掃除」を行っている割合が最も高いのは、70歳以上の9.8%で、他の年代の約2倍となっている。また、20歳代の「夫」が「掃除」を行っている割合は0%である。一方、「妻」が「掃除」を行っている割合が最も高いのは、60歳代で72.0%となっている。

地区別にみると、「夫」が「掃除」を行っている割合が最も高いのは、「増穂地区」で10.5%、最も低いのは「山辺地区」で2.8%となっている。

		回答合計	夫	妻	家族で分担	家族 (親・子)	該当しない
全体		395	6.3%	61.8%	30.1%	1.8%	
性別	男性	160	7.5%	53.1%	36.3%	3.1%	
	女性	225	5.3%	68.4%	25.3%	0.9%	
	無回答	10	10.0%	50.0%	40.0%	0.0%	
年代	20歳代	13	0.0%	53.8%	46.2%	0.0%	
	30歳代	37	5.4%	59.5%	35.1%	0.0%	
	40歳代	52	5.8%	51.9%	36.5%	5.8%	
	50歳代	69	5.8%	59.4%	31.9%	2.9%	
	60歳代	118	5.1%	72.0%	21.2%	1.7%	
	70歳以上	102	9.8%	56.9%	33.3%	0.0%	
	無回答	4	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	
居住地区	瑞穂地区	90	3.3%	65.6%	30.0%	1.1%	
	山辺地区	72	2.8%	63.9%	31.9%	1.4%	
	大網地区	87	6.9%	60.9%	31.0%	1.1%	
	増穂地区	86	10.5%	54.7%	31.4%	3.5%	
	白里地区	58	6.9%	65.5%	25.9%	1.7%	
	無回答	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	

⑦ごみ出し

年代別でみると、30歳代、70歳以上では「夫」が「ごみ出し」を行っている割合が「妻」が行っている割合より高く、約半数となっている。

地区別でみると、「夫」が「ごみ出し」を行っている割合が最も高いのは「増穂地区」の40.0%で「妻」が「ごみ出し」を行っている割合が最も高いのは「白里地区」の47.4%となっている。

		回答合計	夫	妻	家族で分担	家族 (親・子)	該当しない
全体		393	36.6%	39.7%	20.1%	3.6%	
性別	男性	160	39.4%	31.9%	23.8%	5.0%	
	女性	223	34.1%	45.3%	18.4%	2.2%	
	無回答	10	50.0%	40.0%	0.0%	10.0%	
年代	20歳代	12	25.0%	33.3%	25.0%	16.7%	
	30歳代	37	48.6%	29.7%	21.6%	0.0%	
	40歳代	53	22.6%	49.1%	22.6%	5.7%	
	50歳代	69	24.6%	44.9%	26.1%	4.3%	
	60歳代	116	38.8%	39.7%	19.0%	2.6%	
	70歳以上	102	45.1%	37.3%	14.7%	2.9%	
	無回答	4	75.0%	0.0%	25.0%	0.0%	
居住地区	瑞穂地区	90	37.8%	35.6%	24.4%	2.2%	
	山辺地区	72	37.5%	38.9%	20.8%	2.8%	
	大網地区	87	35.6%	41.4%	20.7%	2.3%	
	増穂地区	85	40.0%	37.6%	18.8%	3.5%	
	白里地区	57	29.8%	47.4%	14.0%	8.8%	
	無回答	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	

⑧簡単な家の修繕

年代別でみると、「夫」が「簡単な家の修繕」を行っている割合が最も高いのは、70歳以上の79.2%で、次いで、20歳以上の76.9%となっており、20歳代の「夫」が行っている家事としては、「簡単な家の修繕」が最も高くなっている。また、すべての家事の項目の中で「妻」が行う割合が最も低くなっている。

地区別でみると、「夫」が「簡単な家の修繕」行っている割合が最も高いのは、「大網地区」の75.9%で、次いで「白里地区」の72.4%となっている。

		回答合計	夫	妻	家族で分担	家族 (親・子)	該当しない
全体		392	70.2%	11.2%	14.0%	2.8%	1.8%
性別	男性	161	77.6%	8.7%	9.3%	3.7%	0.6%
	女性	221	65.6%	13.1%	18.1%	1.8%	1.4%
	無回答	10	50.0%	10.0%	0.0%	10.0%	30.0%

年代	20歳代	13	76.9%	0.0%	15.4%	7.7%	0.0%
	30歳代	36	72.2%	8.3%	19.4%	0.0%	0.0%
	40歳代	53	58.5%	17.0%	13.2%	7.5%	3.8%
	50歳代	69	63.8%	17.4%	15.9%	2.9%	0.0%
	60歳代	116	70.7%	9.5%	16.4%	2.6%	0.9%
	70歳以上	101	79.2%	6.9%	8.9%	1.0%	4.0%
	無回答	4	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	89	66.3%	13.5%	18.0%	0.0%	2.2%
	山辺地区	71	63.4%	14.1%	15.5%	5.6%	1.4%
	大網地区	87	75.9%	6.9%	12.6%	2.3%	2.3%
	増穂地区	85	71.8%	12.9%	12.9%	2.4%	0.0%
	白里地区	58	72.4%	8.6%	10.3%	5.2%	3.4%
	無回答	2	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

⑨子どもの日常の世話

年代別でみると、子育て世代である20歳代及び40歳代の「夫」が「子どもの日常の世話」を行っている割合は0%となっているが、20歳代では「家族で分担」が53.8%となっており、子育てを家族で分担して行っているのに対し、40歳代では「妻」が58.5%となっており、「妻」の負担が大きいことが伺える。また、「妻」が「子どもの日常の世話」を行っている割合が最も高かったのは30歳代の59.5%となっている。

地区別でみると、「妻」が「子どもの日常の世話」を行っている割合が高いのは、「山辺地区」の51.5%となっている。

		回答合計	夫	妻	家族で分担	家族 (親・子)	該当しない
全体		384	1.0%	37.5%	16.4%	3.1%	41.9%
性別	男性	158	1.3%	27.8%	23.4%	4.4%	43.0%
	女性	216	0.9%	44.9%	12.0%	1.4%	40.7%
	無回答	10	0.0%	30.0%	0.0%	20.0%	50.0%
年代	20歳代	13	0.0%	15.4%	53.8%	0.0%	30.8%
	30歳代	37	2.7%	59.5%	18.9%	2.7%	16.2%
	40歳代	53	0.0%	58.5%	26.4%	3.8%	11.3%
	50歳代	69	1.4%	49.3%	23.2%	2.9%	23.2%
	60歳代	114	0.9%	30.7%	9.6%	3.5%	55.3%
	70歳以上	94	1.1%	20.2%	8.5%	3.2%	67.0%
	無回答	4	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	75.0%
居住地区	瑞穂地区	89	0.0%	37.1%	14.6%	1.1%	47.2%
	山辺地区	68	1.5%	51.5%	20.6%	4.4%	22.1%
	大網地区	86	1.2%	33.7%	12.8%	1.2%	51.2%
	増穂地区	83	2.4%	34.9%	18.1%	3.6%	41.0%
	白里地区	57	0.0%	29.8%	17.5%	7.0%	45.6%
	無回答	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%

⑩家族の看護・介護

年代別でみると、「妻」が「家族の看護・介護」を行っている割合が最も高いのは、50歳代で40.6%となっており、「家族で分担」の割合も29.0%で最も高くなっている。

地区別でみると、「妻」が「家族の看護・介護」を行っている割合が最も高いのは、「山辺地区」の44.9%となっている。

		回答合計	夫	妻	家族で分担	家族 (親・子)	該当しない
全体		384	1.6%	30.2%	17.2%	1.6%	49.5%
性別	男性	158	1.9%	20.3%	22.2%	1.9%	53.8%
	女性	216	1.4%	36.6%	14.4%	0.9%	46.8%
	無回答	10	0.0%	50.0%	0.0%	10.0%	40.0%
年代	20歳代	13	0.0%	15.4%	7.7%	0.0%	76.9%
	30歳代	37	0.0%	32.4%	16.2%	2.7%	48.6%
	40歳代	53	1.9%	35.8%	22.6%	3.8%	35.8%
	50歳代	69	1.4%	40.6%	29.0%	1.4%	27.5%
	60歳代	114	1.8%	28.9%	9.6%	0.0%	59.6%
	70歳以上	94	2.1%	21.3%	17.0%	2.1%	57.4%
	無回答	4	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%
居住地区	瑞穂地区	89	0.0%	30.3%	19.1%	1.1%	49.4%
	山辺地区	69	1.4%	44.9%	17.4%	1.4%	34.8%
	大網地区	85	2.4%	30.6%	9.4%	1.2%	56.5%
	増穂地区	82	2.4%	20.7%	18.3%	2.4%	56.1%
	白里地区	58	1.7%	24.1%	24.1%	1.7%	48.3%
	無回答	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%

⑪地域行事等への参加

年代別でみると、「夫」が「地域行事等への参加」を行っている割合が20歳代では0%で、すべての年代において最も低くなっている。

地区別でみると、「夫」が「地域行事等への参加」を行っている割合が最も高いのは「増穂地区」で52.4%となっている。

		回答合計	夫	妻	家族で分担	家族 (親・子)	該当しない
全体		391	39.1%	21.2%	24.6%	2.8%	12.3%
性別	男性	161	41.6%	16.8%	24.2%	5.0%	12.4%
	女性	220	35.5%	25.0%	25.5%	1.4%	12.7%
	無回答	10	80.0%	10.0%	10.0%	0.0%	0.0%
年代	20歳代	13	0.0%	23.1%	38.5%	7.7%	30.8%
	30歳代	37	21.6%	24.3%	27.0%	0.0%	27.0%
	40歳代	53	28.3%	26.4%	26.4%	7.5%	11.3%
	50歳代	69	37.7%	26.1%	29.0%	1.4%	5.8%

	60 歳代	116	40.5%	20.7%	22.4%	2.6%	13.8%
	70 歳以上	99	54.5%	14.1%	21.2%	2.0%	8.1%
	無回答	4	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	90	33.3%	18.9%	33.3%	1.1%	13.3%
	山辺地区	72	36.1%	29.2%	25.0%	5.6%	4.2%
	大網地区	87	36.8%	23.0%	17.2%	4.6%	18.4%
	増穂地区	84	52.4%	20.2%	15.5%	0.0%	11.9%
	白里地区	57	35.1%	14.0%	35.1%	3.5%	12.3%
	無回答	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

【仕事について】

問4 女性が仕事をもち続けるうえで、障害となっているものは何だと思えますか。

【全体】

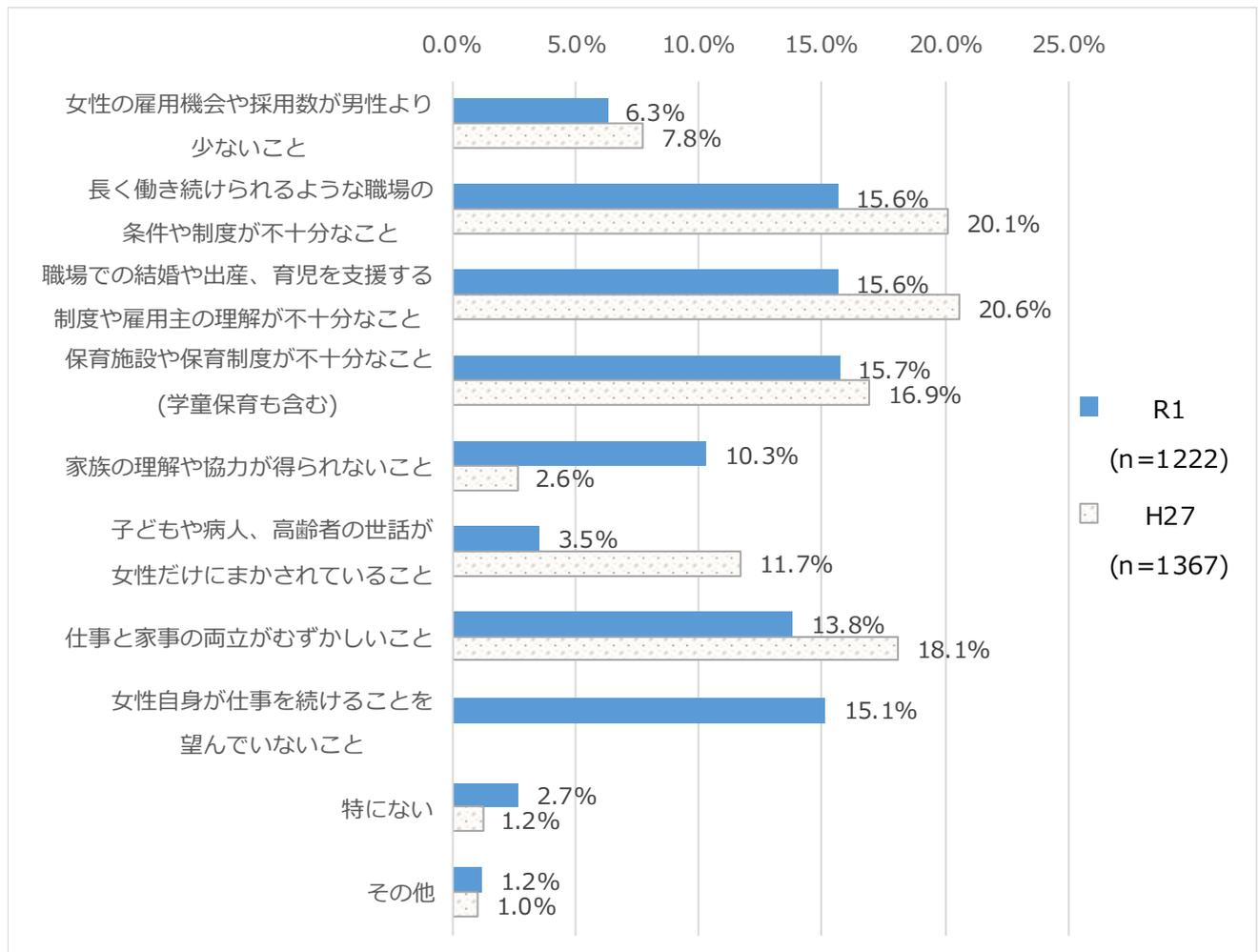
「長く働き続けられるような職場の条件や制度が不十分なこと（15.6%）」、「職場での結婚や出産、育児を支援する制度や雇用主の理解が不十分なこと（15.6%）」、「保育施設や保育制度が不十分なこと（学童保育も含む）（15.7%）」がほぼ同じ割合となっている。

また、「仕事と家事の両立がむずかしいこと（13.8%）」、「女性自身が仕事を続けることを望んでいないこと（15.1%）」という割合も高く、必ずしもすべての女性が仕事をもち続けることを望んでいないことが伺える。

【前回との比較】

前回の調査と比較すると、最も低下した項目は「子どもや病人、高齢者の世話が女性だけにまかされていること」が8.2ポイントで、最も高くなっている項目は「家族の理解や協力が得られないこと」の7.7ポイントとなっている。

図表4 女性が仕事をもち続けるうえで、障害となっているもの



※「女性自身が仕事を続けることを望んでいないこと」の項目は今回の調査で追加

(その他意見)

- ・PTA 役員になった場合、学校の PTA 業務や PTA 連協からの強制的な動員要請。
- ・女性の仕事に対する意識の低さ。
- ・パートで働いていたが時間外が多かった。
- ・特に夫側の親族（義父母）の考え方や行動。しょっちゅう遊びに来る等、意識を変えないと嫁の負担ばかり増加する。
- ・家事のサポート制度が足りないこと。“仕事と家庭の両立”をしなければいけないと思いきな気がします。
- ・給与の底上げが必要。
- ・短時間の求人が少ない。
- ・年齢が高齢になるほど職種が限られてしまう。
- ・妻が働いたことがない。

【属性別】

性別でみると、男性では「職場での結婚や出産、育児を支援する制度や雇用主の理解が不十分なこと」が 17.5%で最も高く、女性では「仕事と家事の両立が難しいこと」が 16.7%で最も高くなっている。

年代別でみると、各年代により求めるものが変化しており、20歳代と30歳代では職場の制度や理解、保育施設や保育制度への希望が高い傾向にある。一方、40歳代では、「女性自身が仕事を続けることを望んでいないこと」が 19.1%で最も高くなっている。

		回答合計	男性より少ないこと	女性の雇用機会や採用数が条件や制度が不十分なこと	長く働き続けられるような職場の制度や雇用主の理解が不十分なこと	職場での結婚や出産、育児を支援する制度や雇用主の理解が不十分なこと (学童保育も含む)	保育施設や保育制度が不十分なこと	家族の理解や協力が得られないこと	子どもや病人、高齢者の世話が女性だけにまかされていること	仕事と家事の両立がむずかしいこと	女性自身が仕事を続けることを望んでいないこと	特になし	その他
	全体	1222	6.3%	15.6%	15.6%	15.7%	10.3%	3.5%	13.8%	15.1%	2.7%	1.2%	
性別	男性	527	9.5%	16.1%	17.5%	16.1%	10.4%	2.7%	10.1%	13.9%	3.0%	0.8%	
	女性	670	3.9%	15.1%	14.2%	15.4%	10.6%	4.2%	16.7%	16.0%	2.5%	1.5%	
	無回答	22	4.5%	18.2%	13.6%	13.6%	0.0%	4.5%	18.2%	22.7%	0.0%	4.5%	
年代	20歳代	83	2.4%	16.9%	21.7%	20.5%	7.2%	1.2%	12.0%	15.7%	2.4%	0.0%	
	30歳代	146	4.8%	17.1%	18.5%	24.0%	4.8%	1.4%	14.4%	13.0%	1.4%	0.7%	
	40歳代	157	3.8%	12.7%	13.4%	17.2%	8.3%	5.7%	13.4%	19.1%	5.7%	0.6%	
	50歳代	200	6.5%	15.0%	12.5%	14.5%	11.0%	6.0%	16.5%	14.5%	3.0%	0.5%	
	60歳代	339	5.9%	15.0%	17.7%	14.7%	10.6%	2.7%	16.2%	13.0%	2.1%	2.1%	
	70歳以上	272	9.2%	16.5%	13.6%	11.4%	14.7%	3.7%	9.6%	16.9%	2.6%	1.8%	
	無回答	12	25.0%	16.7%	16.7%	8.3%	8.3%	0.0%	16.7%	8.3%	0.0%	0.0%	

居住地区	瑞穂地区	285	5.6%	18.6%	14.7%	17.5%	10.9%	3.5%	11.9%	13.0%	3.9%	0.4%
	山辺地区	215	6.0%	15.8%	18.6%	15.3%	10.2%	4.2%	14.0%	14.4%	0.5%	0.9%
	大網地区	270	6.7%	13.0%	16.7%	15.9%	10.7%	3.0%	14.4%	15.9%	3.3%	0.4%
	増穂地区	257	6.6%	17.1%	15.6%	17.5%	9.3%	2.7%	11.3%	16.0%	1.9%	1.9%
	白里地区	186	6.5%	12.9%	12.4%	10.2%	10.2%	4.8%	18.8%	17.2%	3.8%	3.2%
	無回答	6	16.7%	16.7%	16.7%	16.7%	16.7%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%

問5 男女とも仕事と家庭の両立をしていくためには、どのような環境整備が必要だと思いますか。

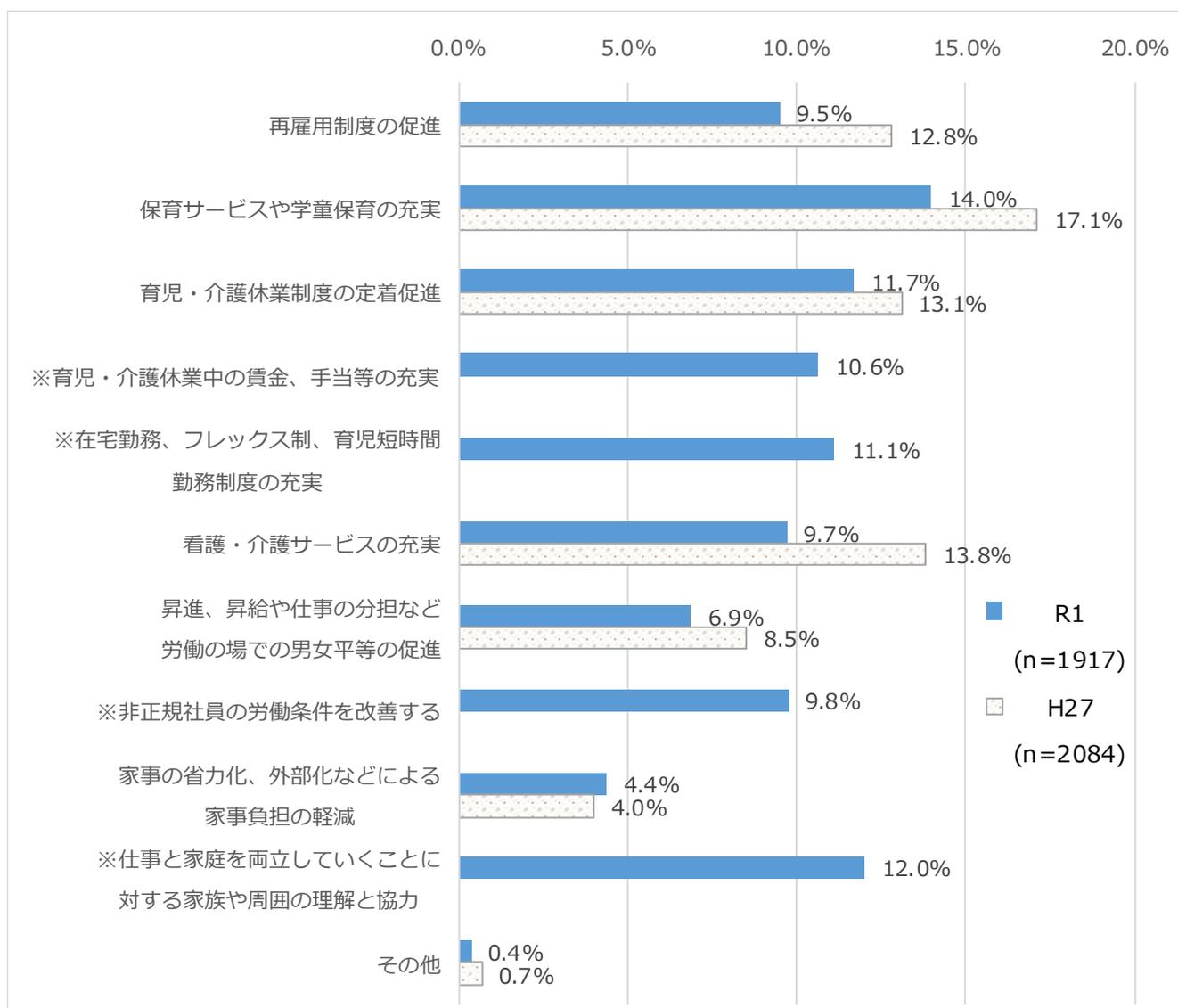
【全体】

「保育サービスや学童保育の充実」が14.0%で最も高く、次いで「仕事と家庭を両立していくことに対する家族や周囲の理解と協力」が12.0%となっている。

【前回との比較】

今回の調査では、前回の調査の選択肢を踏襲しつつも、新たな選択肢を追加していることから、一概に比較することはできないが、「保育サービスや学童保育の充実」が前回と同様に最も高くなっていることから、引き続き「保育サービスや学童保育の充実」の必要性が高いことが伺える。

図表5 仕事と家庭の両立のために必要な環境



※の項目は今回の調査で追加。

(その他意見)

- ・学校の夏休みの短縮や学校行事の短時間化など。
- ・男性の育児休暇、介護休暇を許容すべき。
- ・雇用者側の意識の改善。ブランクがあっても受け入れてその人を育てる考えを持ってほしい。学校側の意識改善も必須。PTA 活動は本当に必要か？PTA や他の役員活動のために会社に休暇はたくさん頼めない。授業参観も年に2回でいい。
- ・女性の収入増。
- ・家事能力を男性も持ち、担うこと。
- ・子が病気の時でも預けることができる場所。
- ・男性の意識改善。

【属性別】

性別でみると、男女とも最も高いのは「保育サービスや学童保育の充実」であるが、次いで、男性では「育児・介護休業制度の定着促進（12.3%）」で、女性では「仕事と家庭を両立していくことに対する家族や周囲の理解と協力（13.2%）」となっている。

年代別でみると、50歳代では「看護・介護サービスの充実（12.7%）」、70歳以上では「再雇用制度の促進（13.7%）」が最も高くなっている。

地区別でみると、「増穂地区」の「非正規社員の労働条件を改善する」が11.0%で、他の地区に比べ、高い割合となっている。

	回答合計	再雇用制度の促進	保育サービスや学童保育の充実	育児・介護休業制度の定着促進	育児・介護休業中の賃金、手当等の充実	在宅勤務、フレックス制、育児短時間勤務制度の充実	看護・介護サービスの充実	昇進、昇給や仕事の分担など労働の場での男女平等の促進	非正規社員の労働条件を改善する	家事負担の軽減 家事の省力化、外部化などによる	仕事と家庭を両立していくことに対する家族や周囲の理解と協力	その他	
全体	1917	9.5%	14.0%	11.7%	10.6%	11.1%	9.7%	6.9%	9.8%	4.4%	12.0%	0.4%	
性別	男性	829	10.5%	13.8%	12.3%	11.6%	9.9%	10.1%	7.1%	10.5%	3.9%	10.0%	0.4%
	女性	1057	8.5%	14.4%	11.3%	10.1%	12.2%	9.2%	6.7%	9.2%	4.8%	13.2%	0.4%
	無回答	31	16.1%	6.5%	9.7%	3.2%	6.5%	16.1%	6.5%	9.7%	3.2%	22.6%	0.0%
年代	20歳代	132	8.3%	17.4%	14.4%	16.7%	12.9%	3.0%	5.3%	6.8%	4.5%	10.6%	0.0%
	30歳代	249	5.6%	18.1%	12.4%	14.5%	13.3%	4.8%	7.6%	7.2%	6.8%	9.6%	0.0%
	40歳代	243	8.6%	13.6%	10.7%	10.7%	13.6%	9.1%	7.8%	7.4%	5.8%	11.1%	1.6%
	50歳代	323	8.4%	12.4%	9.9%	11.1%	12.4%	12.7%	5.6%	10.8%	4.0%	11.8%	0.9%
	60歳代	523	9.2%	14.9%	12.8%	8.8%	9.8%	10.9%	5.9%	10.7%	3.3%	13.8%	0.0%
	70歳以上	417	13.7%	11.0%	11.3%	8.2%	8.6%	11.5%	8.2%	11.5%	3.4%	12.7%	0.0%
	無回答	30	13.3%	10.0%	6.7%	13.3%	10.0%	6.7%	13.3%	10.0%	10.0%	6.7%	0.0%

居住地区	瑞穂地区	431	9.5%	13.9%	10.9%	10.4%	13.5%	10.4%	6.7%	9.7%	3.9%	10.7%	0.2%
	山辺地区	372	8.9%	13.7%	12.6%	10.8%	11.6%	8.1%	7.0%	9.1%	5.9%	12.1%	0.3%
	大網地区	412	10.4%	14.6%	12.9%	10.9%	11.9%	8.3%	5.8%	9.2%	3.4%	11.9%	0.7%
	増穂地区	408	8.8%	15.0%	11.3%	10.8%	9.3%	9.6%	8.1%	11.0%	3.7%	12.3%	0.2%
	白里地区	285	9.5%	12.6%	10.5%	10.5%	8.1%	13.0%	7.0%	9.1%	5.6%	13.7%	0.4%
	無回答	3	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%

問6 女性の働き方について、次のどれが望ましいと思いますか。

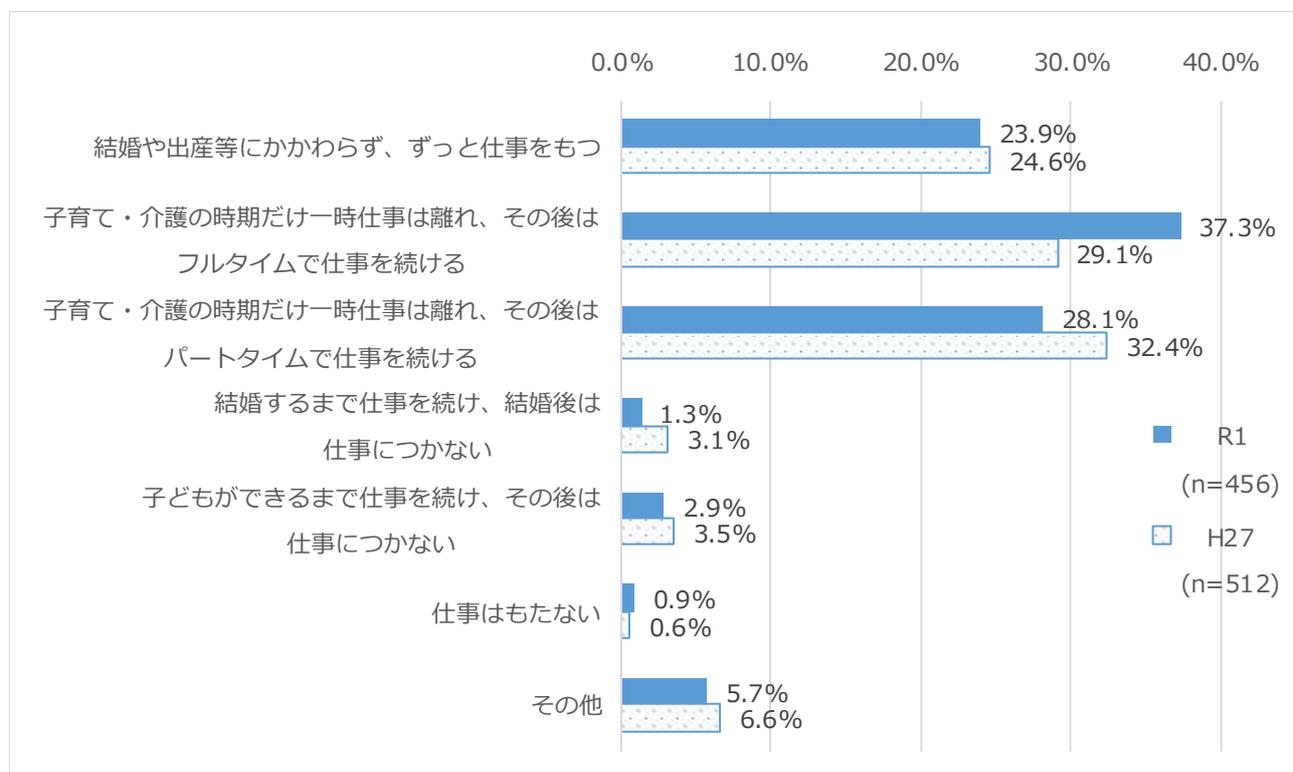
【全体】

「子育て・介護の時期だけ一時仕事は離れ、その後はフルタイムで仕事を続ける」が37.3%で最も高く、「子育て・介護の時期だけ一時仕事は離れ、その後はパートタイムで仕事を続ける」の28.1%を上回っている。

【前回との比較】

前回の調査では、「子育て・介護の時期だけ一時仕事は離れ、その後はパートタイムで仕事を続ける」が「子育て・介護の時期だけ一時仕事は離れ、その後はフルタイムで仕事を続ける」を上回っていたが、今回の調査では、逆転している。

図表6 女性の望ましい働き方



(その他意見)

- ・それは、その人それぞれだからどれが望ましいとは言えない。
- ・仕事を続けるかどうかは各々で決める自由だと思う。
- ・働くかそうでないかは個人差があって決められない。
- ・個々人の考え方で違いがあるので個々にお任せです。
- ・人それぞれである。違って当たり前。望ましいと他人が決めるものではないと思う。
- ・各人それぞれで良いと思う。
- ・人それぞれで、その人が望む働き方でよいと思う。
- ・状況や必要性に応じて自由に。
- ・収入がほしい人、仕事が好き人、主婦が好きな人等人により違うと思う。

- ・環境によって変化。
- ・人それぞれ。
- ・本人の意思で1～6すべてが選択できること。
- ・その時期の状況によると思う。
- ・その家庭にあった働き方が出来るのがよい。
- ・持たずとも生活が出来る状況にすること。日本は女が働くことばかりなので、男の賃金で十分家族が生活できるようにする。世帯主が女なら女のみで生活できるようにする。出産は女しか出来ない。子どもをたくさん生ませたいなら女は安心して家にいられるようにする。
- ・人によると思います。どの選択も出来る、理解されるようになることが大事かと思います。
- ・本人が働く気力があればずっと仕事を続ける。
- ・子育て、介護の時期一時仕事を離れ、後に状況により仕事環境を選択する。
- ・個人の希望によりそれぞれの選択ができること、望ましい働き方というものには存在しない。
- ・人それぞれの働き方があると思う。
- ・その人が望む働き方で働けること。
- ・2か3だがケースバイケースで一概には決められない。
- ・人によって違うと思うので選べません。
- ・やれる人はやればいいし、やらない人はやらないと思う。
- ・それぞれ個人がやりやすい形をとれるのが望ましい。
- ・働きたい人は働く。

【属性別】

性別でみると、男女とも「子育て・介護の時期だけ一時仕事は離れ、その後はフルタイムで仕事を続ける」が最も高くなっている。

年代別でみると、20歳代、30歳代で「子育て・介護の時期だけ一時仕事は離れ、その後はパートタイムで仕事を続ける」の割合が高いのに対し、40歳代以上では、「子育て・介護の時期だけ一時仕事は離れ、その後はフルタイムで仕事を続ける」の割合が高くなっている。

地区別でみると、地区による大きな差異はないが、「瑞穂地区」では、「結婚や出産にかかわらずずっと仕事をもつ(26.9%)」が2番目に高く、他の地区に比べ最も高くなっている。

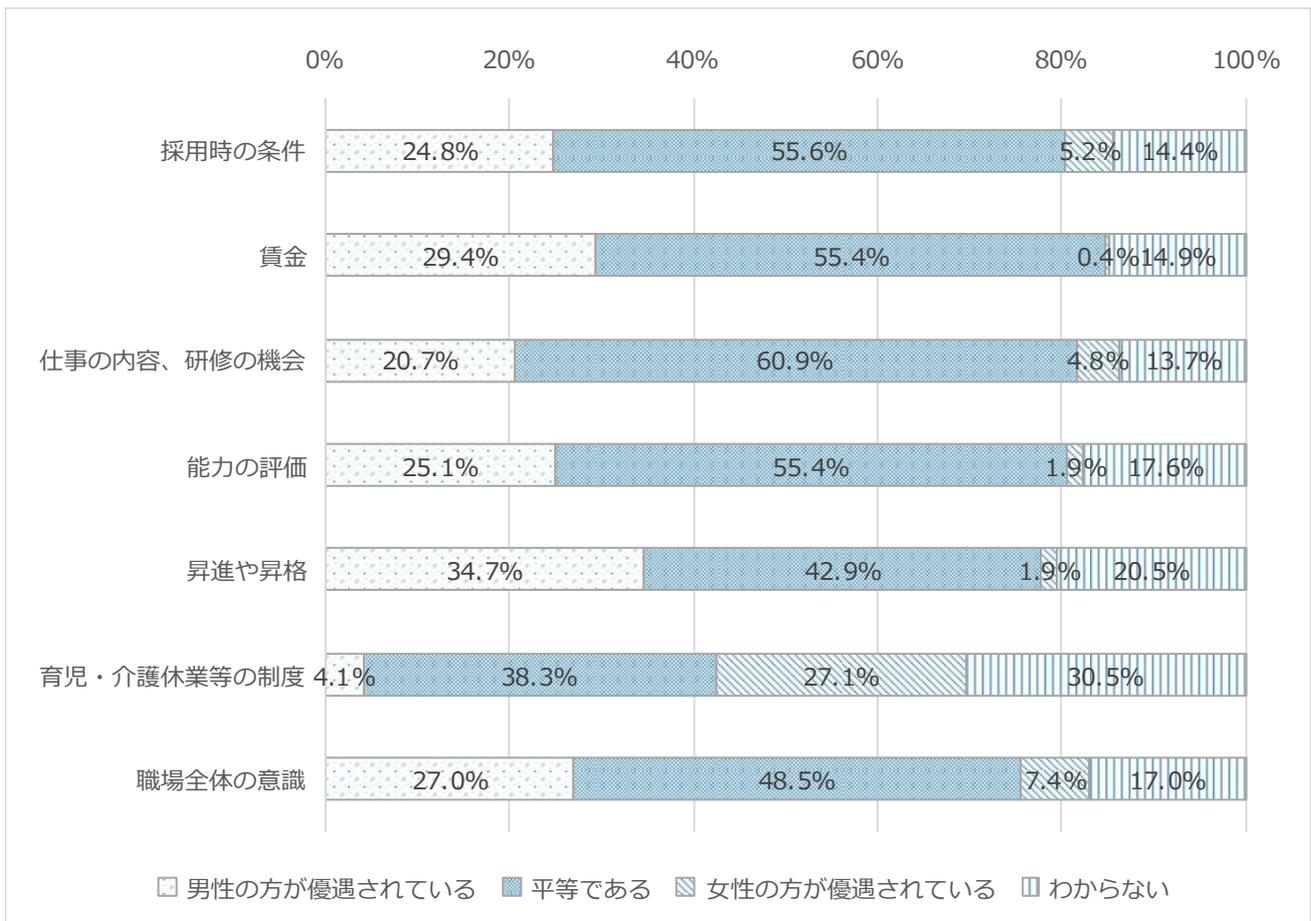
		回答合計	結婚や出産等にかかわらず、 ずっと仕事をもち	子育て・介護の時期だけ一時仕事は離れ、 その後はフルタイムで仕事を続ける	子育て・介護の時期だけ一時仕事は離れ、 その後はパートタイムで仕事を続ける	仕事につかない	結婚するまで仕事をもち、結婚後は 仕事につかない	子どもができるまで仕事をもち、 その後は仕事につかない	仕事はもたない	その他
全体		456	23.9%	37.3%	28.1%	1.3%	2.9%	0.9%	5.7%	
性別	男性	195	21.0%	42.1%	28.2%	0.5%	3.6%	1.0%	3.6%	
	女性	251	26.7%	33.1%	27.9%	2.0%	2.4%	0.4%	7.6%	
	無回答	10	10.0%	50.0%	30.0%	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%	
年代	20歳代	30	16.7%	30.0%	36.7%	3.3%	6.7%	0.0%	6.7%	
	30歳代	53	22.6%	26.4%	34.0%	0.0%	9.4%	0.0%	7.5%	
	40歳代	59	23.7%	39.0%	27.1%	0.0%	1.7%	3.4%	5.1%	
	50歳代	78	29.5%	32.1%	28.2%	0.0%	1.3%	0.0%	9.0%	
	60歳代	127	22.0%	41.7%	26.8%	1.6%	2.4%	0.0%	5.5%	
	70歳以上	105	23.8%	42.9%	24.8%	2.9%	1.0%	1.9%	2.9%	
	無回答	4	50.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
居住地区	瑞穂地区	104	26.9%	36.5%	26.0%	1.9%	1.9%	1.0%	5.8%	
	山辺地区	79	24.1%	36.7%	29.1%	2.5%	1.3%	1.3%	5.1%	
	大網地区	100	21.0%	31.0%	32.0%	2.0%	4.0%	2.0%	8.0%	
	増穂地区	98	23.5%	41.8%	25.5%	0.0%	3.1%	0.0%	6.1%	
	白里地区	73	23.3%	41.1%	28.8%	0.0%	4.1%	0.0%	2.7%	
	無回答	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

問7 あなたの職場では、男女の地位はどのようになっていますか。

【全体】

全体的に「平等である」の割合が高くなっており、「仕事の内容、研修の機会」が60.9%で最も高くなっている。「育児・介護休業等の制度」については、「女性の方が優遇されている」が27.1%となっており、その他の項目に比べて最も高くなっている。

図表7 職場での男女の地位



【属性別】

性別で見ると、男女とも「仕事の内容、研修の機会」において、「平等である」が高くなっている。「賃金」においては、男性の「平等である」は62.0%で、女性の「平等である」は49.6%で、男性に比べ女性が12.4ポイントも低くなっている。

年代別で見ると、40歳代では、「仕事の内容・研修の機会」において「平等である」の割合が70.8%と最も高く、その他の項目においても「平等である」の割合が高い傾向にある。

地区別で見ると、「瑞穂地区」ではどの項目においても、「平等である」の割合が高い傾向にある。

①採用時の条件

		回答合計	男性の方が優遇されている	平等である	女性の方が優遇されている	わからない
全体		270	24.8%	55.6%	5.2%	14.4%
性別	男性	130	26.2%	57.7%	3.8%	12.3%
	女性	137	23.4%	53.3%	6.6%	16.8%
	無回答	3	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%
年代	20歳代	25	24.0%	52.0%	12.0%	12.0%
	30歳代	46	30.4%	50.0%	6.5%	13.0%
	40歳代	48	20.8%	62.5%	6.3%	10.4%
	50歳代	68	27.9%	54.4%	1.5%	16.2%
	60歳代	62	19.4%	56.5%	4.8%	19.4%
	70歳以上	18	22.2%	61.1%	5.6%	11.1%
	無回答	3	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	66	27.3%	54.5%	6.1%	12.1%
	山辺地区	45	22.2%	57.8%	4.4%	15.6%
	大網地区	59	20.3%	52.5%	6.8%	20.3%
	増穂地区	57	24.6%	59.6%	5.3%	10.5%
	白里地区	43	30.2%	53.5%	2.3%	14.0%

②賃金

		回答合計	男性の方が優遇されている	平等である	女性の方が優遇されている	わからない
全体		269	29.4%	55.4%	0.4%	14.9%
性別	男性	129	26.4%	62.0%	0.8%	10.9%
	女性	137	32.1%	49.6%	0.0%	18.2%
	無回答	3	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%
年代	20歳代	25	36.0%	48.0%	0.0%	16.0%
	30歳代	46	32.6%	58.7%	0.0%	8.7%
	40歳代	48	25.0%	58.3%	2.1%	14.6%
	50歳代	68	29.4%	55.9%	0.0%	14.7%
	60歳代	61	29.5%	55.7%	0.0%	14.8%
	70歳以上	18	16.7%	50.0%	0.0%	33.3%
	無回答	3	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	66	27.3%	62.1%	1.5%	9.1%
	山辺地区	45	35.6%	55.6%	0.0%	8.9%
	大網地区	59	27.1%	54.2%	0.0%	18.6%
	増穂地区	56	26.8%	53.6%	0.0%	19.6%
	白里地区	43	32.6%	48.8%	0.0%	18.6%

③仕事の内容、研修の機会

		回答合計	男性の方が優遇されている	平等である	女性の方が優遇されている	わからない
全体		271	20.7%	60.9%	4.8%	13.7%
性別	男性	130	17.7%	63.1%	7.7%	11.5%
	女性	137	21.9%	59.9%	2.2%	16.1%
	無回答	4	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%
年代	20歳代	25	12.0%	68.0%	8.0%	12.0%
	30歳代	46	28.3%	58.7%	2.2%	10.9%
	40歳代	48	14.6%	70.8%	6.3%	8.3%
	50歳代	68	25.0%	55.9%	4.4%	14.7%
	60歳代	62	19.4%	58.1%	4.8%	17.7%
	70歳以上	19	10.5%	63.2%	5.3%	21.1%
	無回答	3	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	67	22.4%	62.7%	6.0%	9.0%
	山辺地区	45	17.8%	66.7%	2.2%	13.3%
	大網地区	59	13.6%	69.5%	1.7%	15.3%
	増穂地区	57	21.1%	56.1%	7.0%	15.8%
	白里地区	43	30.2%	46.5%	7.0%	16.3%

④能力の評価

		回答合計	男性の方が優遇されている	平等である	女性の方が優遇されている	わからない
全体		267	25.1%	55.4%	1.9%	17.6%
性別	男性	129	24.8%	58.1%	2.3%	14.7%
	女性	135	25.2%	53.3%	1.5%	20.0%
	無回答	3	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%
年代	20歳代	25	16.0%	56.0%	4.0%	24.0%
	30歳代	46	26.1%	60.9%	0.0%	13.0%
	40歳代	47	23.4%	59.6%	6.4%	10.6%
	50歳代	67	31.3%	53.7%	1.5%	13.4%
	60歳代	62	22.6%	51.6%	0.0%	25.8%
	70歳以上	17	17.6%	52.9%	0.0%	29.4%
	無回答	3	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	66	25.8%	62.1%	1.5%	10.6%
	山辺地区	43	27.9%	60.5%	0.0%	11.6%
	大網地区	58	13.8%	60.3%	3.4%	22.4%
	増穂地区	57	26.3%	49.1%	1.8%	22.8%
	白里地区	43	34.9%	41.9%	2.3%	20.9%

⑤昇進や昇格

		回答合計	男性の方が優遇されている	平等である	女性の方が優遇されている	わからない
全体		268	34.7%	42.9%	1.9%	20.5%
性別	男性	129	33.3%	45.0%	3.9%	17.8%
	女性	136	35.3%	41.9%	0.0%	22.8%
	無回答	3	66.7%	0.0%	0.0%	33.3%
年代	20歳代	25	36.0%	48.0%	0.0%	16.0%
	30歳代	46	39.1%	41.3%	0.0%	19.6%
	40歳代	48	31.3%	52.1%	6.3%	10.4%
	50歳代	67	37.3%	38.8%	3.0%	20.9%
	60歳代	62	30.6%	43.5%	0.0%	25.8%
	70歳以上	17	29.4%	29.4%	0.0%	41.2%
	無回答	3	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	66	36.4%	43.9%	4.5%	15.2%
	山辺地区	44	36.4%	45.5%	0.0%	18.2%
	大網地区	58	36.2%	39.7%	1.7%	22.4%
	増穂地区	57	35.1%	38.6%	0.0%	26.3%
	白里地区	43	27.9%	48.8%	2.3%	20.9%

⑥育児・介護休業等の制度

		回答合計	男性の方が優遇されている	平等である	女性の方が優遇されている	わからない
全体		266	4.1%	38.3%	27.1%	30.5%
性別	男性	129	5.4%	38.8%	26.4%	29.5%
	女性	134	3.0%	37.3%	27.6%	32.1%
	無回答	3	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%
年代	20歳代	24	0.0%	41.7%	29.2%	29.2%
	30歳代	46	4.3%	34.8%	43.5%	17.4%
	40歳代	48	2.1%	47.9%	29.2%	20.8%
	50歳代	67	7.5%	35.8%	19.4%	37.3%
	60歳代	61	3.3%	39.3%	21.3%	36.1%
	70歳以上	17	5.9%	17.6%	29.4%	47.1%
	無回答	3	0.0%	66.7%	0.0%	33.3%
居住地区	瑞穂地区	66	7.6%	31.8%	39.4%	21.2%
	山辺地区	44	2.3%	52.3%	27.3%	18.2%
	大網地区	57	1.8%	31.6%	26.3%	40.4%
	増穂地区	56	3.6%	41.1%	19.6%	35.7%
	白里地区	43	4.7%	39.5%	18.6%	37.2%

⑦職場全体の意識

		回答合計	男性の方が優 遇されている	平等である	女性の方が優 遇されている	わからない
全体		270	27.0%	48.5%	7.4%	17.0%
性別	男性	130	25.4%	50.8%	9.2%	14.6%
	女性	137	28.5%	46.0%	5.8%	19.7%
	無回答	3	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%
年代	20歳代	25	28.0%	52.0%	4.0%	16.0%
	30歳代	46	39.1%	41.3%	4.3%	15.2%
	40歳代	48	20.8%	56.3%	14.6%	8.3%
	50歳代	68	29.4%	44.1%	8.8%	17.6%
	60歳代	62	25.8%	50.0%	4.8%	19.4%
	70歳以上	18	5.6%	50.0%	5.6%	38.9%
	無回答	3	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	66	28.8%	50.0%	7.6%	13.6%
	山辺地区	45	26.7%	55.6%	6.7%	11.1%
	大網地区	59	22.0%	47.5%	11.9%	18.6%
	増穂地区	57	29.8%	43.9%	5.3%	21.1%
	白里地区	43	27.9%	46.5%	4.7%	20.9%

問8 あなたの職場では、有給休暇や育児休業などを取りやすい環境にありますか。

【全体】

有給休暇については、『取得しやすい』（「取りやすい」と「どちらかといえば取りやすい」の合計）が54.7%となり、半数以上となっている。一方、『取得しにくい』（「どちらかといえば取りにくい」と「取りにくい」の合計）は27.6%となっている。

育児休業については、『取得しやすい』は41.4%で、『取得しにくい』は20.3%となっている。

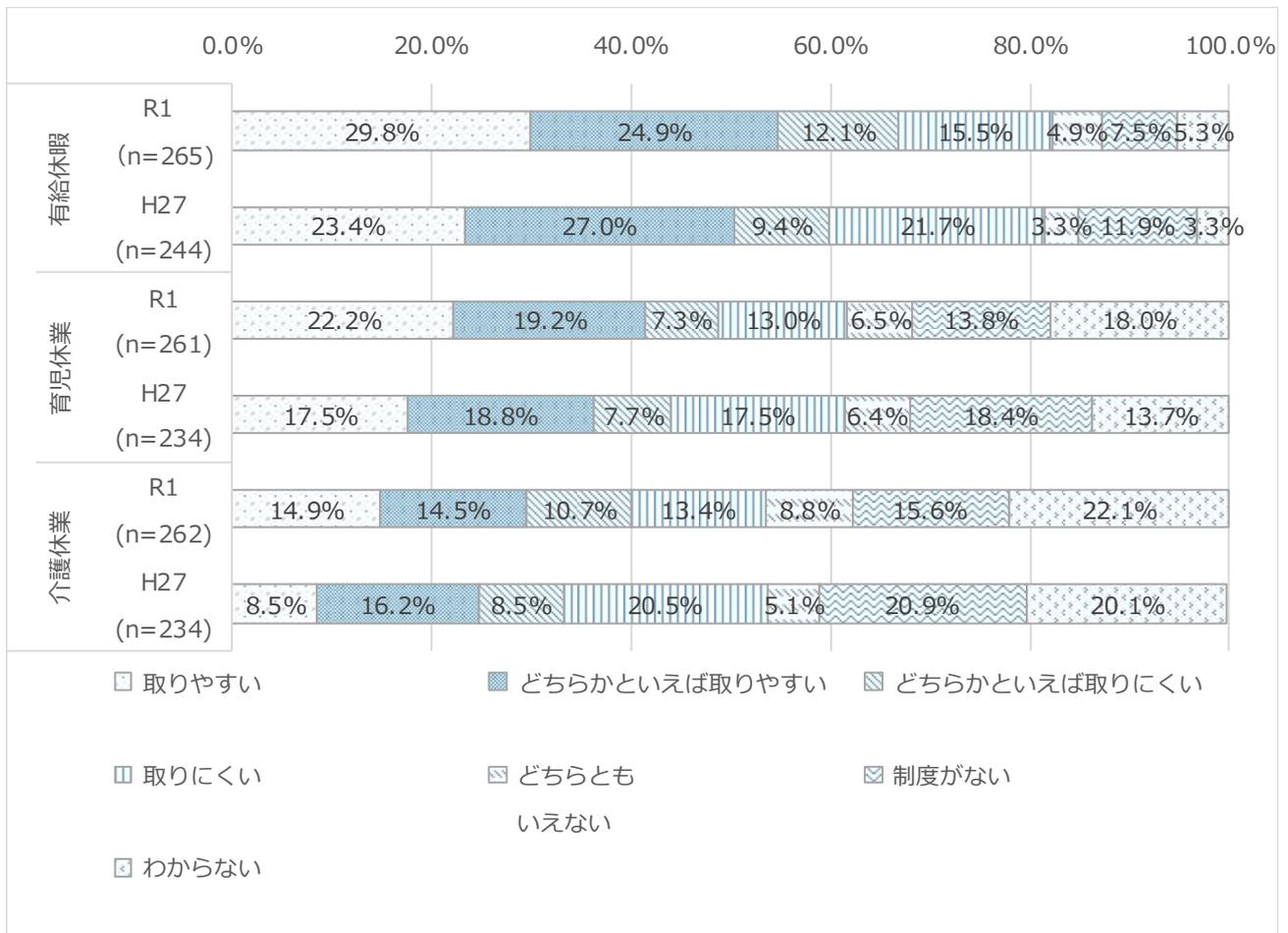
介護休業については、『取得しやすい』は29.4%で、『取得しにくい』は24.1%となっている。

また、育児休業については13.8%、介護休業については15.6%で「制度がない」となっている。

【前回との比較】

すべての休暇・休業において、『取得しやすい』が増加しており、取得しやすい環境が増えてきていることが伺える。また、すべての休暇・休業において、「制度がない」も減少しており、休暇・休業制度も整備されてきていることが伺える。

図表8 有給休暇・育児休業・介護休業のとりやすさ



【属性別】

①有給休暇

性別でみると、女性の『取得しやすい』は57.3%で、男性の『取得しやすい』の52.8%に比べ、4.5ポイント高くなっている。

年代別でみると、20歳代では『取得しやすい』が66.7%で最も高く、『取得しにくい』も16.6%で最も低くなっている。一方、30歳代では『取得しにくい』が41.3%で最も高く、『取得しやすい』が43.5%で最も低くなっている。

地区別でみると、「山辺地区」では『取得しやすい』が60.5%で最も高く、『取得しにくい』が23.3%で最も低くなっている。

		回答合計	取りやすい	どちらかといえば取りやすい	どちらかといえば取りにくい	取りにくい	どちらともいえない	制度がない	わからない
全体		265	29.8%	24.9%	12.1%	15.5%	4.9%	7.5%	5.3%
性別	男性	127	26.0%	26.8%	11.8%	15.0%	7.1%	6.3%	7.1%
	女性	136	33.8%	23.5%	11.8%	16.2%	2.9%	8.1%	3.7%
	無回答	2	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%
年代	20歳代	24	37.5%	29.2%	8.3%	8.3%	12.5%	4.2%	0.0%
	30歳代	46	23.9%	19.6%	13.0%	28.3%	6.5%	4.3%	4.3%
	40歳代	48	31.3%	25.0%	16.7%	12.5%	4.2%	6.3%	4.2%
	50歳代	68	26.5%	30.9%	14.7%	16.2%	1.5%	4.4%	5.9%
	60歳代	61	32.8%	21.3%	6.6%	13.1%	6.6%	13.1%	6.6%
	70歳以上	16	31.3%	25.0%	12.5%	6.3%	0.0%	12.5%	12.5%
	無回答	2	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	67	22.4%	31.3%	11.9%	17.9%	1.5%	9.0%	6.0%
	山辺地区	43	44.2%	16.3%	7.0%	16.3%	4.7%	4.7%	7.0%
	大網地区	56	33.9%	26.8%	10.7%	14.3%	7.1%	3.6%	3.6%
	増穂地区	57	26.3%	26.3%	12.3%	15.8%	7.0%	8.8%	3.5%
	白里地区	42	26.2%	19.0%	19.0%	11.9%	4.8%	11.9%	7.1%

②育児休業

性別でみると、女性の『取得しやすい』は49.6%で半数近い女性が『取得しやすい』と感じていることが伺える。

年代別でみると、どの年代も『取得しやすい』が『取得しにくい』よりも高くなっており、20歳代、30歳代では、『取得しやすい』が半数以上となっている。

地区別でみると、「増穂地区」では『取得しやすい』が30.9%で、最も低くなっている。

		回答合計	取りやすい	どちらかといえば取りやすい	どちらかといえば取りにくい	取りにくい	どちらともいえない	制度がない	わからない
全体		261	22.2%	19.2%	7.3%	13.0%	6.5%	13.8%	18.0%
性別	男性	127	18.1%	15.0%	9.4%	17.3%	8.7%	12.6%	18.9%
	女性	133	26.3%	23.3%	5.3%	9.0%	4.5%	14.3%	17.3%
	無回答	1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
年代	20歳代	24	37.5%	16.7%	4.2%	8.3%	12.5%	8.3%	12.5%
	30歳代	46	26.1%	23.9%	6.5%	23.9%	4.3%	8.7%	6.5%
	40歳代	48	20.8%	16.7%	6.3%	18.8%	6.3%	14.6%	16.7%
	50歳代	66	13.6%	25.8%	9.1%	10.6%	6.1%	12.1%	22.7%
	60歳代	60	25.0%	10.0%	8.3%	5.0%	8.3%	18.3%	25.0%
	70歳以上	15	20.0%	20.0%	6.7%	13.3%	0.0%	20.0%	20.0%
	無回答	2	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	66	22.7%	25.8%	7.6%	12.1%	9.1%	7.6%	15.2%
	山辺地区	43	34.9%	7.0%	7.0%	20.9%	4.7%	11.6%	14.0%
	大網地区	55	25.5%	20.0%	5.5%	10.9%	3.6%	12.7%	21.8%
	増穂地区	55	14.5%	16.4%	9.1%	12.7%	7.3%	21.8%	18.2%
	白里地区	42	14.3%	23.8%	7.1%	9.5%	7.1%	16.7%	21.4%

③介護休業

性別で見ると、『取得しにくい』が女性では19.4%で、男性では29.1%と女性に比べ9.7ポイント高くなっている。

年代別にみると、30歳代では『取得しにくい』が34.8%で、『取得しやすい』の21.7%を上回っているが、40歳代では『取得しやすい』と『取得しにくい』が同じ割合となっている。

地区別で見ると、「山辺地区」では『取得しやすい』が34.9%で最も高いが、『取得しにくい』も32.5%で最も高くなっている。

		回答合計	取りやすい	どちらかといえば取りやすい	どちらかといえば取りにくい	取りにくい	どちらともいえない	制度がない	わからない
全体		262	14.9%	14.5%	10.7%	13.4%	8.8%	15.6%	22.1%
性別	男性	127	15.0%	12.6%	12.6%	16.5%	11.8%	11.0%	20.5%
	女性	134	14.9%	16.4%	9.0%	10.4%	6.0%	19.4%	23.9%
	無回答	1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
年代	20歳代	24	25.0%	12.5%	4.2%	16.7%	16.7%	12.5%	12.5%
	30歳代	46	13.0%	8.7%	8.7%	26.1%	8.7%	10.9%	23.9%
	40歳代	48	12.5%	14.6%	10.4%	16.7%	12.5%	16.7%	16.7%
	50歳代	67	10.4%	22.4%	13.4%	10.4%	4.5%	14.9%	23.9%
	60歳代	60	21.7%	8.3%	11.7%	3.3%	8.3%	18.3%	28.3%
	70歳以上	15	6.7%	26.7%	6.7%	13.3%	6.7%	20.0%	20.0%
	無回答	2	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	66	10.6%	21.2%	10.6%	16.7%	10.6%	10.6%	19.7%
	山辺地区	43	30.2%	4.7%	11.6%	20.9%	4.7%	14.0%	14.0%
	大網地区	55	14.5%	12.7%	5.5%	10.9%	7.3%	18.2%	30.9%
	増穂地区	56	8.9%	12.5%	12.5%	10.7%	8.9%	21.4%	25.0%
	白里地区	42	14.3%	19.0%	14.3%	7.1%	11.9%	14.3%	19.0%

問9 あなたは、機会があれば育児休業を取りたいと思いますか。

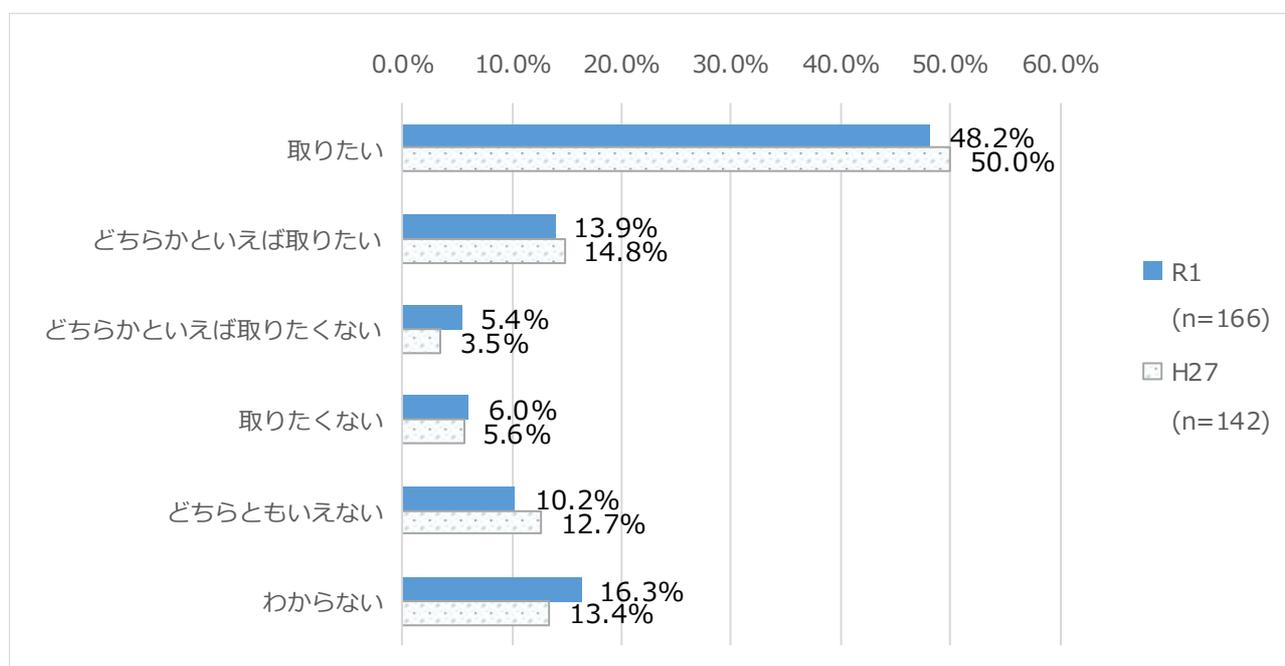
【全体】

育児休業を『取りたい』（「取りたい」と「どちらかといえば取りたい」の合計）は62.1%で半数を超えており、『取りたくない』（「どちらかといえば取りたくない」と「取りたくない」の合計）は11.4%となっている。

【前回との比較】

前回の調査と比較すると、育児休業を『取りたい』は62.1%で、前回と比べると2.7ポイント低下している。また、『取りたくない』も2.3ポイント高くなっている。

図表9 育児休業を取りたい割合



【属性別】

性別で見ると、「取りたい」は女性で66.7%であるが、男性では29.6%となっている。一方、「取りたくない」は女性は0%であるが、男性では12.3%となっている。

年代別で見ると、子育て世代である20歳代、30歳代、40歳代では、「取りたい」が半数を超えているが、60歳代では、「どちらかといえば取りたい」28.1%で最も高くなっている。

地区別で見ると、「大網地区（54.5%）」、「瑞穂地区（53.1%）」、「山辺地区（50.0%）」については、「取りたい」が半数を超えている。一方、「白里地区」では「取りたくない」が13.0%で、他の地区の倍以上となっている。

		回答合計	取りたい	どちらかといえば取りたい	どちらかといえば取りたくない	取りたくない	どちらかともいえない	わからない
全体		166	48.2%	13.9%	5.4%	6.0%	10.2%	16.3%
性別	男性	81	29.6%	13.6%	7.4%	12.3%	16.0%	21.0%
	女性	84	66.7%	14.3%	2.4%	0.0%	4.8%	11.9%
	無回答	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年代	20歳代	17	76.5%	0.0%	0.0%	5.9%	11.8%	5.9%
	30歳代	35	68.6%	14.3%	5.7%	2.9%	2.9%	5.7%
	40歳代	38	55.3%	5.3%	2.6%	7.9%	13.2%	15.8%
	50歳代	37	32.4%	18.9%	13.5%	10.8%	5.4%	18.9%
	60歳代	32	25.0%	28.1%	0.0%	3.1%	18.8%	25.0%
	70歳以上	6	16.7%	0.0%	16.7%	0.0%	16.7%	50.0%
	無回答	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	49	53.1%	6.1%	2.0%	4.1%	10.2%	24.5%
	山辺地区	30	50.0%	20.0%	10.0%	3.3%	6.7%	10.0%
	大網地区	33	54.5%	9.1%	6.1%	6.1%	6.1%	18.2%
	増穂地区	31	41.9%	19.4%	9.7%	6.5%	9.7%	12.9%
	白里地区	23	34.8%	21.7%	0.0%	13.0%	21.7%	8.7%

【女性の社会参加について】

問10 職場や地域活動で、女性のリーダーが少ないように見受けられますが、その要因は何だと思いますか。

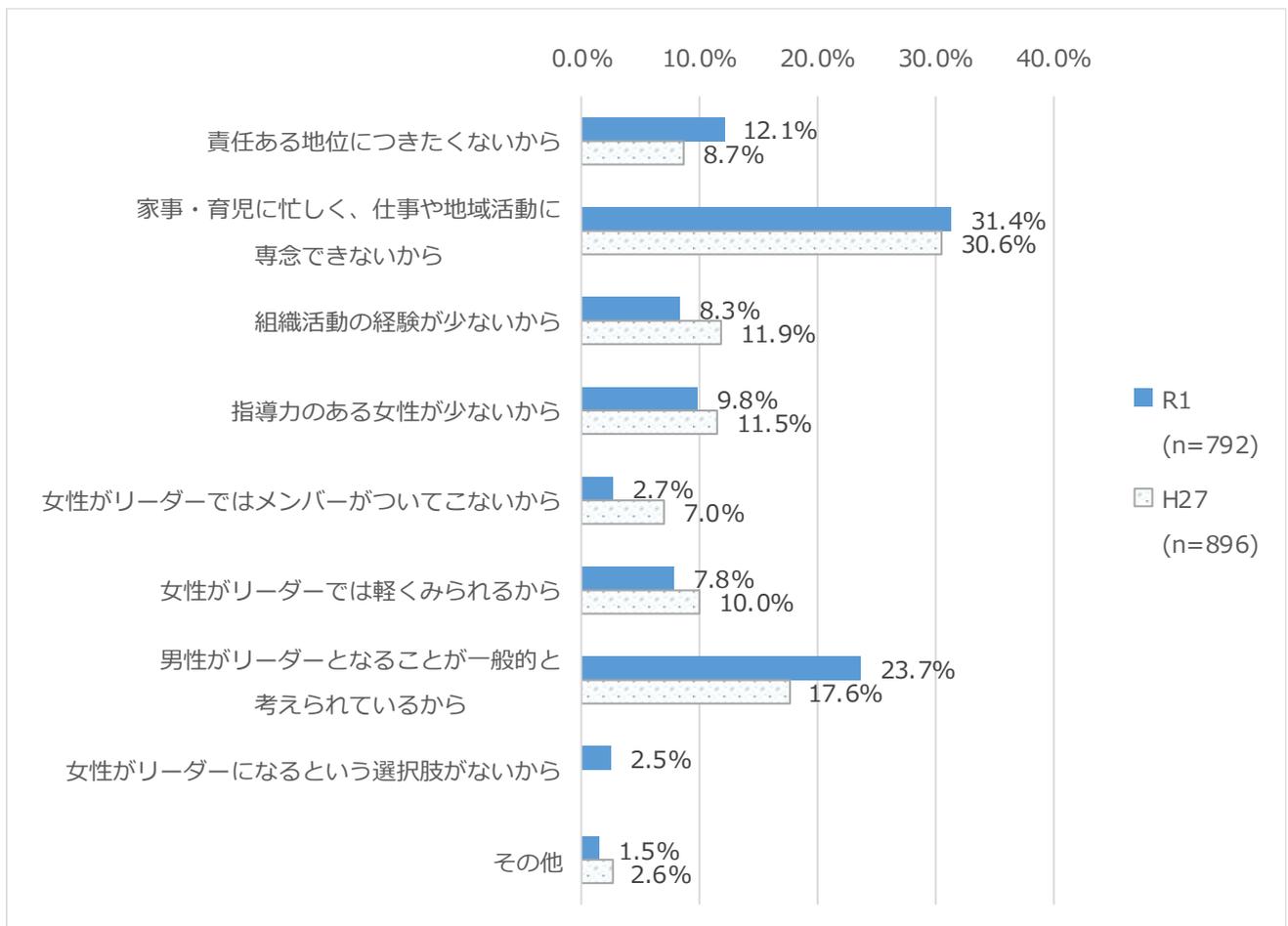
【全体】

「家事・育児に忙しく、仕事や地域活動に専念できないから」が31.4%で最も高く、次いで「男性がリーダーとなることが一般的と考えられているから」の23.7%となっている。

【前回との比較】

前回と比較すると、「家事・育児に忙しく、仕事や地域活動に専念できないから」が最も高い点については変わらないものの「女性がリーダーではメンバーがついてこないから」が4.3ポイント低くなっている一方、「男性がリーダーとなることが一般的と考えられているから」が6.1ポイント高くなっている。

図表10 女性リーダーが少ない要因



※「女性がリーダーになるという選択肢がないから」は今回の調査で追加

(その他意見)

- ・私の考え方としては、人間の本能的というか・・・女性、男性により向き不向きがあると思います。多数の方がリーダーになりたいと思わないし、なりたい人がなって、そういう人に環境を整えてあげるべきです。
- ・女性自身の覚悟がない。地域によっては大女ボスもいますが・・・。
- ・男性より体調の管理が難しいと思います。
- ・そのような機会がない、又は少ないため。
- ・補助してくれる周りの人に恵まれにくいから。
- ・女性のリーダー像が確立していない。
- ・保育施設や制度が十分ではなく、女性が責任ある立場につけないから。介護においても同様のことが言える。
- ・指導力のある女性を認めたくない社会がある。
- ・女性がリーダーになると転覆する。
- ・世の中が女性をリーダーに育てるという意識がないから。

【属性別】

性別でみると、男女とも最も高いのは「家事・育児に忙しく、仕事や地域活動に専念できないから」、次いで「男性がリーダーとなることが一般的と考えられているから」となっている。

年代別・地区別でも同様の結果となっている。

		回答合計	責任ある地位につきたくないから	家事 育児に忙しく、 仕事や地域活動に専念できないから	組織活動の経験が少ないから	指導力のある女性が少ないから	女性がリーダーではメンバーが ついてこないから	女性がリーダーでは軽くみられるから	男性がリーダーとなることが「一般的と 考えられているから	女性がリーダーになるといって 選択肢がないから	その他
全体		792	12.1%	31.4%	8.3%	9.8%	2.7%	7.8%	23.7%	2.5%	1.5%
性別	男性	348	14.9%	30.7%	7.8%	11.2%	3.4%	6.3%	21.8%	2.0%	1.7%
	女性	426	10.1%	32.2%	8.9%	8.7%	1.9%	9.2%	25.1%	2.6%	1.4%
	無回答	18	5.6%	27.8%	5.6%	11.1%	5.6%	5.6%	27.8%	11.1%	0.0%
年代	20歳代	52	9.6%	44.2%	1.9%	0.0%	1.9%	13.5%	26.9%	0.0%	1.9%
	30歳代	98	5.1%	39.8%	7.1%	4.1%	3.1%	10.2%	26.5%	1.0%	3.1%
	40歳代	96	13.5%	35.4%	4.2%	9.4%	2.1%	11.5%	18.8%	2.1%	3.1%
	50歳代	142	14.8%	28.9%	5.6%	14.8%	2.1%	7.7%	21.1%	3.5%	1.4%
	60歳代	217	14.3%	28.6%	11.1%	11.1%	2.8%	5.1%	25.3%	0.9%	0.9%
	70歳以上	181	11.0%	26.5%	12.2%	11.0%	3.3%	5.5%	24.9%	5.0%	0.6%
	無回答	6	16.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	16.7%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	181	11.0%	33.7%	7.7%	8.8%	1.7%	8.3%	25.4%	2.2%	1.1%
	山辺地区	145	9.7%	37.2%	9.7%	7.6%	2.8%	9.7%	22.1%	1.4%	0.0%
	大網地区	180	14.4%	28.3%	7.8%	11.7%	3.9%	7.8%	21.1%	1.7%	3.3%
	増穂地区	162	13.0%	29.0%	7.4%	9.9%	2.5%	6.8%	25.9%	4.3%	1.2%
	白里地区	122	12.3%	29.5%	9.8%	11.5%	2.5%	6.6%	23.0%	3.3%	1.6%
	無回答	2	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%

問11 あなたは、今後、もっとさまざまな職業分野で、女性が指導的地位に占める割合が増える方がよいと思いますか。

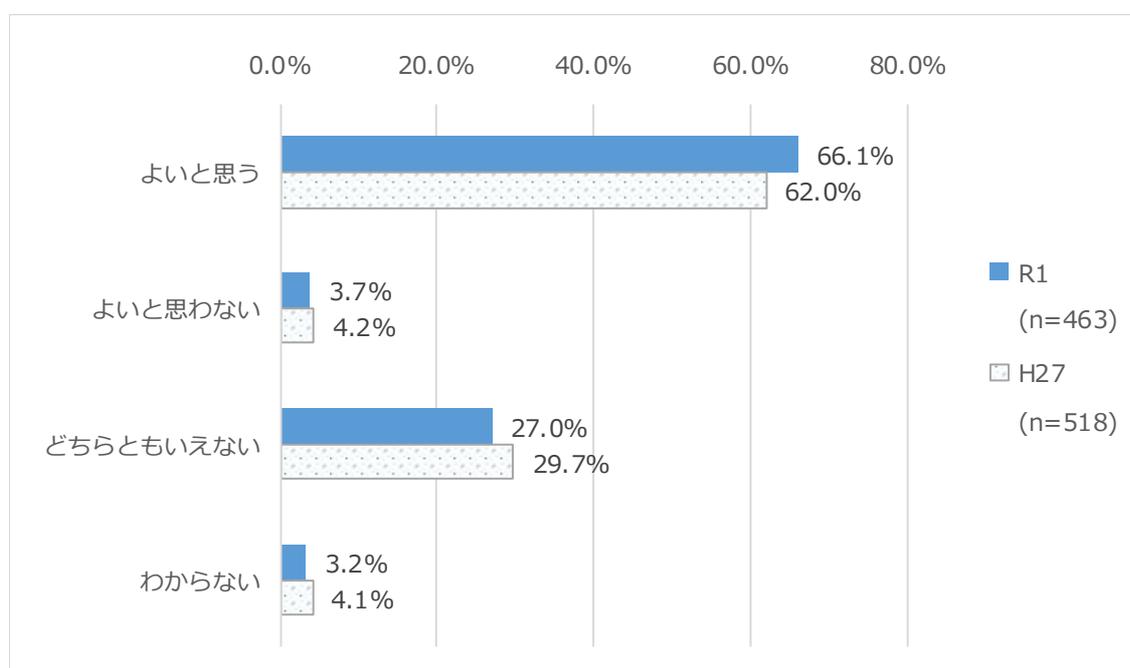
【全体】

「よいと思う」は66.1%で、「よいと思わない」は3.7%、「どちらともいえない」は27.0%である。

【前回との比較】

前回と比較すると、「よいと思う」の割合が4.1ポイント高くなっている。

図表11 指導的地位の女性が増えたほうがよいと思う割合



【属性別】

性別、年代別、地区別でも「よいと思う」が最も高くなっている。

性別では、「よいと思う」は、男性が女性に比べ5.5ポイント高くなっている。

年代別では、20歳代の76.7%が最も高くなっている。

地区別では、「増穂地区」の70.1%が最も高くなっている。

		回答合計	よいと思う	よいと思わない	どちらとも いえない	わからない
全体		463	66.1%	3.7%	27.0%	3.2%
性別	男性	198	69.7%	5.1%	23.2%	2.0%
	女性	254	64.2%	2.0%	29.5%	4.3%
	無回答	11	45.5%	18.2%	36.4%	0.0%
年代	20歳代	30	76.7%	3.3%	20.0%	0.0%
	30歳代	54	53.7%	5.6%	35.2%	5.6%
	40歳代	58	56.9%	5.2%	31.0%	6.9%
	50歳代	81	64.2%	4.9%	28.4%	2.5%
	60歳代	128	70.3%	1.6%	24.2%	3.9%
	70歳以上	108	69.4%	3.7%	25.9%	0.9%
	無回答	4	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	103	69.9%	6.8%	22.3%	1.0%
	山辺地区	82	65.9%	1.2%	31.7%	1.2%
	大網地区	105	58.1%	2.9%	35.2%	3.8%
	増穂地区	97	70.1%	3.1%	21.6%	5.2%
	白里地区	74	67.6%	4.1%	23.0%	5.4%
	無回答	2	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%

問12 次の職業や役職において、今後、女性の割合がもっと増える方がよいと思うのはどれですか。

【全体】

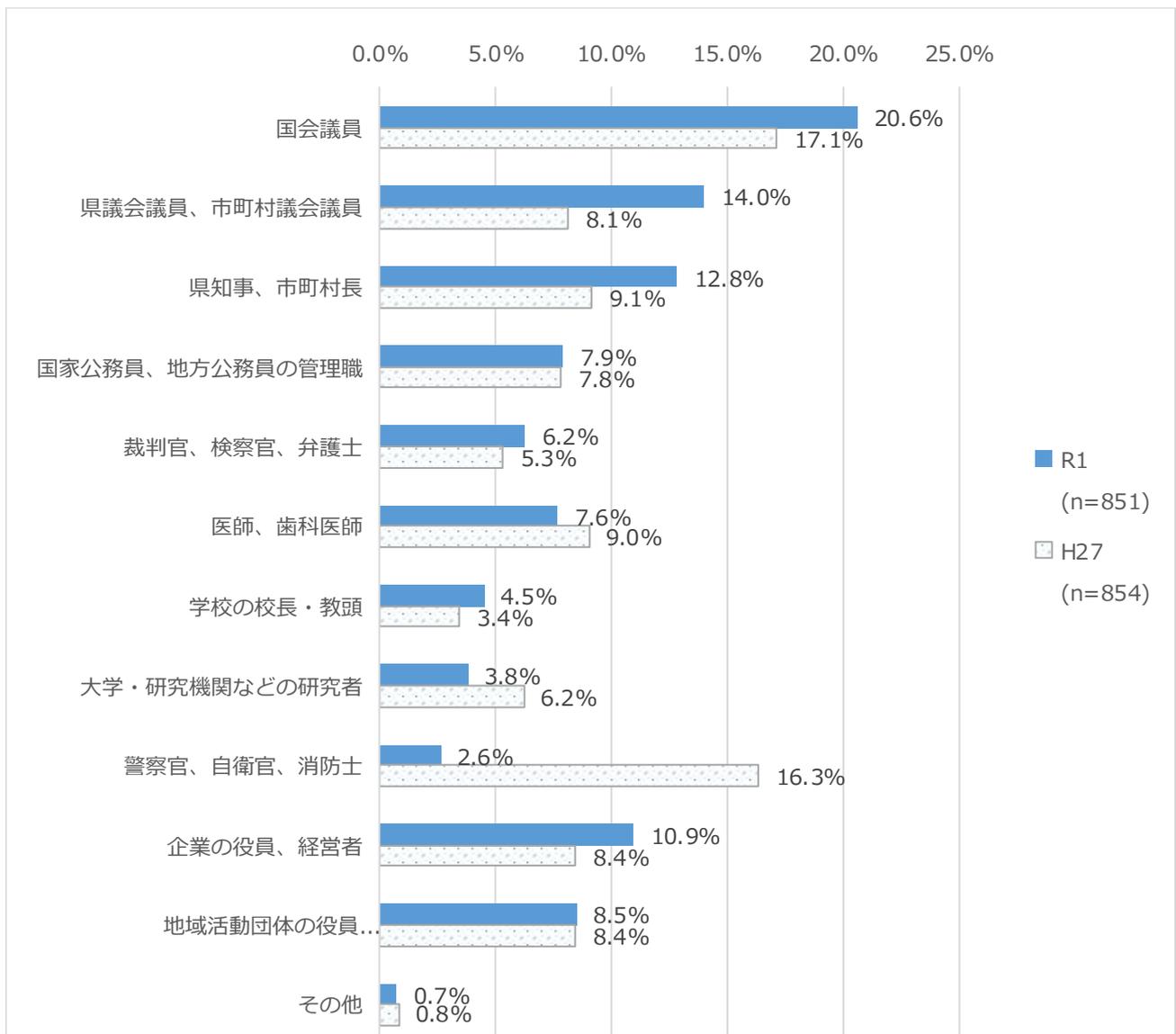
「国会議員」の20.6%が最も高く、次いで「県議会議員、市町村議会議員」の14.0%となっている。

【前回との比較】

前回の調査と比較すると、最も高いのは「国会議員」で変わらないが、次に多いのが「県議会議員、市町村議会議員」で、5.9ポイント高くなっており、政治分野への女性の参加が求められていることが伺える。

一方、前回、2番目に高かった「警察官、自衛官、消防士」については2.6%で13.7ポイント低くなっている。

図表12 女性の割合が増えた方がよいと思う職業・役職



(その他意見)

- ・全部 2件
- ・職業では選べない。
- ・国連職員、福祉系職員。
- ・全体的に。 2件

【属性別】

性別、年代別、地区別でも「国会議員」が最も高くなっている。

性別でみると、男女とも「国会議員」の割合はほとんど変わらないが、次いで、男性では「県議会議員、市町村議会議員」が12.8%で、女性では「県知事、市町村長」が15.1%となっている。

年代別でみると、30歳代では「県知事、市町村長」の割合が22.6%で最も高くなっている。

地区別でみると、「大網地区 (22.8%)」、「瑞穂地区 (22.8%)」では、他の地区に比べ、「国会議員」が最も高くなっている。

		回答合計	国会議員	県議会議員、市町村議会議員	県知事、市町村長	国家公務員、地方公務員の管理職	裁判官、検察官、弁護士	医師 歯科医師	学校の校長・教頭	大学・研究機関などの研究者	警察官、自衛官、消防士	企業の役員、経営者	区 自治会長、PTA会長など 地域活動団体の役員	その他
全体		851	20.6%	14.0%	12.8%	7.9%	6.2%	7.6%	4.5%	3.8%	2.6%	10.9%	8.5%	0.7%
性別	男性	390	20.5%	12.8%	10.3%	8.5%	5.1%	7.4%	3.3%	4.4%	4.9%	12.6%	9.7%	0.5%
	女性	445	21.1%	14.6%	15.1%	7.2%	6.7%	7.9%	5.6%	3.1%	0.7%	9.9%	7.2%	0.9%
	無回答	16	6.3%	25.0%	12.5%	12.5%	18.8%	6.3%	0.0%	6.3%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%
年代	20歳代	61	29.5%	13.1%	13.1%	9.8%	6.6%	9.8%	4.9%	1.6%	4.9%	4.9%	1.6%	0.0%
	30歳代	93	19.4%	16.1%	22.6%	8.6%	3.2%	9.7%	5.4%	1.1%	3.2%	8.6%	2.2%	0.0%
	40歳代	90	21.1%	12.2%	14.4%	4.4%	5.6%	8.9%	6.7%	3.3%	1.1%	16.7%	3.3%	2.2%
	50歳代	152	20.4%	14.5%	11.8%	10.5%	6.6%	9.2%	3.9%	3.3%	2.0%	9.9%	7.2%	0.7%
	60歳代	233	21.9%	13.7%	11.6%	4.3%	6.4%	6.4%	4.3%	5.6%	3.0%	14.2%	7.7%	0.9%
	70歳以上	213	16.9%	14.1%	8.9%	10.3%	6.6%	6.1%	3.8%	4.2%	2.3%	8.9%	17.4%	0.5%
	無回答	9	22.2%	11.1%	33.3%	11.1%	22.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	202	22.8%	13.9%	12.9%	8.9%	6.4%	7.9%	5.0%	4.5%	1.5%	11.4%	4.5%	0.5%
	山辺地区	161	21.7%	14.3%	16.8%	7.5%	5.0%	5.0%	5.0%	3.1%	2.5%	10.6%	8.1%	0.6%
	大網地区	158	22.8%	11.4%	11.4%	7.6%	7.0%	7.0%	3.2%	4.4%	1.9%	10.8%	11.4%	1.3%
	増穂地区	188	18.1%	16.0%	10.6%	7.4%	6.4%	8.5%	2.1%	3.2%	2.7%	13.8%	10.1%	1.1%
	白里地区	139	16.5%	14.4%	12.9%	7.9%	5.8%	9.4%	7.9%	3.6%	5.0%	7.2%	9.4%	0.0%
	無回答	3	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

問13 男性の家事、育児、介護等への参加を促進するためには、どのようなことが必要だと思いますか。

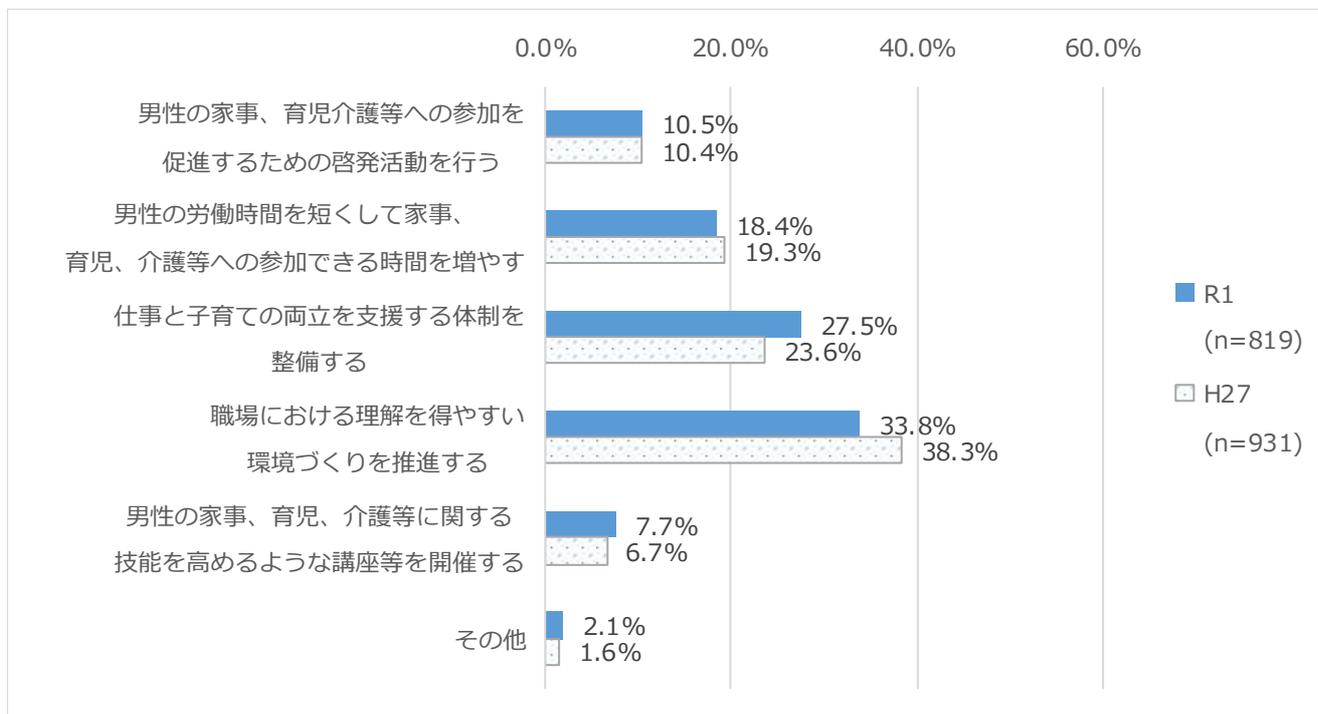
【全体】

「職場における理解を得やすい環境づくりを推進する」が33.8%で最も高く、次いで「仕事と子育ての両立を支援する体制を整備する」の27.5%となっている。

【前回との比較】

前回の調査と比較すると、同様の順位となっているが、「職場における理解を得やすい環境づくりを推進する」は4.5ポイント低くなっており、「仕事と子育ての両立を支援する体制を整備する」が3.9ポイント高くなっている。

図表13 男性の家事・育児・介護等への参加を促すために必要だと思うこと



【属性別】

性別でみると、男女とも「企業など職場における理解を得やすい環境づくりを推進する」が最も高く、次いで「仕事と子育ての両立を支援する体制を整備する」となっている。

年代別でみると、40歳代で「仕事と子育ての両立を支援する体制を整備する」が30.4%で最も高くなっており、次いで「男性の労働時間を短くして、家事、育児、介護等への参加できる時間を増やす」の27.5%となっている。その他の年代では、「企業など職場における理解を得やすい環境づくりを推進する」が最も高くなっている。

地区別でみると、地区による大きな差異はない。

		回答合計	男性の家事、育児介護等への参加を促進するための啓発活動を行う	男性の労働時間を短くして家事、育児、介護等への参加できる時間を増やす	仕事と子育ての両立を支援する体制を整備する	企業など職場における理解を得やすい環境づくりを推進する	男性の家事・育児・介護等に関する技能を高めるような講座等を開催する	その他
全体		819	10.5%	18.4%	27.5%	33.8%	7.7%	2.1%
性別	男性	352	13.1%	21.0%	24.7%	29.5%	9.4%	2.3%
	女性	450	8.2%	16.4%	30.0%	36.9%	6.4%	2.0%
	無回答	17	17.6%	17.6%	17.6%	41.2%	5.9%	0.0%
年代	20歳代	59	1.7%	22.0%	32.2%	37.3%	5.1%	1.7%
	30歳代	100	4.0%	23.0%	30.0%	33.0%	8.0%	2.0%
	40歳代	102	5.9%	27.5%	30.4%	26.5%	5.9%	3.9%
	50歳代	148	8.1%	18.9%	26.4%	35.1%	7.4%	4.1%
	60歳代	219	16.0%	11.4%	28.8%	35.6%	7.3%	0.9%
	70歳以上	185	14.6%	17.3%	22.2%	34.6%	10.3%	1.1%
	無回答	6	16.7%	33.3%	33.3%	16.7%	0.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	187	6.4%	23.0%	29.4%	32.6%	4.3%	4.3%
	山辺地区	148	11.5%	17.6%	27.7%	35.1%	8.1%	0.0%
	大網地区	176	11.9%	18.2%	25.6%	32.4%	9.1%	2.8%
	増穂地区	178	11.2%	18.5%	24.2%	34.8%	10.1%	1.1%
	白里地区	127	12.6%	13.4%	31.5%	34.6%	6.3%	1.6%
	無回答	3	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%

問14 政策決定の場へ女性の参画が増えることによって、社会がどう変化することに期待しますか。

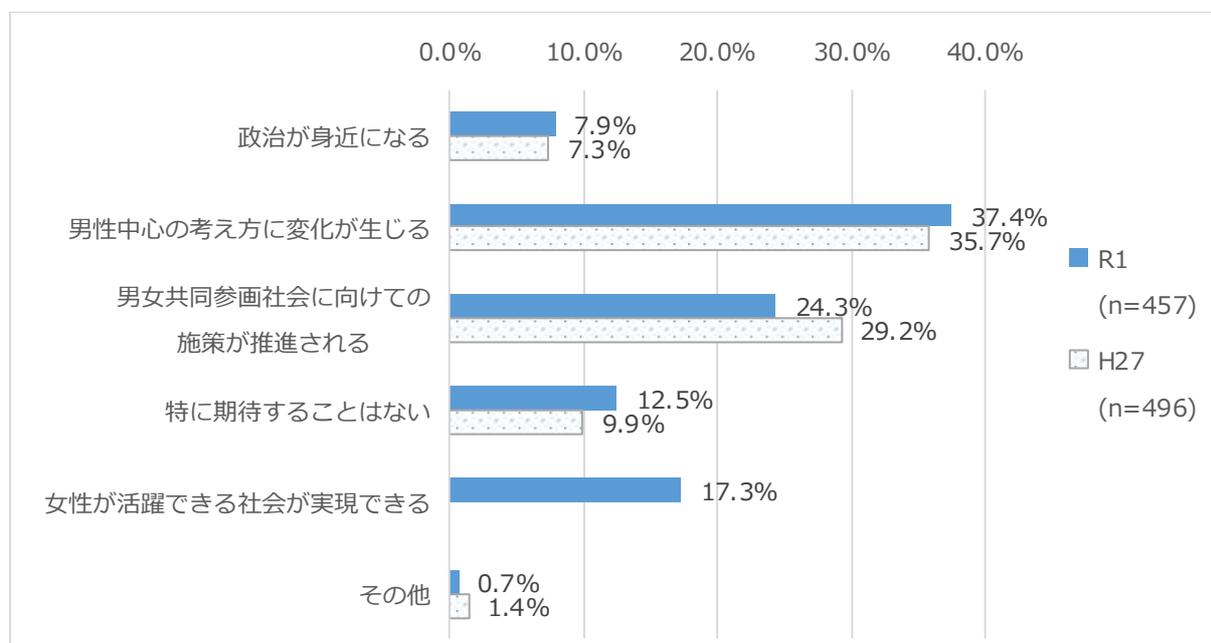
【全体】

「男性中心の考え方に変化が生じる」が37.4%で最も高くなっており、次いで「男女共同参画社会に向けての施策が推進される」が24.3%となっている。また、今回の調査で追加された「女性が活躍できる社会が実現できる」は17.3%で、3番目に高くなっている。

【前回との比較】

前回の調査と比較すると、同様の順位となっているが、「男女共同参画社会に向けての施策が推進される」は、4.9ポイント低くなっている。

図表14 政策決定の場への女性の参画増加によって期待すること



※「女性が活躍できる社会が実現できる」は今回の調査で追加

(その他意見)

- ・事業所の人事評価制度の改変。
- ・そもそも男性の稼ぎを女性が専業主婦でいられたときの水準にする（もちろん現在の物価も考慮）。
- ・個人に与えられた仕事量を減らす事、休んだ分仕事がたまってしまう。それにより休めなくなる。
- ・子どもの頃からの意識付け。
- ・育児介護中の賃金保障が一番大事。
- ・夫婦のカウンセリングや生活のスケジュールを提案するなど、第三者を入れた話し合いの機会があると良いと思います。
- ・男性も女性も幼少の頃から教育が必要。
- ・子どもの頃からの家族愛、教育、気持ちが重要。
- ・男性、女性にとらわれずに参加できるような体制整備。

- ・本人の考えとやる気だけ。
- ・男性が参加しなくても大丈夫な給料とする（女性が働かなくても良いから）。
- ・わかりません。
- ・男性自身の意識改革を。
- ・不要。
- ・個々の家族で話し合い、家族内で決めて実行するしかない。
- ・寝ないで働く。
- ・子どもの頃からの教育。

【属性別】

性別でみると、男女とも「男性中心の考え方に変化が生じる」が最も高くなっている。

年代別でみると、すべての年代で「男性中心の考え方に変化が生じる」が最も高くなっているが、次いで、30歳代では「女性が活躍できる社会が実現できる」、「特に期待することはない」が20.4%であり、40歳代では、「政治が身近になる」が20.7%となっている。

地区別でみると、「瑞穂地区」では、「男性中心の考え方に変化が生じる」が48.5%で最も高くなっている。

		回答合計	政治が身近になる	男性中心の考え方に 変化が生じる	男女共同参画社会に向けての 施策が推進される	特に期待することはない	女性が活躍できる社会が 実現できる	その他
全体		457	7.9%	37.4%	24.3%	12.5%	17.3%	0.7%
性別	男性	197	6.1%	31.5%	29.4%	13.2%	19.3%	0.5%
	女性	250	8.8%	42.8%	20.0%	11.6%	16.0%	0.8%
	無回答	10	20.0%	20.0%	30.0%	20.0%	10.0%	0.0%
年代	20歳代	30	6.7%	30.0%	23.3%	16.7%	20.0%	3.3%
	30歳代	54	3.7%	38.9%	16.7%	20.4%	20.4%	0.0%
	40歳代	58	20.7%	27.6%	12.1%	19.0%	19.0%	1.7%
	50歳代	81	3.7%	43.2%	23.5%	16.0%	12.3%	1.2%
	60歳代	126	5.6%	41.3%	28.6%	6.3%	18.3%	0.0%
	70歳以上	104	8.7%	35.6%	30.8%	8.7%	16.3%	0.0%
	無回答	4	25.0%	25.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	101	8.9%	48.5%	15.8%	8.9%	17.8%	0.0%
	山辺地区	81	6.2%	37.0%	28.4%	9.9%	17.3%	1.2%
	大網地区	103	5.8%	36.9%	23.3%	15.5%	17.5%	1.0%
	増穂地区	98	11.2%	28.6%	26.5%	11.2%	21.4%	1.0%
	白里地区	72	6.9%	34.7%	29.2%	18.1%	11.1%	0.0%
	無回答	2	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%

問15 男女がともにさまざまな場面（仕事、家事、育児、介護、地域活動など）で積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。

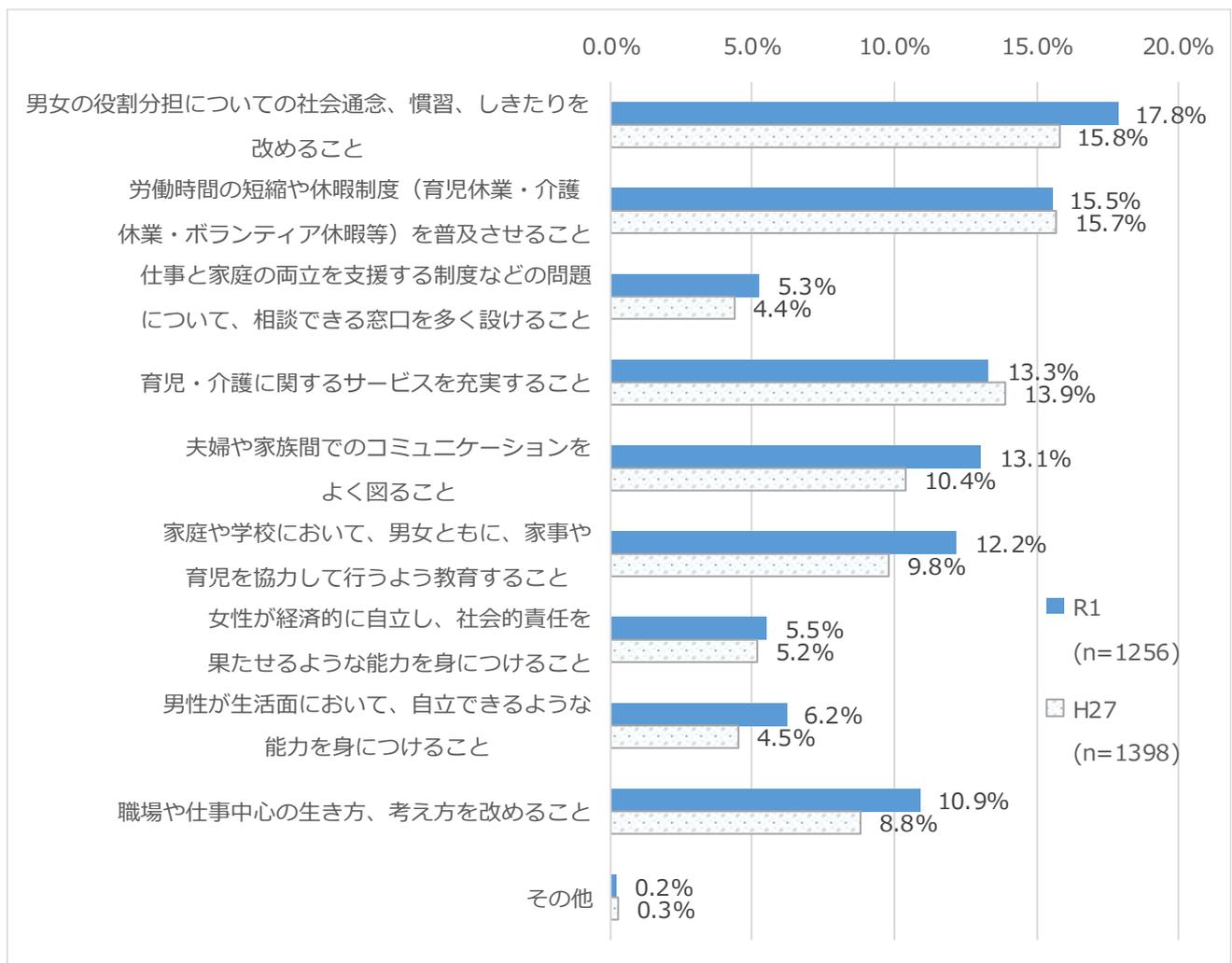
【全体】

「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」の17.8%が最も高く、次いで「労働時間短縮や休暇制度（育児休業・介護休業・ボランティア休暇等）を普及させること」の15.5%、「育児・介護に関するサービスを充実すること」の13.3%となっている。

【前回との比較】

前回の調査と比較すると、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」が最も高いのは変わらないが、2ポイント高くなっている。

図表15 男女が仕事、家事、育児、介護地域活動などに積極的に参加するために必要だと思うこと



（その他意見）

- ・大人のことが中心であり、子どものこと、子育ての大切さが全てにおいて置き去りにされている。

- ・その人が望む活躍の仕方ができるように変化して欲しい。
- ・男性、女性それぞれの目線でいろんな利点、問題点にきづけるようになって良い社会につながる。

【属性別】

性別でみると、男女とも「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」が最も高くなっている。

年代別でみると、20歳代と40歳代では「労働時間短縮や休暇制度（育児休業・介護休暇・ボランティア休暇等）を普及させること」が最も高く、その他の年代では「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」が最も高い。

地区別でみると、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」が最も高いのは「瑞穂地区」で20.2%となっている。「大網地区」では、僅差で「労働時間短縮や休暇制度（育児休業・介護休暇・ボランティア休暇等）を普及させること」が18.1%で最も高くなっている。

		回答合計	男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	労働時間短縮や休暇制度 育児休業 介護休暇 ボランティア休暇等）を普及させること	仕事と家庭の両立などの問題について、相談できる窓口を多く設けること	育児 介護に関するサービスを充実すること	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること	家庭や学校において、男女ともに、家事や育児を協力して行うよう教育すること	女性が経済的に自立し、社会的責任を果たせるような能力を身につけること	男性が生活面において、自立できるような能力を身につけること	職場や仕事中心の生き方、考え方を改めること	その他
全体		1256	17.8%	15.5%	5.3%	13.3%	13.1%	12.2%	5.5%	6.2%	10.9%	0.2%
性別	男性	534	19.1%	15.4%	6.7%	13.7%	12.4%	10.3%	6.2%	5.4%	10.7%	0.2%
	女性	694	16.9%	15.6%	4.3%	12.8%	13.4%	13.8%	5.0%	6.5%	11.4%	0.3%
	無回答	28	17.9%	17.9%	0.0%	17.9%	17.9%	7.1%	3.6%	14.3%	3.6%	0.0%
年代	20歳代	86	10.5%	23.3%	4.7%	10.5%	12.8%	14.0%	3.5%	5.8%	15.1%	0.0%
	30歳代	146	19.2%	15.1%	2.1%	8.2%	13.0%	14.4%	6.8%	8.9%	11.6%	0.7%
	40歳代	156	14.1%	18.6%	5.8%	14.7%	12.8%	10.9%	4.5%	7.1%	10.3%	1.3%
	50歳代	220	19.5%	12.7%	4.5%	13.6%	14.1%	9.1%	7.3%	5.9%	13.2%	0.0%
	60歳代	346	19.7%	13.3%	6.4%	14.7%	11.6%	14.5%	5.5%	4.6%	9.8%	0.0%
	70歳以上	290	17.6%	16.2%	5.9%	13.8%	14.5%	11.0%	4.8%	6.9%	9.3%	0.0%
	無回答	12	25.0%	25.0%	8.3%	16.7%	8.3%	8.3%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	287	20.2%	16.4%	4.2%	13.9%	9.8%	14.6%	4.5%	5.6%	10.8%	0.0%
	山辺地区	227	18.9%	13.2%	4.4%	11.0%	11.5%	15.0%	6.6%	7.5%	11.5%	0.4%
	大網地区	270	17.8%	18.1%	4.1%	13.3%	13.3%	11.1%	4.8%	5.9%	10.7%	0.7%
	増穂地区	273	15.4%	15.0%	5.5%	13.6%	16.1%	9.9%	6.6%	6.2%	11.7%	0.0%
	白里地区	194	16.5%	14.4%	9.3%	14.9%	14.9%	9.8%	4.6%	6.2%	9.3%	0.0%
	無回答	5	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	20.0%	20.0%	0.0%	20.0%	0.0%

【男女共同参画用語について】

問16 あなたは、次の言葉を知っていますか。

【全体】

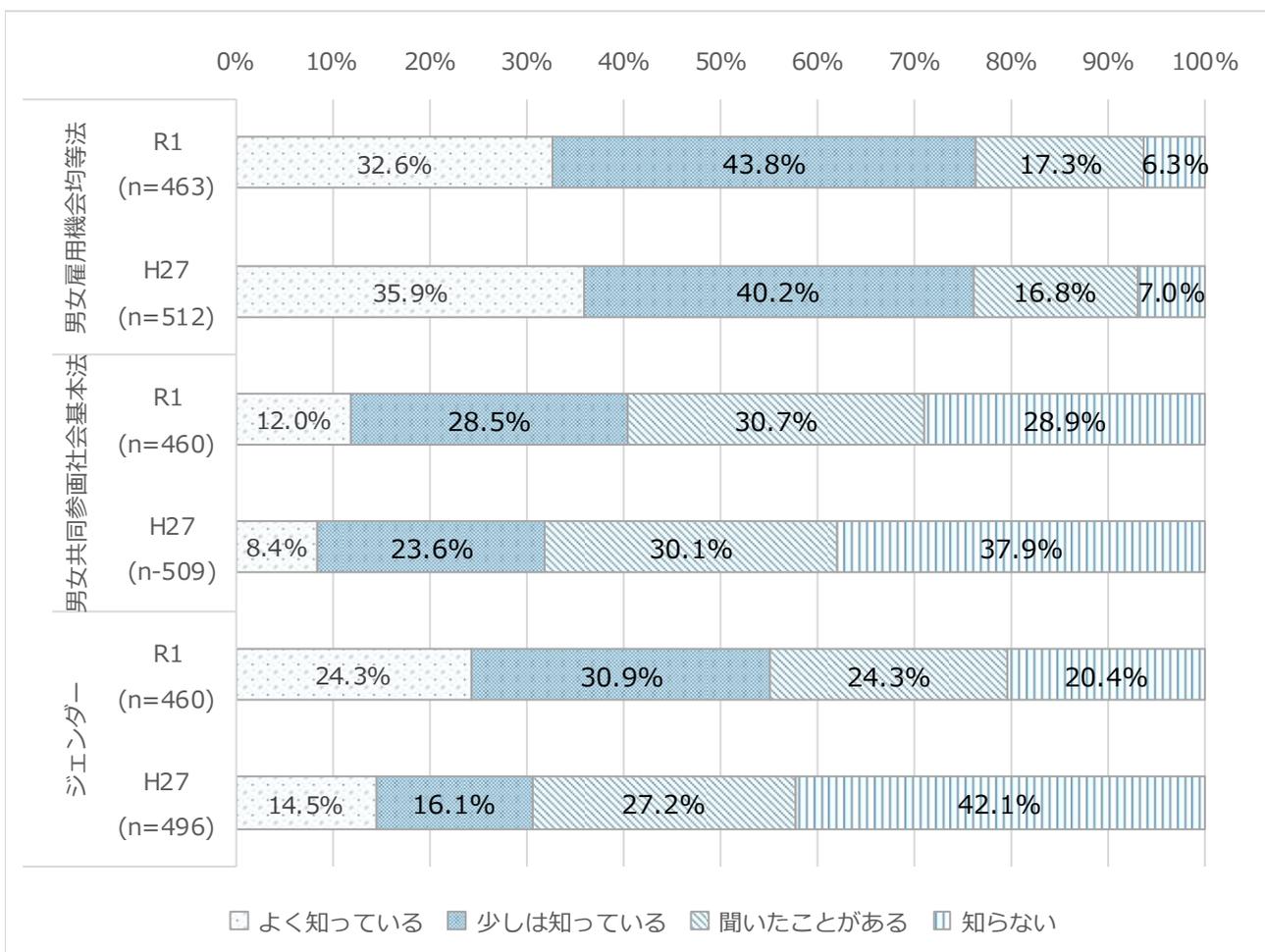
『知っている』（「よく知っている」と「少しは知っている」の合計）が高いのは、「セクハラ（セクシャル・ハラスメント）（97.0%）」、「マタハラ（マタニティ・ハラスメント）（90.6%）」、「パワハラ（パワー・ハラスメント）（95.7%）」、「DV（ドメスティック・バイオレンス）（93.6%）」、「男女雇用機会均等法（76.4%）」となっている。

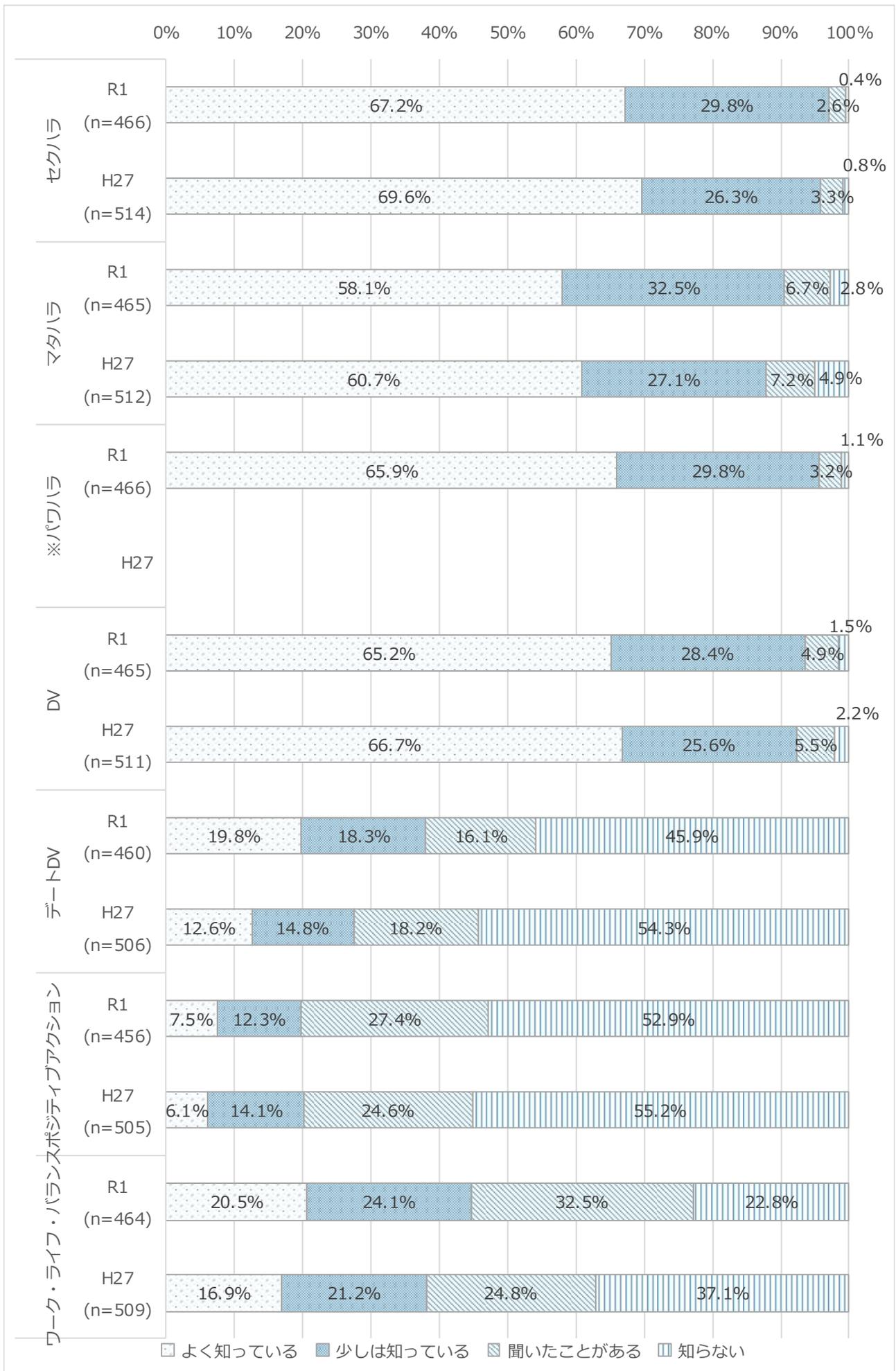
一方、「ポジティブアクション（積極的改善措置）（52.9%）」、「家族経営協定（71.5%）」については、「知らない」の割合が高くなっている。

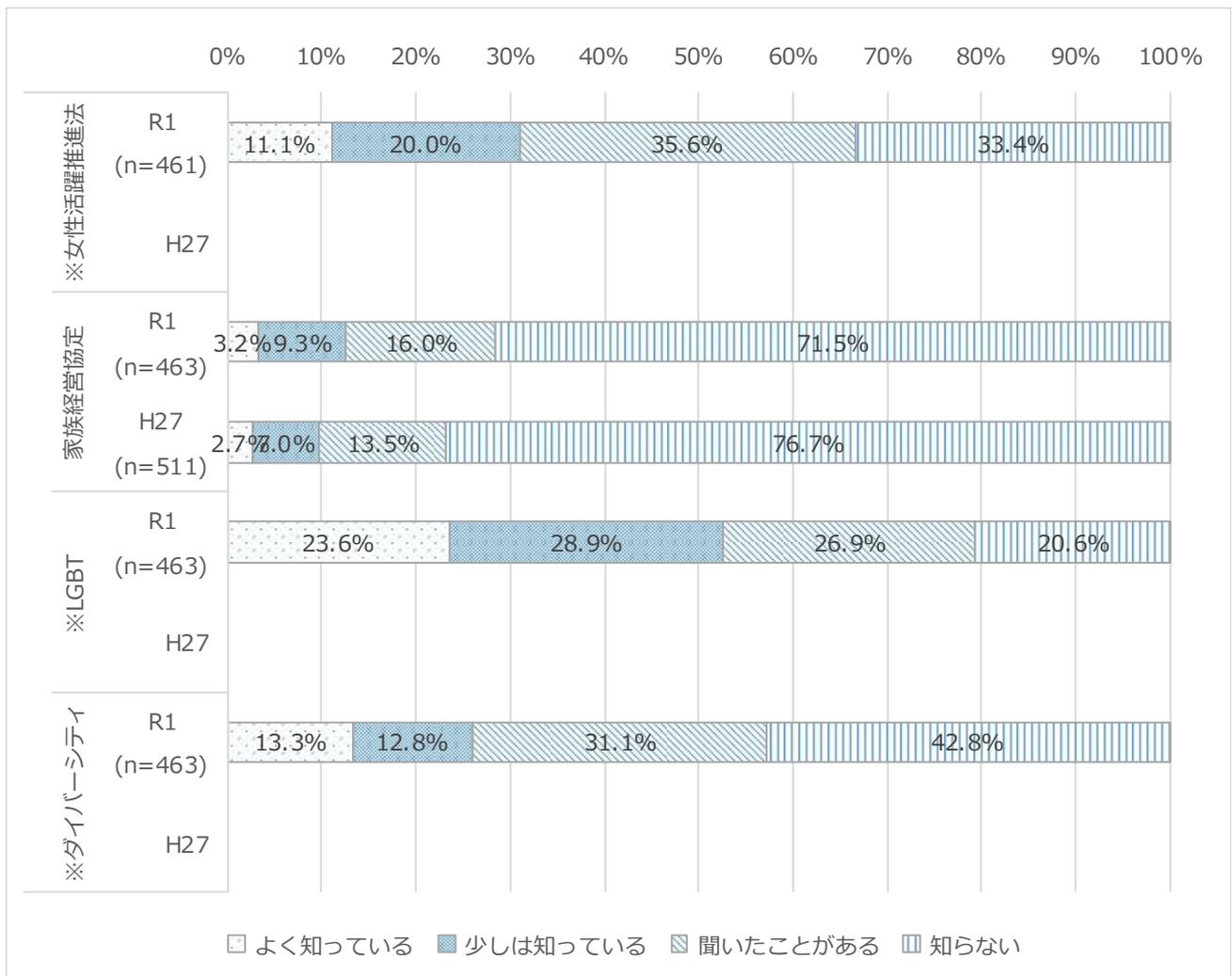
【前回との比較】

前回の調査と比較すると、ほぼすべての項目において『知っている』の割合が高くなっている。特に、「ジェンダー」が24.6ポイント、「デートDV」が10.7ポイント高くなっている。

図表16 男女共同参画用語の認知度







【知っている（よく知っている・少しは知っている）の割合】

性別でみると、男性と女性の認知度に最も開きがあったのは「ダイバーシティ」で、男性が7ポイント、次いで「男女共同参画社会基本法」で6.9ポイント男性が高くなっている。

年代別でみると、20歳代では、他の世代に比べ全体的な認知度は低い傾向にあるが、「セクハラ」、「パワハラ」、「DV」については100%となっていて、認知度が高くなっている。40歳代が他の世代に比べ全体的な認知度が高くなっている。

地区別でみると、「瑞穂地区」では、「セクハラ」、「パワハラ」の認知度が100%となっているが、「家族経営協定」は9.7%で、他の地区に比べ最も低くなっている。また、「白里地区」では、全体的に認知度が低くなっている。

(単位：パーセント)

		男女雇用機会均等法	男女共同参画社会基本法	ジェンダー	セクハラ	マタハラ	パワハラ	DV	デートDV	ポジティブアクション	ワークライフバランス	女性活躍推進法	家族経営協定	LGBT	ダイバーシティ
全体		76.4	40.5	55.2	97.0	90.6	95.7	93.6	38.1	19.8	44.6	31.1	12.5	52.5	26.1
性別	男性	77.9	44.2	54.0	96.0	89.4	96.0	92.5	34.8	19.3	48.2	33.8	13.6	52.3	30.3
	女性	75.2	37.3	56.7	97.7	92.2	95.7	95.3	41.5	20.5	42.1	29.2	11.8	53.1	23.3
年代	20歳代	50.0	30.0	60.0	100	96.7	100	100	43.3	10.3	50.0	20.0	6.7	60.0	30.0
	30歳代	74.1	31.5	75.9	98.1	94.4	98.1	98.1	42.6	16.7	57.4	33.3	13.0	70.4	44.4
	40歳代	81.0	27.6	56.1	96.6	89.7	96.6	98.3	41.4	17.5	55.2	34.5	17.2	54.4	34.5
	50歳代	77.8	40.7	63.0	98.8	97.5	98.8	98.8	48.1	27.2	53.1	29.6	13.6	49.4	32.1
	60歳代	78.9	39.4	46.9	96.1	87.5	93.8	90.6	31.5	18.3	32.0	29.7	11.7	51.6	18.9
	70歳以上	77.8	55.1	45.3	95.5	85.6	92.8	86.4	30.8	20.0	38.2	32.7	11.9	42.6	15.9
居住地区	瑞穂地区	85.4	40.2	60.6	100	96.2	100	97.1	40.2	15.7	46.6	29.1	9.7	56.9	28.4
	山辺地区	81.7	47.6	65.9	98.8	95.1	97.6	95.1	41.5	25.0	48.8	31.7	14.6	56.1	31.7
	大網地区	76.9	41.7	48.0	95.2	87.6	93.3	95.2	33.0	16.5	44.8	27.9	10.6	56.7	26.0
	増穂地区	68.4	37.1	56.3	96.9	88.8	94.9	88.8	40.2	26.5	42.9	37.1	17.3	51.0	22.7
	白里地区	67.6	36.5	45.9	93.3	83.8	92.0	90.5	36.5	15.3	39.2	30.1	10.8	38.4	20.5

※各属性において『知っている（よく知っている・少しは知っている）』を示している。

無回答は除く。

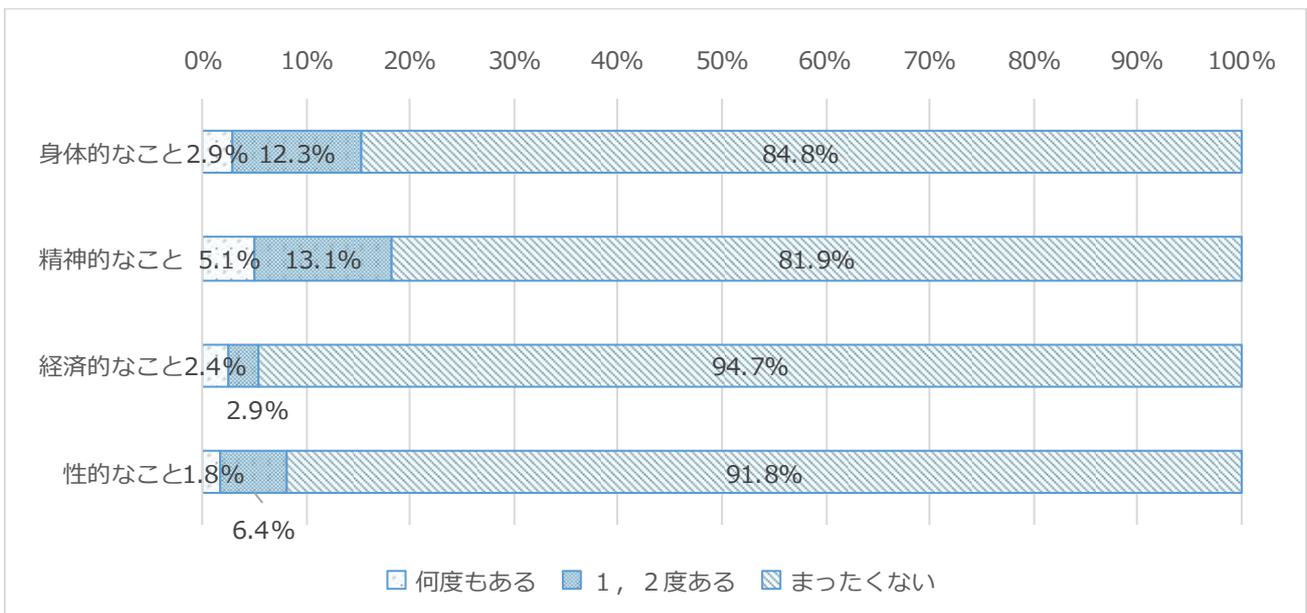
【ドメスティック・バイオレンス (DV) について】

問17 あなたは、配偶者やパートナーから次のような行為をされたことがありますか。

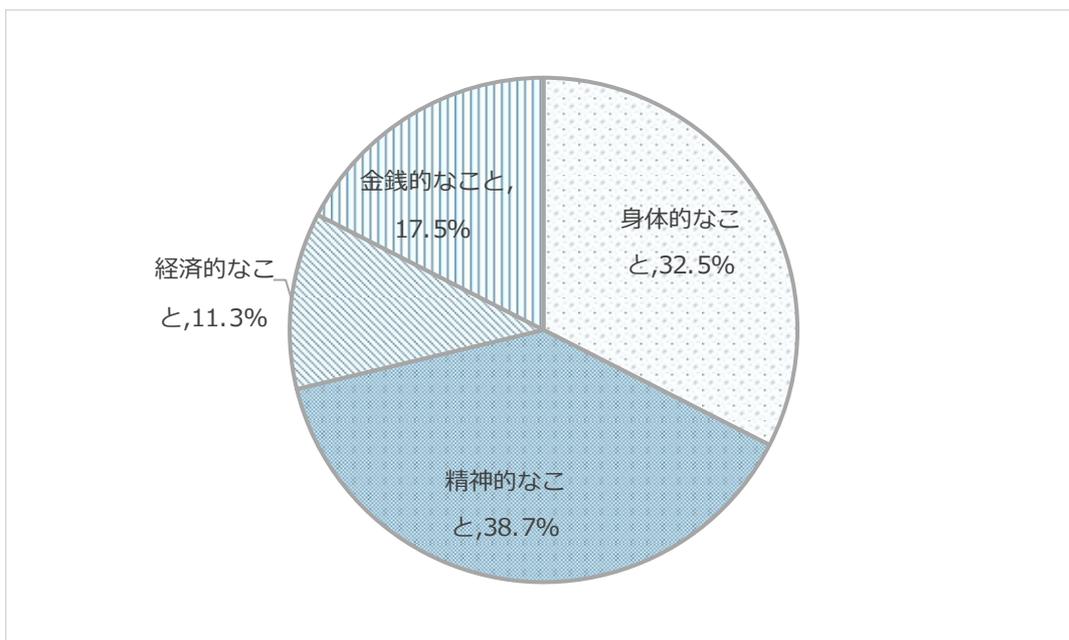
【全体】

DVを『受けたことがある』（「何度もある」と「1、2度ある」の合計）は約2割弱となっている。また、DVの中では、「精神的な暴力（18.2%）」、「身体的な暴力（15.2%）」の順に高くなっている。

図表17 DVを受けたことがある割合

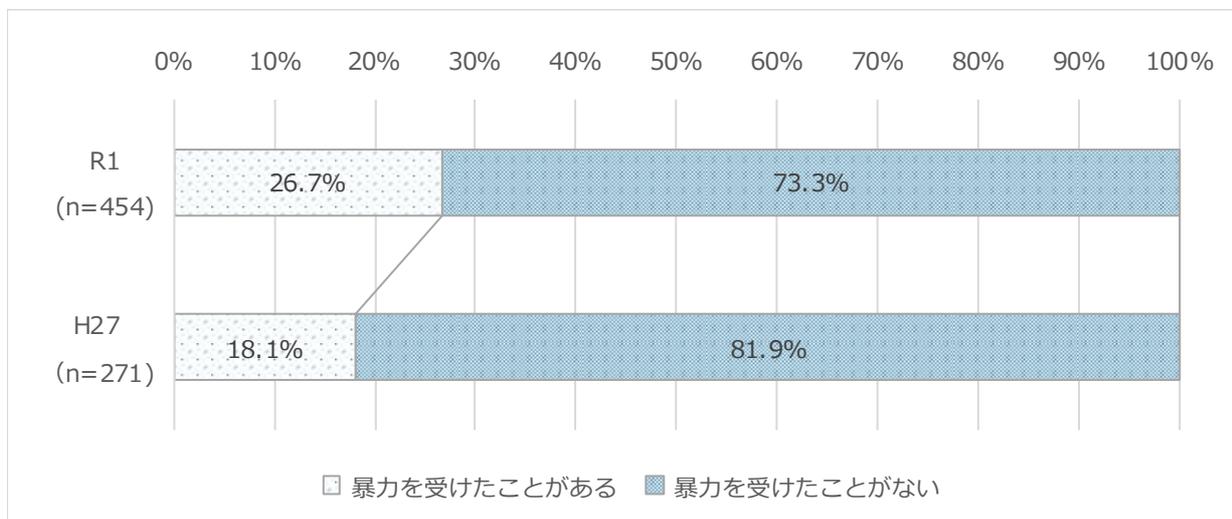


図表17-2 受けたことがあるDVの種類



【前回との比較】

前回の調査と比較すると、同一の質問ではないことから、厳密に比較することはできないが、前回の調査でも、「暴力を受けたことがある」、「暴力を受けたことがない」の選択肢があったことから、今回の調査でのいずれかの種類の暴力を受けたことがある割合との比較を行ったところ、「暴力を受けたことがある」は、8.6ポイント高くなっている。



【属性別】

性別でみると、暴力を『受けたことがある』割合は女性の方が高く、特に「性的な暴力」を受けたことがある女性の割合は12.8%で、男性の2.2%と比較すると、約6倍となっている。

年代別でみると、暴力を『受けたことがある』が高いのは、40歳代で、次いで30歳代となっている。

地区別でみると、「増穂地区」では、すべての暴力で『受けたことがある』の割合が高くなっている。

①身体的なこと

		回答合計	何度もある	1、2度ある	まったくない
全体		454	2.9%	12.3%	84.8%
性別	男性	191	2.1%	9.4%	88.5%
	女性	252	3.2%	15.1%	81.7%
	無回答	11	9.1%	0.0%	90.9%
年代	20歳代	27	3.7%	3.7%	92.6%
	30歳代	54	7.4%	9.3%	83.3%
	40歳代	59	1.7%	20.3%	78.0%
	50歳代	79	1.3%	15.2%	83.5%
	60歳代	124	2.4%	12.9%	84.7%
	70歳以上	107	1.9%	8.4%	89.7%
	無回答	4	25.0%	25.0%	50.0%

居住地区	瑞穂地区	102	3.9%	8.8%	87.3%
	山辺地区	80	3.8%	13.8%	82.5%
	大網地区	103	1.9%	8.7%	89.3%
	増穂地区	96	4.2%	18.8%	77.1%
	白里地区	71	0.0%	12.7%	87.3%
	無回答	2	0.0%	0.0%	100.0%

②精神的なこと

		回答合計	何度もある	1、2度ある	まったくない
全体		452	5.1%	13.1%	81.9%
性別	男性	190	4.2%	11.1%	84.7%
	女性	251	5.6%	14.3%	80.1%
	無回答	11	9.1%	18.2%	72.7%
年代	20歳代	27	3.7%	11.1%	85.2%
	30歳代	54	7.4%	14.8%	77.8%
	40歳代	59	13.6%	11.9%	74.6%
	50歳代	79	3.8%	16.5%	79.7%
	60歳代	124	3.2%	11.3%	85.5%
	70歳以上	106	1.9%	13.2%	84.9%
	無回答	3	33.3%	0.0%	66.7%
居住地区	瑞穂地区	101	3.0%	14.9%	82.2%
	山辺地区	79	5.1%	6.3%	88.6%
	大網地区	103	3.9%	13.6%	82.5%
	増穂地区	96	9.4%	19.8%	70.8%
	白里地区	71	4.2%	8.5%	87.3%
	無回答	2	0.0%	0.0%	100.0%

③経済的なこと

		回答合計	何度もある	1、2度ある	まったくない
全体		453	2.4%	2.9%	94.7%
性別	男性	190	1.1%	1.6%	97.4%
	女性	252	3.2%	4.0%	92.9%
	無回答	11	9.1%	0.0%	90.9%
年代	20歳代	27	0.0%	11.1%	88.9%
	30歳代	54	5.6%	1.9%	92.6%
	40歳代	59	1.7%	8.5%	89.8%
	50歳代	78	2.6%	1.3%	96.2%
	60歳代	124	2.4%	0.8%	96.8%
	70歳以上	107	0.9%	1.9%	97.2%

	無回答	4	25.0%	0.0%	75.0%
居住地区	瑞穂地区	102	2.0%	2.9%	95.1%
	山辺地区	80	1.3%	2.5%	96.3%
	大網地区	103	2.9%	1.9%	95.1%
	増穂地区	96	5.2%	5.2%	89.6%
	白里地区	70	0.0%	1.4%	98.6%
	無回答	2	0	0	2

④性的なこと

		回答合計	何度もある	1、2度ある	まったくない
全体		452	1.8%	6.4%	91.8%
性別	男性	190	1.1%	1.1%	97.9%
	女性	251	2.0%	10.8%	87.3%
	無回答	11	9.1%	0.0%	90.9%
年代	20歳代	27	3.7%	0.0%	96.3%
	30歳代	54	1.9%	5.6%	92.6%
	40歳代	59	0.0%	13.6%	86.4%
	50歳代	79	2.5%	8.9%	88.6%
	60歳代	124	1.6%	3.2%	95.2%
	70歳以上	106	0.9%	6.6%	92.5%
	無回答	3	33.3%	0.0%	66.7%
居住地区	瑞穂地区	101	1.0%	6.9%	92.1%
	山辺地区	80	2.5%	8.8%	88.8%
	大網地区	103	1.0%	4.9%	94.2%
	増穂地区	95	4.2%	8.4%	87.4%
	白里地区	71	0.0%	2.8%	97.2%
	無回答	2	0.0%	0.0%	100.0%

問18 これまでに暴力を受けたことについて、誰かに打ち明けたり、相談したことがありますか。

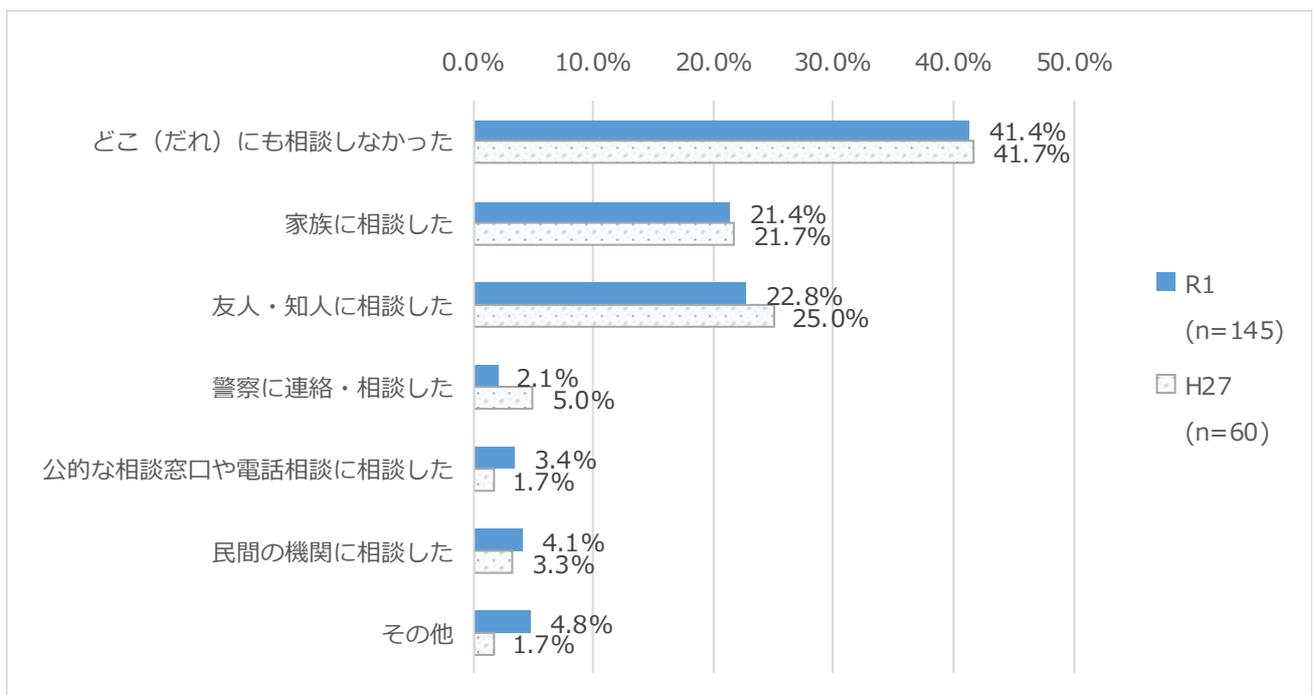
【全体】

「どこ（だれ）にも相談しなかった」が41.4%であり、「友人・知人に相談した」が22.8%、「家族に相談した」は21.4%、「警察に連絡・相談した」は2.1%となっている。

【前回との比較】

すべての項目において、前回と比較してほぼ同じ割合であったが、回答者の人数が2倍以上となっていることから、DVの概念が浸透してきていることが伺える。

図表18 暴力を受けたことを相談した場所



（その他意見）

- ・自分もやり返して発散した。
- ・一時的な行動で特に気にならなかった。
- ・口癖なのであまり気にしない。
- ・基本的に奥さんのことが好きだから。

【属性別】

性別で見ると、「どこ（だれ）にも相談しなかった」は男性では48.9%で、女性では38.3%となっている。

年代別でみると、20歳代では「家族に相談した」が50.0%、「友人・知人に相談した」が40.0%で、合計90.0%となり、誰かしらに相談していることが伺える。一方、70歳以上では「どこ（だれ）にも相談しなかった」が76.0%で最も高くなっている。

地区別でみると、「白里地区」では「どこ（だれ）にも相談しなかった」が9.1%で最も低くなっている。

		回答合計	どこ（だれ）にも相談しなかった	家族に相談した	友人・知人に相談した	警察に連絡・相談した	公的な相談窓口や電話相談に相談した	民間の機関 弁護士、医師、 カウンセラー等に相談した	その他
全体		145	41.4%	21.4%	22.8%	2.1%	3.4%	4.1%	4.8%
性別	男性	47	48.9%	19.1%	17.0%	4.3%	2.1%	2.1%	6.4%
	女性	94	38.3%	23.4%	26.6%	0.0%	3.2%	4.3%	4.3%
	無回答	4	25.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	25.0%	0.0%
年代	20歳代	10	0.0%	50.0%	40.0%	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%
	30歳代	19	47.4%	21.1%	26.3%	0.0%	0.0%	0.0%	5.3%
	40歳代	30	33.3%	26.7%	26.7%	3.3%	6.7%	3.3%	0.0%
	50歳代	27	40.7%	14.8%	22.2%	0.0%	3.7%	7.4%	11.1%
	60歳代	31	35.5%	29.0%	25.8%	3.2%	0.0%	0.0%	6.5%
	70歳以上	25	76.0%	4.0%	8.0%	0.0%	4.0%	4.0%	4.0%
	無回答	3	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	35	45.7%	22.9%	11.4%	2.9%	5.7%	8.6%	2.9%
	山辺地区	22	45.5%	13.6%	31.8%	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%
	大網地区	22	63.6%	18.2%	13.6%	0.0%	0.0%	0.0%	4.5%
	増穂地区	44	40.9%	20.5%	25.0%	2.3%	4.5%	4.5%	2.3%
	白里地区	22	9.1%	31.8%	36.4%	4.5%	4.5%	4.5%	9.1%

問19 相談しなかった理由はなぜですか。

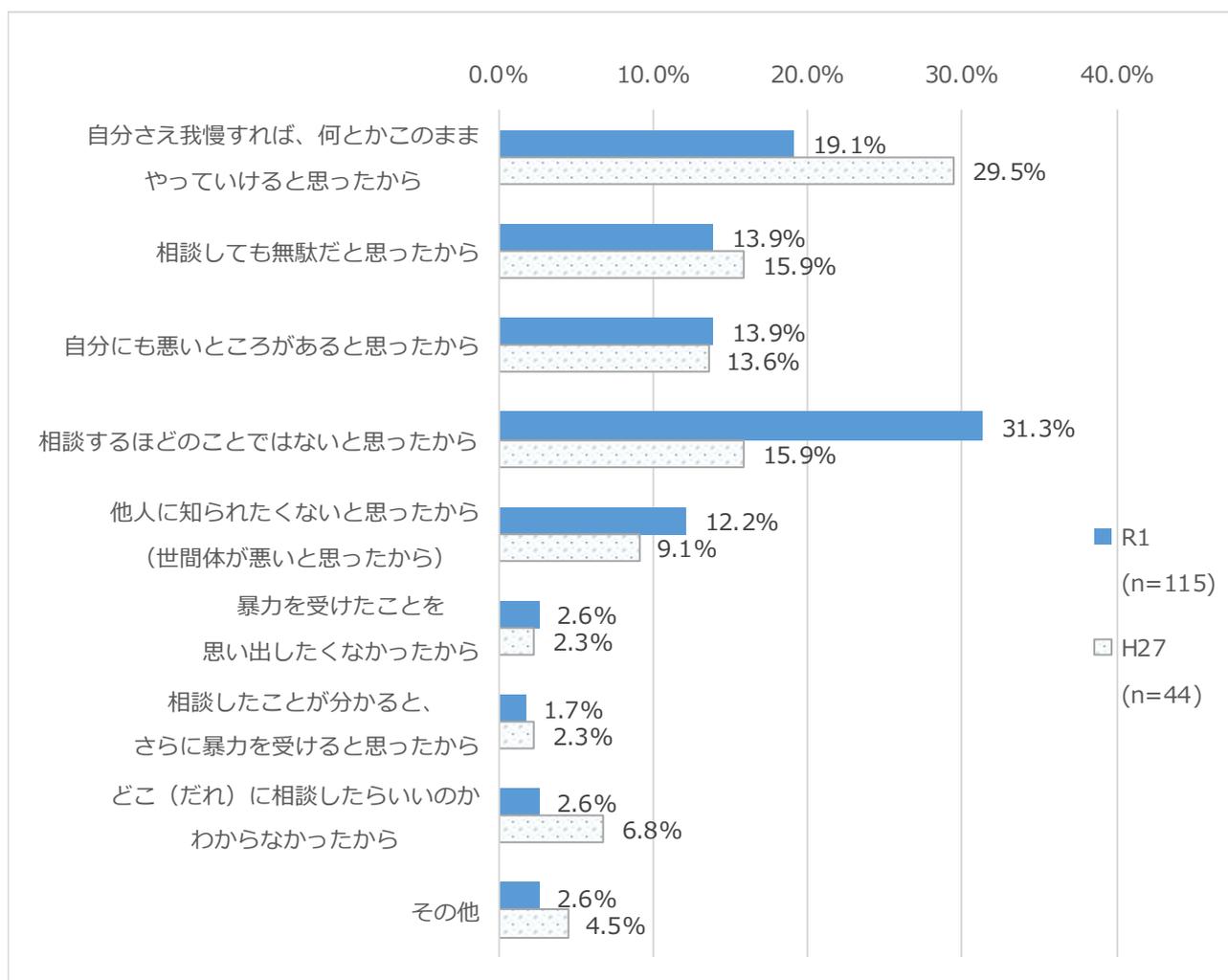
【全体】

「相談するほどのことではないと思ったから」が31.3%で、次いで、「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから」が19.1%となっている。

【前回との比較】

前回の調査では、「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから」が最も高かったが、今回の調査では、「相談するほどのことではないと思ったから」が31.3%で最も高くなっており、前回の調査の約2倍となっている。一方、「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから」は10.4ポイント低下している。

図表19 相談しなかった理由



(その他意見)

- ・誰も頼りにならないから。
- ・相談しても意味がない。特に公的機関。

・理由が知りたかったから。

【属性】

性別でみると、男女とも「相談するほどのことではないと思ったから」が最も高くなっている。次いで、男性では「相談しても無駄だと思ったから」が20.8%で、女性では「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから」が23.1%となっている。

年代別でみると、30歳代では、他の年代に比べ「相談しても無駄だと思ったから」が35.3%で最も高くなっており、「自分にも悪いところがあると思ったから」が5.9%で最も低くなっている。

地区別でみると、「山辺地区」では、「相談するほどのことではないと思ったから」が42.9%で、他の地区に比べ最も高くなっている。

		回答合計	自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから	相談しても無駄だと思ったから	自分にも悪いところがあると思ったから	相談するほどのことではないと思ったから	他人に知られたくないと思ったから 世間体が悪いと思ったから	暴力を受けたことを思い出したく なかったから	相談したことが分かると、さらに暴力を 受けると思ったから	どこ だれ）に相談したらいいのかわからなかったから	その他
全体		115	19.1%	13.9%	13.9%	31.3%	12.2%	2.6%	1.7%	2.6%	2.6%
性別	男性	48	12.5%	20.8%	14.6%	31.3%	12.5%	0.0%	2.1%	4.2%	2.1%
	女性	65	23.1%	9.2%	13.8%	30.8%	12.3%	4.6%	1.5%	1.5%	3.1%
	無回答	2	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年代	20歳代	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	17	11.8%	35.3%	5.9%	23.5%	17.6%	0.0%	0.0%	5.9%	0.0%
	40歳代	19	5.3%	10.5%	15.8%	31.6%	15.8%	0.0%	5.3%	10.5%	5.3%
	50歳代	28	25.0%	14.3%	14.3%	28.6%	14.3%	3.6%	0.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	21	19.0%	14.3%	14.3%	28.6%	9.5%	4.8%	0.0%	0.0%	9.5%
	70歳以上	30	26.7%	3.3%	16.7%	40.0%	6.7%	3.3%	3.3%	0.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	30	20.0%	6.7%	16.7%	36.7%	10.0%	3.3%	3.3%	3.3%	0.0%
	山辺地区	14	14.3%	14.3%	7.1%	42.9%	7.1%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	大網地区	27	18.5%	22.2%	7.4%	22.2%	14.8%	0.0%	0.0%	3.7%	11.1%
	増穂地区	37	18.9%	10.8%	18.9%	32.4%	13.5%	0.0%	2.7%	2.7%	0.0%
	白里地区	7	28.6%	28.6%	14.3%	14.3%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

問20 DVについて、今後、行政に対してどのような対応等を望みますか。

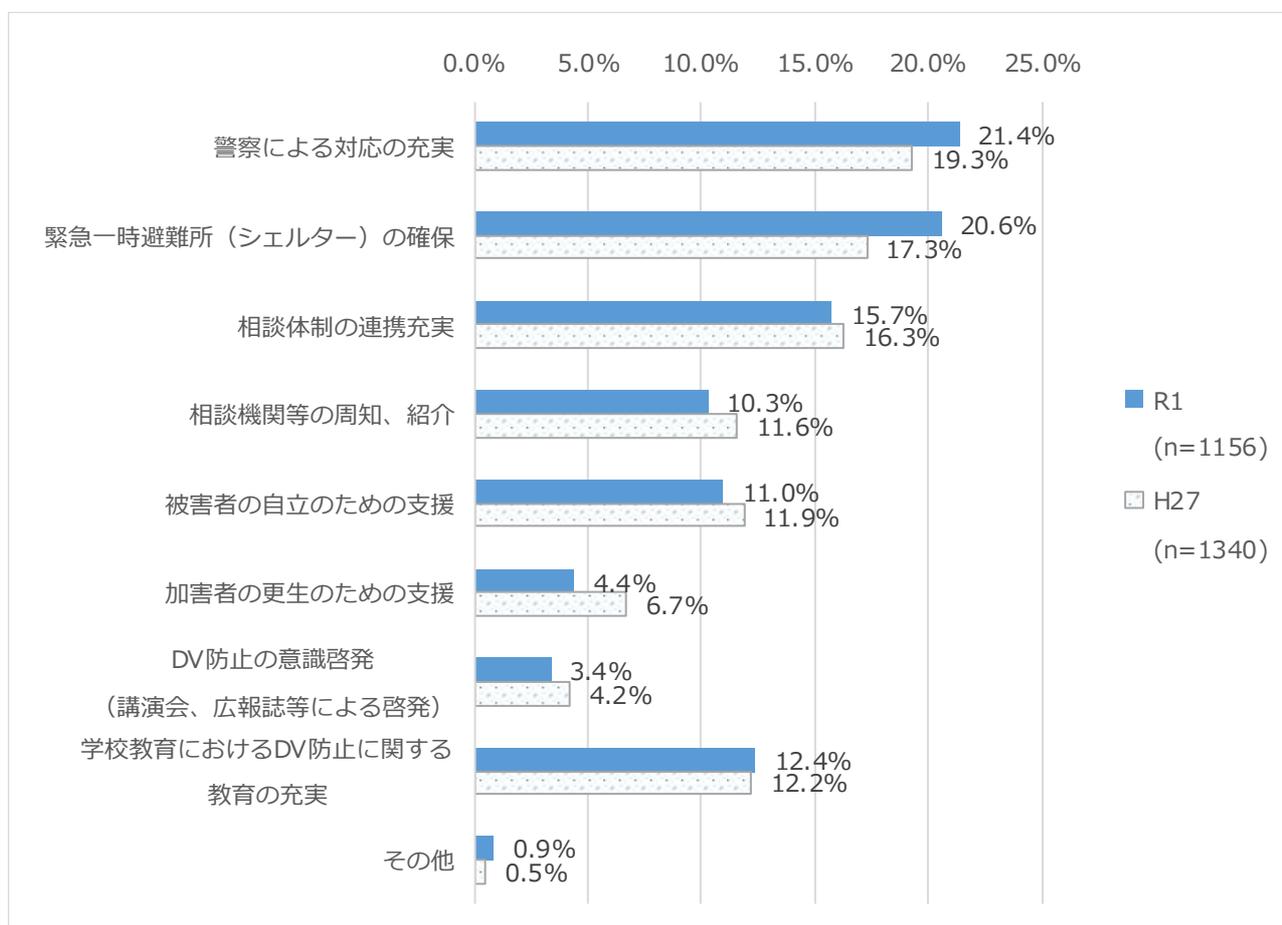
【全体】

「警察による対応の充実」が21.4%で最も高く、次いで「緊急一時避難所（シェルター）の確保」が20.6%、「相談体制の連携充実」が15.7%となっている。

【前回との比較】

前回の調査と比較すると、「警察による対応の充実」が2.1ポイント、「緊急一時避難所の確保」が3.3ポイント高くなっている。一方、「加害者の更生のための支援」は、2.3ポイント低くなっている。

図表20 行政に対して望むDVへの対応



（その他意見）

- ・加害者の監視体制の強化。
- ・傷害事件とし、送検と厳罰化、今の法令はゆるい。
- ・相談機関の担当者の意識改革。
- ・加害者への厳罰化。
- ・すべて。

- ・DV 加害者の厳罰化。更生しても治らない。三つ子の魂 100 まで。人はそんなに簡単に変わらない。
- ・加害者が DV をするに至った経緯や当人の人格、育った環境分析を行い、発生件数の減少に努めること。
- ・DV について気軽に話せる社会になること。
- ・わかりません。
- ・見極めが大切。

【属性別】

性別でみると、「相談体制の連携充実」と「学校教育におけるDV防止に関する教育の充実」が男性に比べ、女性の割合が比較的高かった。

年代別、地区別でみると、属性による大きな差異はない。

		回答合計	警察による対応の充実	緊急一時避難所 （シェルター） の確保	相談体制の連携充実	相談機関等の周知、紹介	被害者の自立のための支援	加害者の構成の為の支援	DV防止の意識啓発 講演会、広報紙等による啓発	学校教育におけるDV防止に 関する教育の充実	その他
全体		1156	21.4%	20.6%	15.7%	10.3%	11.0%	4.4%	3.4%	12.4%	0.9%
性別	男性	1106	15.7%	30.9%	9.6%	13.3%	10.0%	6.3%	3.5%	7.0%	3.6%
	女性	647	18.4%	22.3%	16.1%	10.2%	12.1%	6.2%	2.6%	12.1%	0.2%
	無回答	23	21.7%	21.7%	21.7%	13.0%	4.3%	0.0%	0.0%	13.0%	4.3%
年代	20歳代	68	26.5%	25.0%	20.6%	7.4%	7.4%	2.9%	0.0%	10.3%	0.0%
	30歳代	143	26.6%	19.6%	13.3%	8.4%	10.5%	5.6%	0.0%	14.7%	1.4%
	40歳代	338	15.7%	31.7%	10.4%	8.9%	13.0%	7.7%	2.7%	8.3%	1.8%
	50歳代	212	21.2%	21.7%	15.1%	11.3%	12.7%	3.8%	1.9%	11.3%	0.9%
	60歳代	705	12.8%	31.5%	10.9%	15.2%	10.2%	5.8%	3.5%	6.2%	3.8%
	70歳以上	257	19.1%	18.7%	16.3%	10.1%	10.9%	3.9%	6.6%	14.4%	0.0%
	無回答	9	22.2%	33.3%	11.1%	11.1%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%	11.1%
居住地区	瑞穂地区	265	20.0%	20.4%	18.5%	10.6%	10.6%	6.4%	2.6%	10.9%	0.0%
	山辺地区	220	24.1%	24.1%	14.5%	6.8%	8.6%	4.5%	3.2%	14.1%	0.0%
	大網地区	249	22.9%	17.3%	16.5%	10.4%	12.4%	4.4%	3.6%	10.8%	1.6%
	増穂地区	248	16.1%	21.8%	14.1%	12.9%	12.1%	3.2%	3.6%	14.5%	1.6%
	白里地区	171	25.1%	19.3%	14.6%	10.5%	11.1%	2.9%	4.1%	11.1%	1.2%

【ストーカー行為について】

問21 あなたはこれまでに、ストーカー（つきまとい、電話、メール等）の被害にあったことがありますか。

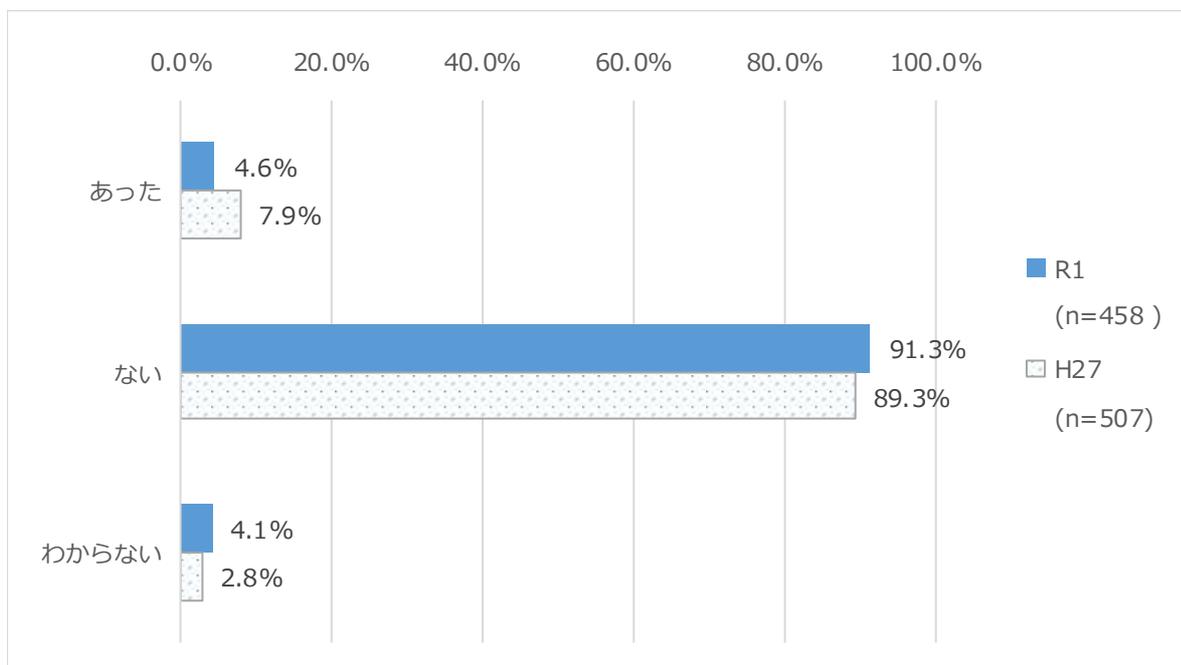
【全体】

「あった」は4.6%、「ない」は91.3%、「わからない」は4.1%となっている。

【前回との比較】

前回の調査と比較すると、「あった」と答えた割合は、3.3ポイント低くなっている。

図表21 ストーカー被害の割合



【属性別】

性別で見ると、「あった」は男性では2.6%、女性では6.0%であった。年代別では、40歳代では「あった」が8.5%で最も高くなっている。地区別では、「あった」が比較的高かったのは「増穂地区(7.2%)」、「白里地区(7.0%)」となっている。

		回答合計	あった	ない	わからない
全体		458	4.6%	91.3%	4.1%
性別	男性	196	2.6%	93.9%	3.6%
	女性	252	6.0%	89.7%	4.4%
	無回答	10	10.0%	80.0%	10.0%
年代	20歳代	30	3.3%	86.7%	10.0%
	30歳代	54	5.6%	90.7%	3.7%
	40歳代	59	8.5%	91.5%	0.0%
	50歳代	81	6.2%	88.9%	4.9%
	60歳代	125	3.2%	92.8%	4.0%
	70歳以上	105	1.0%	95.2%	3.8%
	無回答	4	50.0%	25.0%	25.0%
居住地区	瑞穂地区	103	4.9%	91.3%	3.9%
	山辺地区	82	1.2%	93.9%	4.9%
	大網地区	103	2.9%	94.2%	2.9%
	増穂地区	97	7.2%	89.7%	3.1%
	白里地区	71	7.0%	85.9%	7.0%
	無回答	2	0.0%	100.0%	0.0%

問 2 2 これまでにストーカー行為について、誰かに打ち明けたり、相談したことがありますか。

【全体】

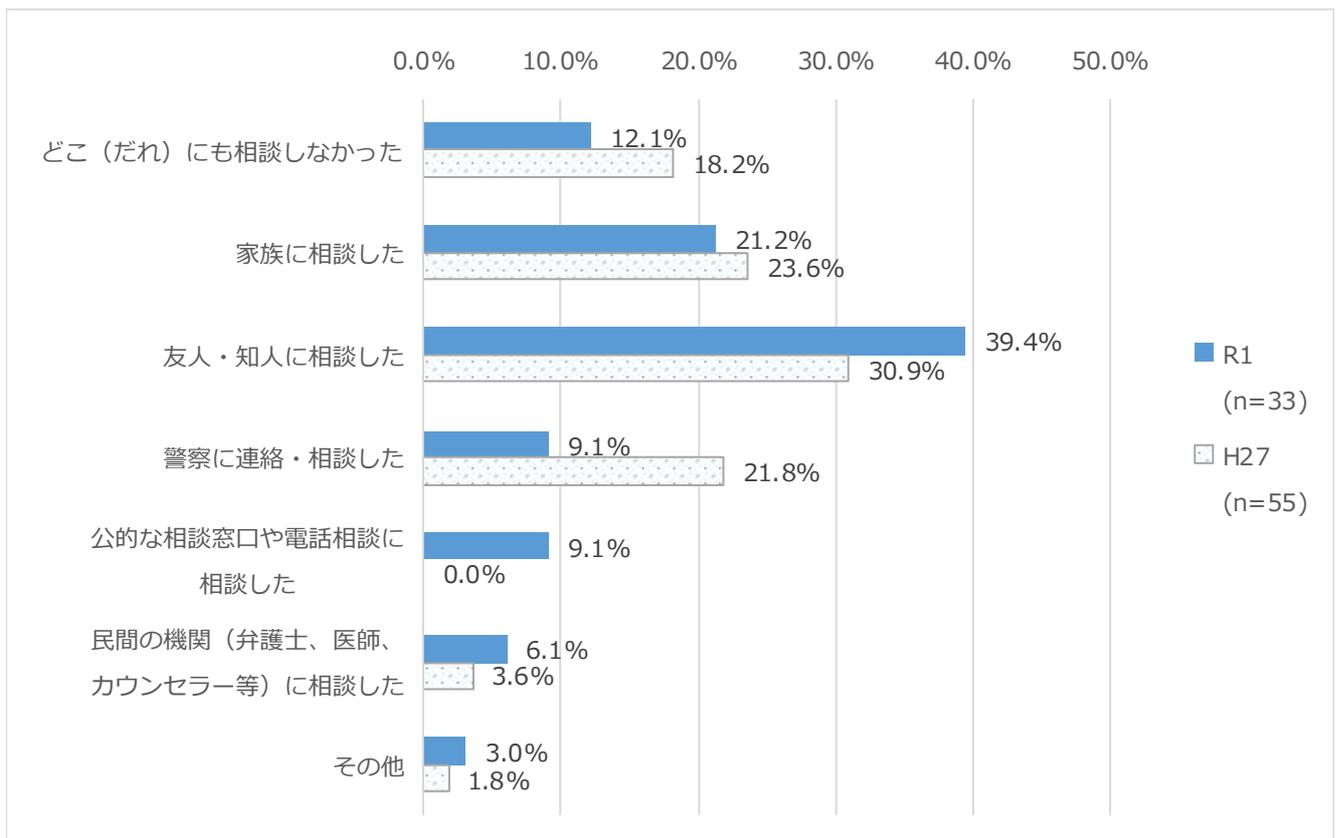
「友人・知人に相談した」が39.4%で最も高く、次いで「家族に相談した」が21.2%、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が12.1%となっている。

【前回との比較】

前回の調査と比較すると、「友人・知人に相談した」の割合が8.5ポイント高くなっている。また、前回の調査では、「公的な相談窓口や電話相談に相談した」が、0%であったが、今回の調査では、9.1%となっている。

一方、「警察に連絡・相談した」は、12.7ポイント低くなっている。

図表 2 2 ストーカー行為について相談した場所



（その他意見）

- ・会社の上司。

【属性別】

性別でみると、男女とも「公的な相談窓口や電話相談に相談した」が最も高くなっている。

		回答合計	どこだれ)にも相談しなかった	警察に連絡・相談した	公的な相談窓口や電話相談に相談した	民間の機関 弁護士、医師、 カウンセラー等)に相談した	家族に相談した	友人・知人に相談した	その他
全体		33	12.1%	21.2%	39.4%	9.1%	9.1%	6.1%	3.0%
性別	男性	9	11.1%	11.1%	44.4%	11.1%	11.1%	11.1%	0.0%
	女性	21	14.3%	23.8%	42.9%	4.8%	9.5%	0.0%	4.8%
	無回答	3	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%
年代	20歳代	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	3	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	40歳代	9	11.1%	22.2%	33.3%	11.1%	11.1%	11.1%	0.0%
	50歳代	9	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	22.2%	0.0%	11.1%
	60歳代	6	0.0%	16.7%	66.7%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	70歳以上	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	4	25.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	6	33.3%	16.7%	16.7%	0.0%	16.7%	0.0%	16.7%
	山辺地区	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	大網地区	3	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	増穂地区	12	8.3%	25.0%	41.7%	16.7%	0.0%	8.3%	0.0%
	白里地区	11	0.0%	27.3%	36.4%	9.1%	18.2%	9.1%	0.0%

【男女共同参画社会実現に向けての取組みについて】

問23 「男女共同参画社会」を実現するために、市の施策に望むことは何ですか。

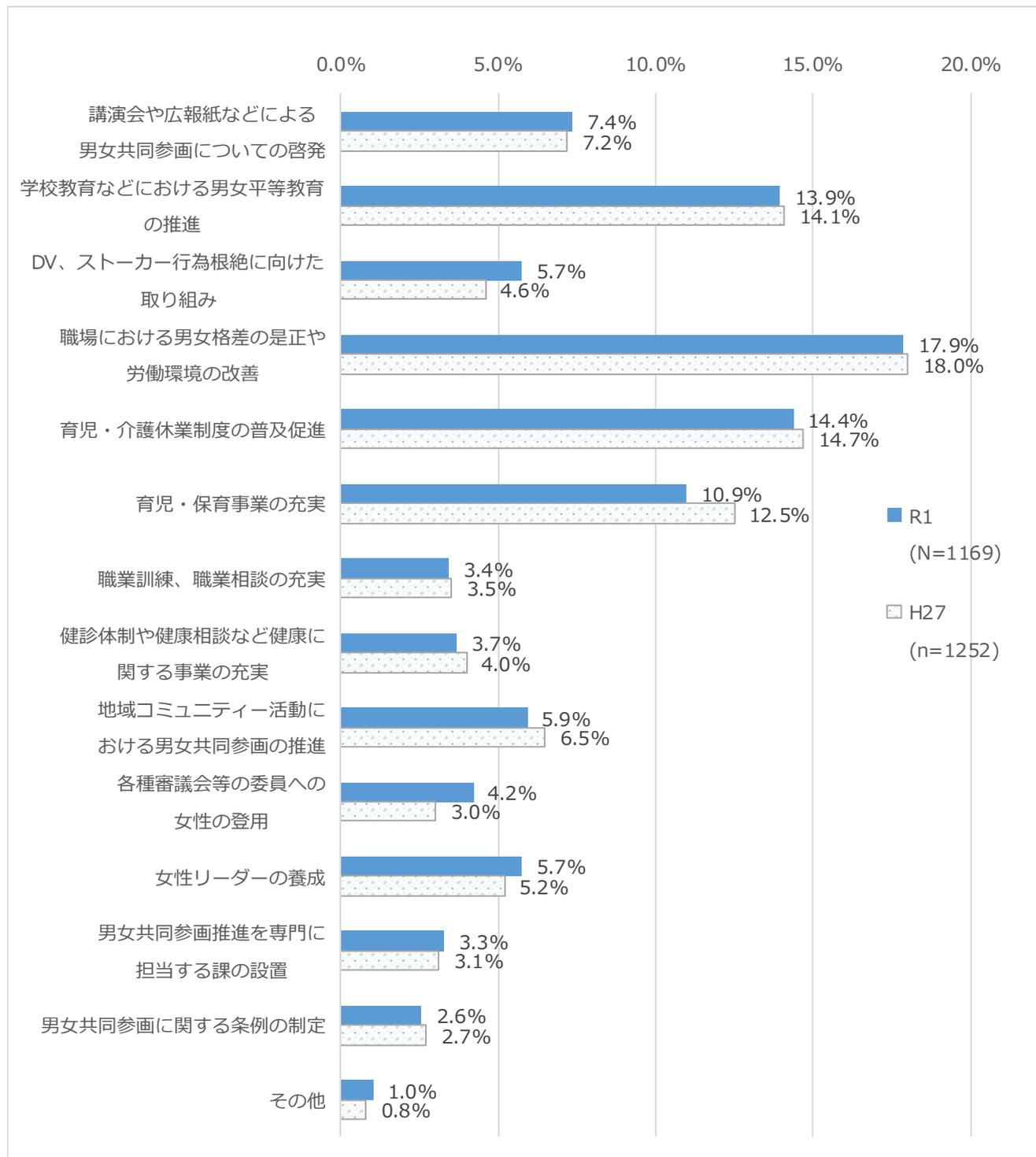
【全体】

「職場における男女格差の是正や労働環境の改善」が17.9%で最も高く、次いで「育児・介護休業制度の普及促進」が14.4%、「学校教育などにおける男女平等教育の推進」が13.9%となっている。

【前回との比較】

前回の調査と比較すると、今回の調査でも、前回と同じ施策についての要望が高く、割合もほぼ同じであった。

図表 2 3 男女共同参画社会実現のための施策



(その他意見)

- ・ 女性議員 50% 割当制度の制定。
- ・ システムや制度の充実以前に社会の考え方を根本的に改革しなくては成り立たない。
- ・ 一人の収入で、生活が成り立つ賃金、社会保障、男も必ずしも生活（収入）のために働いていない。女性が働きたいときに働くのはとても良いが、生活のために働かされるのは嫌との声も聞きます。
- ・ 介護事業。

- ・市内経営者を集め、参画社会推進勉強会を年に数回開催する。経営する側からの勉強を始めなければ意味がない。
- ・政治が変わること。安部政権では変わらない。
- ・同じ仕事で同一賃金を雇用形態に関係なく実施。
- ・学校教育でいじめは犯罪であると小さいときから教育して欲しい。
- ・わかりません。 2件

【属性別】

性別でみると、男女とも「職場における男女格差の是正や労働環境の改善」が最も高く、次いで男性は「学校教育などにおける男女平等教育の推進」で13.2%、女性は「育児・介護休業制度の普及促進」で16.4%となっている。

年代別でみると、30歳代及び40歳代で「育児・介護休業制度の普及促進」が最も高くなっており、50歳代では「学校教育などにおける男女平等教育の推進」が最も高くなっている。

地区別でみると、「大網地区」では「育児・介護休業制度の普及促進」が18.8%で最も高くなっているが、その他の地区では「職場における男女格差の是正や労働環境の改善」が最も高くなっている。

		回答合計	講演会や広報紙などによる 男女共同参画についての啓発	学校教育などにおける 男女平等教育の推進	DV、 ストーカー行為根絶に 向けた取り組み	職場における男女格差の 是正や労働環境の改善	育児 介護休業制度の普及促進	育児・ 保育事業の充実	職業訓練、 職業相談の充実
全体		1169	7.4%	13.9%	5.7%	17.9%	14.4%	10.9%	3.4%
性別	男性	514	8.8%	13.2%	4.3%	18.7%	12.1%	11.3%	3.1%
	女性	628	5.9%	14.3%	6.7%	17.2%	16.4%	11.1%	3.5%
	無回答	27	14.8%	18.5%	11.1%	18.5%	11.1%	0.0%	7.4%
年代	20歳代	85	3.5%	14.1%	5.9%	23.5%	20.0%	22.4%	0.0%
	30歳代	134	4.5%	14.2%	5.2%	17.9%	18.7%	17.9%	3.7%
	40歳代	141	5.7%	11.3%	9.2%	13.5%	19.9%	12.1%	5.0%
	50歳代	197	3.6%	15.2%	7.1%	14.7%	14.2%	9.1%	7.1%
	60歳代	311	9.6%	14.1%	4.2%	20.9%	11.3%	8.4%	3.2%
	70歳以上	289	11.1%	14.2%	4.8%	17.0%	11.1%	8.0%	1.4%
	無回答	12	0.0%	8.3%	8.3%	25.0%	25.0%	8.3%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	263	6.1%	14.4%	5.3%	20.5%	14.4%	10.6%	4.2%
	山辺地区	212	5.7%	18.9%	5.2%	18.9%	14.2%	10.4%	1.9%
	大網地区	85	9.4%	14.1%	7.1%	10.6%	18.8%	7.1%	3.5%
	増穂地区	261	11.1%	13.4%	6.1%	19.2%	11.9%	8.8%	3.8%

白里地区	176	6.8%	12.5%	6.3%	18.2%	13.6%	9.7%	2.3%
無回答	6	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%

		回答合計	健診体制や健康相談など 健康に関する事業の充実	地域コミュニティー活動における 男女共同参画の推進	各種審議会等の委員への女性の登用	女性リーダーの養成	男女共同参画推進を専門に 担当する課の設置	男女共同参画に関する条例の制定	その他
全体		1169	3.7%	5.9%	4.2%	5.7%	3.3%	2.6%	1.0%
性別	男性	514	2.9%	6.2%	4.5%	6.2%	3.7%	3.7%	1.4%
	女性	628	4.1%	5.4%	4.1%	5.6%	3.0%	1.8%	0.8%
	無回答	27	7.4%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年代	20歳代	85	2.4%	0.0%	2.4%	3.5%	1.2%	1.2%	0.0%
	30歳代	134	3.0%	2.2%	3.0%	4.5%	3.0%	1.5%	0.7%
	40歳代	141	7.8%	2.8%	0.7%	5.7%	2.1%	0.0%	4.3%
	50歳代	197	2.5%	3.6%	4.1%	10.2%	3.0%	5.1%	0.5%
	60歳代	311	2.3%	7.7%	7.1%	4.5%	4.2%	1.9%	0.6%
	70歳以上	289	4.5%	10.7%	3.8%	5.5%	3.5%	3.8%	0.7%
	無回答	12	8.3%	0.0%	8.3%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%
居住地区	瑞穂地区	263	3.8%	4.9%	4.2%	4.9%	3.0%	2.7%	0.8%
	山辺地区	212	3.3%	4.7%	5.2%	7.1%	1.9%	1.9%	0.9%
	大網地区	85	5.9%	4.7%	3.5%	7.1%	4.7%	3.5%	0.0%
	増穂地区	261	3.4%	6.1%	3.1%	5.4%	3.8%	2.7%	1.1%
	白里地区	176	4.5%	9.1%	3.4%	6.8%	2.8%	3.4%	0.6%
	無回答	6	0.0%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%

問24 「男女共同参画社会」を実現していくまちづくりについて、ご意見、ご要望、感じていることなど、なんでも結構ですので自由に記入してください。

【自由意見（主なもの）】

※趣旨に変更を加えない範囲で加筆・修正しています。

（1）男女共同参画社会全般について

- ◆現在は共働き家庭が増え、娘たちも家庭、子育て、仕事に奮闘している。見ていて本当に大変だと思う。もう少し、ゆったりとした時間を過ごせないかとも思う。また、せわしない中で子ども達に影響がなければと思ってしまう。核家族が多い昨今、夫婦だけでは乗り越えられない時もあるはず。サポートを受けられない家庭はどうしているのだろうか？政治、社会、職場がもっともっと変わっていかねばならないと思う。そして、家庭においては男の人の意識が変わらねば、女性が活躍できる社会はなかなか難しいように思う。【女性 70歳以上】
- ◆食料品スーパーはもちろんのこと、衣料品スーパーで男性が単身で、買い物をしていても違和感を感じなくなってきた。スーパーで、家族で買い物をしている光景はとても幸せそうだった。また、地域活動には、（草刈りなど）男性の力が必要だと思う。【女性 70歳以上】
- ◆男女平等の実情は、地域、歴史、経済状況等で地域差の大きい問題だから、この地の現役世代の実情、要望を明らかにして、方向性を進める方がいいと思います。【女性 70歳以上】
- ◆物事は互いに信頼しあい、各人の能力を認め、適材適所で進めればよいと思う。無理に決め事を作る必要はないと思う。不平不満ばかりから良い人間関係は生まれてこないと思う。また、良い女性リーダーも生まれないだろう。互いに自然体で協力し合うことを願っている。【男性 70歳以上】
- ◆単純にこの問題だけを解決すればよいとは思わない。その他、様々な取り巻く環境をバランスよく対策する必要がある。【男性 40歳代】
- ◆「男性には男性の生まれ持つての能力が」、「女性には女性の生まれ持つての能力が」それぞれを尊重しあって、この世界は成り立つと思います。「男女共同参画社会」という枠にあてはめなくてもいいと思います。自然体でいくべきです。男性も女性もここでやりたいこと、好きなことを自由に進んでいくべきです。あと、自由でも責任のない自由はないということを知らなくてはいけないと思います。結婚して好きなこともしたいとなると、子どもが生まれたり、思っていたことができないとなったり、夫が協力してくれないとなったりします。そうならない前に考えるべきです。子どもは5歳くらいまでは母親がそばにいて育てた方が子どものためにもいいと思います。ゆとりのある社会でないといいアイデアやいい社会は成り立たなくなってしまう。【女性 60歳代】

- ◆大綱は都会と違い、頭の固い高齢者が幅をきかせています。そのくせ、女性が困ってるときは助けてくれず、役立たずだと思います。早く世代交代してほしいと思っています。
【女性 30 歳代】
- ◆男性が優位という意識を変えるような根本的な考え方を改革することが必要だと思う。ハードが整備されてもソフトが変わらなければ何も変わらない。小学校や中学校のPTA業務が母親が主体になっている。専業主婦が多い時代のまま何も改善されていない。生涯学習など、休暇を取得してまで参加しようと思わない。時代に合う柔軟な制度へ改革してほしい。・こういったアンケートを行って、それがどの程度、改革や改善につながっていくのか？というも疑問です。望んでいる事は大きな改革や改善ではなく、日常の小さなことに対してです。大きな枠組みを変えたいならば、本当にわずらわしいPTA業務や休日に要請される動員など、家庭生活を脅かすことをひとつずつ改善し、その先に男女平等や育児介護制度の充実を計ってもらいたいです。日常での足かせがはずれないのでは、制度も法律も意味がないです。【女性 40 歳代】
- ◆男性、女性と性別関係なく過ごせる社会に移り変わりつつある中で、男性の育児参加への職場環境の整備や男性1人で子どもを育てる人の育児制度の充実など男性も家事や育児に取り組みやすい環境制度を検討し、実現して行って欲しいと思います。【女性 40 歳代】
- ◆女性専用車両（ラッシュ時）は差別だ。区別なら男性専用も作った方がよい。【男性 50 歳代】
- ◆女性の参画への積極性がまだ感じられない。町内会の役員への参画など女性はもっと積極的に手を上げるよう意識を持つべきと思う。【男性 70 歳以上】
- ◆農家さんなどの多い地域と東京等へ会社員として働きに行く人が多い地域で意見が異なると思いますが、子どもの預け先は、共働きの障害になっていると思います。また、市内では、事務職が少ないと感じます。企業の誘致で市内の会社勤めの人が増えれば環境は良くなるかと思います。無駄な道路工事等を減らして、産業構造の多様化を検討してみるのもよいのでは、あまりこの街に、期待はしていませんが・・・。【男性 50 歳代】
- ◆年配者の意識を変えること。【男性 60 歳代】
- ◆日本の男尊女卑の社会的通念は国際的に見てまだひどすぎる。60代～70代の年配者でまだ女性差別意識が強すぎる。地域社会の運動で、そのため女性リーダーが少なすぎる。男女共同参画社会への啓蒙がカギである。自分は老人会や防災活動をしているが、女性のリーダーが少ない事が悩みである。【男性 60 歳代】
- ◆男女の肉体的・精神的の違いがあるので、すべてが平等にできるとは思わないが違いを理解し、尊重し合う事が一番大切だと思う。【男性 50 歳代】
- ◆まず、「男だから」「女だから」をなくしていくのが先決です。そして、事件が起こったら真実を追究を。隠蔽とか、くさいものにふたをするような体制をなくし、人権を守り抜き

ましょう。結局は、それが最善策だと思います。自分のためにも、市民のためにも。【男性 20 歳代】

- ◆男女共同参画社会・・・市民のどれだけの人が理解しているのか？この言葉の理解等わかりやすい、誰もが知っていることから推し進めていくべきだと思う。【女性 70 歳以上】
- ◆改造内閣の顔ぶれを見ても女性が2人であり、これからの課題ではないだろうか。【女性 70 歳以上】
- ◆男は男、女は女。同じではないことを十分理解されたい。【男性 60 歳代】
- ◆数字のみの「男女平等」が正しいとは思わないですし、条件、状況によって不平等にならざるを得ないと思います。時短勤務の人が増えると、他の社員の負担が増える。結果として、残業代が増えることになる。このような状況でも、女性や時短勤務者を同一の職場に配置する必要はあるのか？「私は妊婦です。優遇してもらって当然でしょ」「私は時短だから、後はよろしくね」という風潮がまかり通るのはおかしいと思う。これでは、格差や不平等が存在する社会はなくならないと思います。世の中全体が、女性の権利ばかり主張していて、「逆差別」や能力のない女性がリーダーになってしまう状況はなくしていくべきだと思います。「妊婦でも仕事は出来る。降格はおかしい」と会社を訴えた女性達もいますが、妊婦に対する会社側の優しさや配慮があったのでは？と思う。そのような「配慮」を踏みにじるような女性達の主張に違和感を覚えます。【女性 30 歳代】
- ◆私はあまり健康ではないので、逆に「平等」と強く言われると困ります。男女平等も大切ですが、「ここまではできる」が人それぞれ違います。「平等」と「誰かを助けること」を同時に大切に考えた方が良くと思います。【女性 30 歳代】
- ◆若い頃は、仕事を続けたいと考えていましたが、子育ては思ったより大変で続けていくことはできませんでした。子どもが大きくなり、また仕事を始めようと思っても、思うように就職ができず、時代の変化に戸惑いました。やっと自分に合った仕事に就くことはできましたが、正社員ではなく、収入はとても少ないのですが、これも時代の流れなのかと諦めるしかありません。やはり女性は仕事と家庭の両立は、私の生きてきた時代には、無理でした。これからの女性は、仕事、家庭、介護に振り回されないで生きられるようになればいいですね。【女性 60 歳代】
- ◆男は稼ぐ人、女は家庭を守る人的な考えが昔からずっと続いており、女性も就職するまでは輝いているが、結婚したら、子どもができたなら仕事をやめる、それまでの状態が多く見受けられた。社会の変化により、諸々の問題が起こってきた。高齢化社会を迎えて、労働人口が少なくなったからといって、定年制を延長したり、男女共同参画を言い出したりするのは遅すぎる。首切りにあったり、意に反して退職させられた人達ももう高齢者入りとなっている。【男性 70 歳以上】

- ◆私の時代は男は仕事、女は家庭を守るという平均的な中で育って来ましたので、女がしゃしゃり出るものではないとよく言われました。今の若い方々には、適材適所で男女ともにいろいろな場で力を発揮して欲しいと思います。【女性 70 歳以上】
- ◆「男女共同参画社会」というものが、何を指しているのかわからない。日本の家庭では、昔から男女が協力して生活をしていたと思う。男が威張っているだけということはなかった。女が職業を持ってきたということはよいことだが、生活のため、いやいやという人も多いと思う。男女が平等の立場にいる会社などでは、女の権利が多く、そのしわ寄せが男にきている場合が多いのも事実です。【男性 60 歳代】
- ◆男性脳、女性脳という言葉があるように、男女には性差があると思う。また、概して、女性の方が男性より正義感、信頼感が高いように思える。男性の中には正義感も強い人間もいるが、女性の方が概して正義を持った誠実さを持っていると思う。性差という言葉は平等とは遠い感はあるがそうではなく、性差をうまく判別しながらガチガチな男女平等参画ではなく、ゆとりのある男女平等参画を望みたい。これからの世の中が殺伐とした世界にならぬよう公的機関もしっかり思考してやっていただきたい。【女性 60 歳代】
- ◆部落の人間からの嫌がらせ、いじめのない世の中になって欲しいです。【女性 50 歳代】
- ◆女性がはっきりと自分の意見を言える地域、社会になってほしい。【女性 70 歳以上】
- ◆講演会や広報では全体への周知は難しい。学校での教育や会社でのミーティング等誰もが聞く機会を与えないと意味がない。【女性 30 歳代】
- ◆田舎の地域などでは、特に、女性が男の子を出産することを望まれたり、男性なんだから何とかして当たり前である。女性だから何とかして当たり前であると言った昔からのしきたり、考えは現在の社会に沿うように変えていかなくてはいけないのではと思います。育児や介護など自分自身以外のことをするのに、男性も女性も関係なく、どちらがするものあたり前である社会の考えの定着とそれを実現するための制度、設備の充実が必要不可欠なのではないかと思います。【女性 30 歳代】
- ◆若い年代のうちから参加していく方向になると良いと思います。【女性 70 歳以上】
- ◆昔から言われている男らしさ、女らしさ、この言葉の意味が・・・ふと考えさせられました。【女性 60 歳代】
- ◆その人の性格、考え方が変わらないと何も変わらないと思う。【女性 50 歳代】
- ◆人の価値観や考え方はそう簡単に変わるものではありません。子どもの頃の情操教育、親の振るまい、社会のあり方、職場環境と協力制度、すべてが連動して影響してくる問題とされます。女性だけの問題ではなく、男性の国全体の問題として、生活スタイルを変えていく必要もあるかと思いますので、働き方、時間を変えたり、意識改革が必要かと『当

たり前』を作り直すために急激な変化は齟齬を生みますので子どもたちへの教育からが良いのではないのでしょうか。【女性 30 歳代】

- ◆今までの概念にとらわれず、一人の社会人として人生をどう生きていくか、一生関わっていける仕事や家族の理解や協力により尊重できる立場が保てれば良いと思う。男女平等に話し合える体制や環境が必要と思う。【女性 60 歳代】
- ◆時々テレビ等の場面で女性に対する（職場などで）暴言やセクハラ、パワハラなど目にするのがあり、とても悲しく胸が詰まります。日本はまだまだ封建的なんだと強く思います。と言いながらも「赤ちゃんのうちはお母さんが育ててあげられたらいいのにな」とも思います。勝手ですが、女性、男性とも育児や復帰後の仕事が気持ちよくできるように社会や職場の体制を整えていただけたらと思います。そして、老後も少しでも働ける、生活できる社会になればいいなと思います。【女性 60 歳代】
- ◆「男女共同参画社会」の意味がよくわからないですが、職場、政治、そして家庭の中で女性が男性と同じ活躍できる、また、できている社会を目指して行くことが大切なのかなと思いました。家庭では、特に分担していくことなかなか自分では気づかない。できることから始めようと決めました。【男性 30 歳代】
- ◆家庭や学校において、男・女の違いを教えながら、男であれ、女であれ、生きていくのに必要なこと（家事、経済的自立、育児）は、人としてやらなくてはならないことだということを知る。その上で、分け合う、助け合うことの大切さを教え、育んでいくことが必要である。【女性 50 歳代】
- ◆現代人はいろいろな意味で余裕がない。働けど働けど、給料は上がらず、生活費、教育費はかさんでいく一方。年金問題・老後問題といわれてもとても追いつかない状態。バブルがはじけ、リーマンショックが来て、日本人は心までも貧しくなっていました。そこへ少子高齢化の波。将来への不安。しかし、台風 15 号の被災を経験し、世代や性別の垣根を越えた助け合い・思いやり・温かい言葉を掛け合うことが大切だと感じました。現代人に不足しているのは、国や行政・他者にしてもらふことばかりではなく、自分に何ができるかを考え実行すること。「奉仕の精神」ではないかと、自身を振り返り、感じています。【女性 40 歳代】
- ◆すべて平等と行けば良いが、お互いの得意分野があります。男女問わず、持っている能力を助長し、適材適所に就ける職場を作ること、足りない部分を補い合うのも共同参画だと思います。【男性 70 歳以上】
- ◆親世代（60 代～80 代）の方の考え方も変えていけるような支援が必要だと思う。【男性 50 歳代】
- ◆私は恵まれた環境なので、男女不平等は感じたことがないのです。なんだか今さら男女の差があるのか、なんでこのようなアンケートをするのか疑問です。病院勤務なのでどちら

かと言えば、男子の方がかわいそうだと思います。上司も女性なので。【女性 50 歳代】

(2) 職場・労働環境について

- ◆育児、介護で一時会社を離れ、再度戻ってきたときの会社の雰囲気、賃金、地位が前と変わらないものであってほしい。【男性 60 歳代】
- ◆男性が多く働いている職場でたまに女性がいることがあるが、ぶっきらぼうで優しい言葉かけや和らいだ雰囲気がなく、不愉快を感じるが多々ある。【女性 70 歳以上】
- ◆地道な啓発活動も大事ですが、賃金が増え、休暇の取りやすい制度、体制づくりりと理解が重要と考えます。家族を顧みず、あろうことかその休みを利用して一人遊びに行ってしまうような人間は講座や教育等で教育すれいいと思いますが、ほとんどの人は「そんな時間があったら休養に使う」と考えてしまうのではないのでしょうか。心に余裕が生まれたら、職場の人や面識のない人にまで、「男なんだから・・・」「これだから女は・・・」と絡んだりすることも減るのではないのでしょうか。【女性 20 歳代】
- ◆働く時間が全般的に長い気がする。個人差はあるが、身体的に影響が出ている人が多く感じられる。【男性 70 歳以上】
- ◆女性社会とか、名は出ているが、やはり職場環境がそうではない。そうさせない面が多々ある。各々の職場環境、上司の理解が必要不可欠であり、その意識改善を望む。男性が育児、介護、地域活動等に参加するためにも、必要と強く感じる。【男性 30 歳代】
- ◆雇用形態が非正規の割合が多く、賃金も低くなりがちな会社等が多い気がするので、その辺を見直してあげた方が良くと思います。また、職に就けなかった期間がしばらくある人でも、やる気や能力次第で社会復帰しやすい環境があれば戻りやすくなると思いますので、そういう制度や体制が整う社会だと、将来も不安が少なくなるため、良いと思います。そうして働く人口が少しでも増えて、男女平等になっていけばと思います。【男性 30 歳代】
- ◆男女どんな職場でも昼休み時間及び有給休暇はしっかりもらえる会社、社会制度をちゃんと確立してほしい。【男性 50 歳代】
- ◆勤務先の平均年齢がほぼ男性のみで45歳以上の環境にあるのですが、女性への待遇は悪いです。『女性はできないから責任の重い案件は任せられない→待遇が悪いのは当たり前』、こういった「女性はできないから」といった根底にある認識を変えていかないと、制度をつくったところで男女間のきしみは消えないと思います。【女性 20 歳代】
- ◆企業は、その業界、職種によって、どうしても男の方がリーダーになりやすい。一方、市政や公務員は改革しやすい組織だと思うので、ぜひリーダーシップを発揮して欲しいが、なぜできないのか。政治はまだまだ団塊の世代の男性優位の考え方が根強い。次の世代以

降の人口が全人口の割合に対し増えなければ、まだまだマイノリティの考えの域を超えないと思う。【男性 30 歳代】

- ◆日本全体で労働時間等の条件改善により、働き方を変えて日頃の時間に余裕を持った生活ができるよう、考え方を直さないと社会全体に光が見えてこない。【男性 50 歳代】
- ◆給料の差をなくして欲しい。週5～6日働いても給料が20万円もらえないなんておかしいと思う。ボーナスも有給休暇もない。生活が苦しい。【女性 40 歳代】
- ◆男性も女性も個々の一人の人間として自立して生きていけるようにならなくてはならない。そのためには、雇用の機会、昇進、昇格が男女平等に能力に基づいて行わなければならない。加えて、自分自身の認識や考えも変えなくてはいけない場合もある。いつまでも自立せずに親に依存していたり、自分は女性だから結婚したら男性に養ってもらい、自分は働きたくないといった考えも少し違うと思います。夫婦で話し合い、納得した上で決めたのであれば構わないことですが、結婚しようが独身であろうが一人の人間であることは変わりなく、自分自身で生きていけるようにならなくてはと思います。【女性 30 歳代】
- ◆働く場所の考え方が男女平等になればいいと思います。【男性 20 歳代】
- ◆自治会の役員に参加したことがあるが、やはり高齢者の方々（男の方）は男女平等の考え方は全くないように思う。問いにもあったが、慣習、しきたりを見直さなくてはいけないと思うが……。高齢者の方々の考えを見直すには大変なこと。しかし、このままでは「男女共同参画社会」のまちづくりはなかなか現実化されないと思う。まちづくりは小さな自治会から始まると思う。この様な現状を少しずつ変えていかなければいけない。そのためには、自治会の長、班長など役のある方を女性の意見もきちんと取り入れる、取り入れているような会議に参加していただき、少しずつ考え方を改善する必要があると思う。役所の方々も毎日お忙しく市民のためにと頑張っていていただき感謝しています。男の人も女の人も皆が自由に個々の能力を発揮できる市にできたらいいですね。【女性 50 歳代】
- ◆職場への採用など、その会社がどのような人材を求めているのか、男女問わず明確にして欲しいし、かならずしも職場に女性がいないとはならないということでもない。なぜ、男女共同参画が必要なのかをより明らかにし、社会へ発信していかなくてはならないと考える。【女性 40 歳代】

(3) 市の行う施策について

- ◆市長、議員が日頃から努力されている案件の更なる推進を要望する。【男性 70 歳以上】
- ◆市民ならだれでも登録したらできるようなお小遣いサイトなど、インターネットでできる簡単な内職コーナーを作って主婦などの小遣いになるようにしてはどうでしょうか？【女性 60 歳代】

- ◆議員総報酬制度（1人分＝総報酬額÷議員数）を条例化し、段階的に現状の50%程度まで総報酬を引き下げ、議員定数削減を促す。地方議会に出来る事はほとんど無いのが実情ではないか？10人いれば十分であると思う。【男性 60歳代】
- ◆アンケートを取って記録に残して、議会で報告して終わりにならないようお願いします。【女性 20歳代】
- ◆高齢者の意識改革はなかなか難しいと思うので、市としていろいろ取り組んでこられた中の、より具体的な事例を広報での特集や文化祭でのパンフ配布等で繰り返し情報提供いただければと思います。【性別不詳 60歳代】
- ◆多くの市民から意見を聞き、男女平等の考えにそって、全ての市民が幸福に暮らせるそんな大網白里市になってほしいです。【男性 60歳代】
- ◆今回、調査をされているテーマだけではなく、最近の国や自治体の提起される問題自体が急激な時代の変化に追いつこうとして、市民だけでなく、行政サイドも追いつけず振り回され、何をどうすればいいのか立ちすくんでいるだけのように見えます。一番問題なのは、提起されているテーマにどのように取り組んで、どんな現状なのか、どのような結論が得られているかをもっとわかりやすく、機会あるごとに（積極的に）広報していくスタンスがほしい。【男性 70歳以上】
- ◆女性が自立できるような経済的自立が必要であるが充実させるためには、環境整備が必要。このようなアンケートをあらためてする必要があるのでしょうか。問題、原因はわかっているはずです。（無駄な経費をかけることより、実効ある施策に回すべき）【男性 70歳以上】
- ◆男尊女卑が深く根付いている地区も多いので、多くの地区で平等についての冊子や回覧板で周知する必要があると思う。【女性 40歳代】
- ◆女性協議会などを市で用意してはどうですか【男性 60歳代】
- ◆大網には、子育ての支援の体制が整っていない。児童館（雨が降ったときの遊び場ともなる場がない。）、図書館（子どもたちが少し騒いでも楽しく、本を読んだりする場所がなく、本の数も少ない。）、片親や低所得の家庭の支援（子ども食堂や地域コミュニティができる居場所などがあるのかさえわからない。）、交通の整備、コミュニティバスの運用の検討が必要だと思う。この先、「東京のベッドタウン」としての交通の利点を生かし、子育てができる街づくりを進めることが必要だと考えます。子どもが街をつくるという視点は、次世代の大網を豊かにしていくのだと思います。【女性 60歳代】
- ◆空論に終わらせることなく、一步一步着実に実行し、効果を検証して有効な施策を実践してください。【男性 70歳以上】

- ◆自治体が「計画」をつくったり、「条例」を制定したりすることはやるが、応々にして『つくって終わり』と実際に計画に沿って実行することをしないことが多くの自治体で見かける。「計画」をつくり、それにそって『実行』することを必ずやってほしいと思う。
【男性 70 歳以上】

- ◆市議会議員や市長、副市長を交えて、市内全体の大中小企業経営者で市を盛り上げるための経営者、市制トップ会談勉強会を行い、働きやすく、見通しの明るい市にしていってください。学校のトップも参加する方が良い。PTA の活動原形は昭和から変わっていない事も大問題と感じます。学校からの連絡は母親が受ける事が多く、父親に連絡が先に行くことが少ない。役員活動は働く女性にとって負担が大きい。学校の行事も多すぎるように感じます。もっと簡略化していいのでは？常々思っています。令和に入り時代も変わりました。経営者も市制トップ、学校トップ、各議員さんも自分達の理想政策だけでなく、大網白里市民にとって本当に良いこと、出来ること、他県や他市からの移住希望が本当に多くなり、豊かに栄える市になって欲しいと思います。そして若い世代の人達がここを離れたくない。たとえ一時的に離れても戻ってきたい、戻ってこようと思える街にして欲しいです。高校、大学卒の方が働く場（企業）も是非作ってください。今回の台風災害等にあつたとき、市内でお風呂に入れる施設がなく、市外へ行きました。道の駅頭等お風呂が入れるような作りをして欲しいです。【男性 40 歳代】

- ◆そもそもどのような分野で男女共同参画社会を大網白里市が目指すのか、情報がほとんど入ってこないです。そしてこのような社会を実現した先のビジョンも見えてきません。男女共同参画社会というとても女性の進出ばかりに目が行きがちですが、男性が参画しにくい分野（育児等）にも気兼ねなく参加できるようになれば真の男女共同参画社会になると思います。【男性 20 歳代】

- ◆余裕のある保育環境の整備を望みます。子どもがいるまちは、自ずと活性化していくと思います。東京までの利便性が悪くない大網白里市は、施策によってまだまだ発展する余地があると思います。男女共同参画社会の実現を通して、活気あるまちづくりを推進していただけるとありがたいです。【男性 30 歳代】

- ◆大網白里市は市議会議員も古くからいるお年寄りの男性が占め、こちらに移住してきた10年前とあまり変わり映えしていません。子どもたちは学校で「男女平等」を教育されており、少なくとも10代の子どもたちは今の議員さんよりも「男女共同参画社会」を身をもって体験できていると思います。このアンケートの文言も育児や介護に「参加する」というお客さま感覚でこういう意識は、年をとってからはなかなか変えられるものではありません。「男女共同参画社会」を実現して行くには、市政に携わるものの世代交代が不可欠だと思います。【女性 40 歳代】

- ◆多種、多様な問題が想起されるので、住民の協力はもちろん、市の行政のすべての事業にもこの「男女共同参画」の視点を取り入れて、統一感を持って遂行して下さることを期待します。【男性 70 歳以上】

- ◆朝夕の JR 大網駅周辺混雑対策として、一番被害を被っているであろう女性（ドライバー）の意見、希望を「男女共同参画」として市政に生かしてもらいたい。アンケート方式も当然必要であろうが、広く町に出て、公聴の機会を設けたり、市の実情を調査するなり、クーラーの効いた室内でノホホンと情報を待つよりは賢いやり方なのでは？【男性 70 歳以上】
- ◆市長、市議会議員の古い考えの人、実行力のない要員の入れ替えが必要である。【男性 60 歳代】
- ◆やはり意識改革が最重要と考え、啓蒙活動に努力すべきと思います。【男性 70 歳以上】
- ◆皆の意見を集めて平均値を取り、決めていく様な事していると実現できない。まず素案をしっかりと 2, 3 案決め、市民に選んでもらうようなことをしないとダメである。自分達は何も考えずにすぐにアンケートをする。市税のむだ使い！！の代表である。アンケートをとるのに、市税（人件費含む）いくらかかっているのか？【男性 60 歳代】
- ◆本気で取り組んで欲しい。【女性 30 歳代】
- ◆アンケート回答表を実施することは良いが、この回答を早々に精査、改善、実行して欲しい。【男性 50 歳代】

(4) 教育等について

- ◆高齢化の中で、年代を超えたコミュニケーションの場が地域（自治会等）では必要。学校教育の場で必要性等を早くから根付かせていくのが大切。【女性 60 歳代】
- ◆教育が一番大事。積極的に取り組む必要がある。子どもの頃から意識させていかなければ、そんな社会にはならない。学校の先生方にもそんな社会が必要なのか全く意識していない方もいるのでは？これから人口が減少していき、働き手が少なくなるのはわかっているのだから、男も女も同じ意識で生活していくことは、将来の日本のためにも必要であると思う。【男性 70 歳以上】
- ◆成人後の意識に大きく影響すると考えられるため学校教育（小・中・高）での男女平等の教育・接し方は大きなカギになると考える。【男性 50 歳代】
- ◆男女を問わず、思いやりとやさしさが大事だという人としての教育が大切と考えます。【女性 70 歳以上】
- ◆未だに「男の方が偉い」という意識は残っていると思う企業におけるハラスメント防止対策を徹底するだけでなく、教育現場でも男女に尊卑はないことをしっかり周知させて欲しい。また、望まぬ妊娠や墮胎に傷つく女性を一人でも減らすため、性教育をきちんと行ってもらいたい。性的なものをタブーとする風潮を打ち壊し、避妊法や同意のない性行為は

暴力となることなど、小学校から高校まできちんと教えるべきだと感じる。【男性 30 歳代】

- ◆世の中がくるっているのも、若者がすぐキレる。それから事件が多すぎます。子どもからの教育ですね。【女性 60 歳代】

(5) 家庭について

- ◆学校で（その前に幼稚園・保育園で）、家庭で、地域でそのような社会が作られていくために、個人として、動かなければならないと感じました。生まれたときから、「生命の大切さ」を味わえる家庭でないと、根本から、人間として育っていきません。父親の暴力で、小さい生命が奪われる事件が報じられますが、母親が無力（無教養）で情けないです。【女性 70 歳以上】
- ◆男だから、女だからという考えが、男女共同参画に立ちはだかっているかと思います。お互い足りない部分は、お互いに補いながらできたらよいのになと思います。我が家は、お互いにやれることはやり、できない時にはお願いし、だから私も朝早い時間から遅い時間まで働いていけると思います。家族の考え方、理解がないと実現できないと思います。【女性 50 歳代】
- ◆ペア（カップル）収入がより得られるのが女性なら収入面は大筋女性でもよいと思う。その代わり、男性は家庭でやることをやって空き時間に短時間働き、子どもが育ってから共働き（フルタイム）でよいと思う。優秀で稼げる方が働くように様々なケースを講演した方がよい。【男性 40 歳代】
- ◆これからの時代は、女性もどんどん社会に出て活躍する（しなければならない）世代になっていますので、働く女性が社会や職場で楽しく働くために特に家庭内では、みんなで理解と協力の精神が大切だと思います。【女性 70 歳以上】
- ◆家庭内において、家事を積極的に行う夫がいる場合、女性は働きやすくなるため、子ども時代に家庭や教育で家事に多く触れておくような社会になれば一般的な意識に変化が生まれると思う。【男性 30 歳代】
- ◆子どもも経済的に余裕があれば産むし、仕事も女がやらなくても良いと思う。平等、平等といっても、役割はあって、平等にはならないと思う。【女性 30 歳代】
- ◆共同参画や女性登用が叫ばれる中で、幼児、児童や少年期における親とのふれあい（特に母親）の時間の減少や家庭における食事の質の低下などが生じているのではないかと心配になります。【女性 70 歳以上】
- ◆年代によっても違いうだろうが、家庭内の仕事はお金にならず、外で働いている男は、自分が養っている、時間がない等で上から目線で生活している。子どもの頃から子育て家庭内のあらゆる事に積極的に参加する教育をしなければいけないと思う。【女性 50 歳代】

- ◆家事のおもしろさや重要性を知らない男性が案外多いように感じます。(男は仕事で家の事はやらない) 料理、洗濯、掃除など楽しさが判らないようです。包丁なども握ったこともない人もいますようです。女性とコミュニケーションができない人もいますようです。【男性 60 歳代】
- ◆家事を女性のやることと決めつけて協力する気のない男性が多いと感じます。男女共同参画社会を実現していくには男性の考え方を変えなければならないと思います。【女性 20 歳代】
- ◆「男女共同参画」という言葉はかなり前から言われているが、あまり実現していない様に思います。家事労働し、社会で仕事を持ち、子どもを育てるということは大変な時間がかかる。現在は昔と違ってどこも核家族で、より増して母親の大変さがわかる。特にパートナーの協力がなくては良い子どもには育たないのでは。男性の意識を変えなくては。女性が仕事と育児(家事)でどの女性もヘトヘトなのではないか。その男性を育ててしまった親の責任もある。出産しなくなったのは、この辺にも原因が大きいのではないか。いくら制度を見直しても家庭内での協力体制が大きい。今後男女共に教育の問題を考える。制度でも使えない制度ではなくて、「きまっているから」でなく、その人その人に合わせた柔軟な対応をお願いしたい。心あるセーフティーネットをお願いしたい。【性別不詳 70 歳以上】
- ◆これまで女性が家事・育児と仕事の両立ができるように制度が設けられてきたが、元々男性の仕事の加重がかかっていること、またこの制度によりさらに男性への圧力が高くなっている側面もある。共同参画の為には男性の時間を空ける取り組みや制度の整備が必要だと思います。【男性 50 歳代】

(6) その他

- ◆男女共同参画社会も大事だが、まず大網白里市に警察署、税務署、裁判所などを作って、もっと生活を便利にしてもらいたい。【女性 60 歳代】
- ◆現在の世の中は義理も人情もなく、高齢になると先行き心細くなり不安です。【性別不詳 70 歳以上】
- ◆生活しやすさを考えた社会になってほしいです。【女性 40 歳代】
- ◆地域づくり課に限らず、大網白里市役所は、どの課に伺っても、とても迅速に対応してくださり、頭が下がります。これからもすばらしい市役所でいてください。【女性 70 歳以上】
- ◆個性と能力を積極的にいかしましょう。【女性 60 歳代】
- ◆よいまちづくりに期待している。【女性 60 歳代】

- ◆目標とする町の設定がなければ、今後のまちづくりのストーリーをつくることはできない。人口増で税収増としても単純にはいかない（労働者人口が増加しなければ、税収増にはならない）。新しい需要に対応できるまちでなければ、人口減、労働力の減は進み、いずれは合併して財政の改善しかできなくなると考える。【男性 50 歳代】

- ◆従来当たり前とっていたことを変える。今日の常識が、明日の非常識、本格的に腰を入れてやらないと変わらない。何がだめなのか、どのようにすればいいのか、基本的なことを具体的に提示していただければありがたいです。これからは苦情です。台風 15 号の通過後、千葉県は大変なことになっています。私のところは、停電はありましたが、復旧は早かったです。しかし、水道が停止しました。飲み水は買っておきました。トイレだけは気づかず、困りました。国、県、市の顔が見えない。情報や対応が遅いし、電気は「東電」まかせ。人の暮らしと生命を守るという選挙の訴えはどこに行ったのでしょうか。事前の対策はなし、ビニール対策もなし、すべて後手です。【男性 70 歳以上】

- ◆「男女共同参画社会」そのものをよく理解していないのは私だけでしょうか？アンケートに答えながら、戸惑ってしまいました。【女性 60 歳代】

- ◆広報がとても聞こえづらいです。今回の災害時の放送もよく聞こえず大変でした。改善してもらえるとうれしいです。【女性 40 歳代】

- ◆何をするにしても、このまちに住民が定住することです。それには、働ける場所、交通の利便性、厚生福祉の充実、公園等や教育及び日常生活の便利等々の充実。【男性 70 歳以上】

- ◆関係ないことですが、台風 15 号の危機対応はずいぶん甘かったと思います。市民は混乱しました。10 日の午後 3 時の生活用水の利用についての放送の後、すぐに近くの小学校に向かいましたが、正門には、貼り紙もなく、多くの人がまごついていました。仕方なく、幼稚園の方に並びましたが、早く門を閉めたい先生がとても感じが悪かったです。タテ割行政の悪いところが出ていました。町立の幼稚園ということは、公務員の方ですよ？どうせ、この内容も届かないですよ？今後に生かすような総括をしていただきたいです。ポンプを押し続けてくれた若者 4 人。ボランティアと言ってました。ありがとう。中之条町からきたペットボトルは、お年寄りの一人暮らしの方などに渡ったのでしょうか？なぜ、県にいろいろ依頼しなかったのでしょうか？放送は、1 時間に 1 回くらい流してもらった方が良かったです。最初の頃、聞き逃しが多かったです。市民の声を取り上げて、安心して住める防災組織にしてください。お願いします。【女性 50 歳代】

- ◆市が積極的に推進していこうと考えていることを知りました。広報紙などで広く皆に内容を知ってもらうのが良いのではと思います。【女性 50 歳代】

- ◆大網白里に越してきて、一番困っていることは電池の回収です。ボタン電池についても回収方法を知らせて欲しい。ごみの収集が祭日でも行っていることはとても良く感謝しています。防犯カメラの設置を多くして欲しい。【女性 70 歳以上】

◆浄水場に電源車を配備することを希望する。【男性 40 歳】

◆メンタルヘルスに弱い人を出さない。【男性 30 歳】

Ⅲ 調査票

大網白里市男女共同参画に関する市民意識調査

男女共同参画社会とは

男性も女性もすべての個人が、互いにその人権を尊重しつつ、責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会のことです。



<ご協力のお願い>

日頃から市制にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

大網白里市では、平成28年3月に「大網白里市男女共同参画計画」を策定し、男女がともに認め合い、支え合い、個性と能力を発揮できる社会の実現に向け、様々な取組みを行っております。

この計画が、令和3年3月末に期限を迎えることから、第2次大網白里市男女共同参画計画の策定に向けた基礎資料とするため、市民意識調査を実施することといたしました。

本調査は、20歳以上の市民の中から無作為抽出により選ばせていただいた皆様に調査票をお送りしております。お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和元年9月

大網白里市長 金 坂 昌 典

【ご記入にあたってのお願い】

- 回答は、あて名のご本人がお答えください。事情によりご本人が回答できない場合は、ご家族の方がお答えください。
- 質問ごとにあてはまる回答の番号を○で囲んでください。
- ○をつける数は、質問ごとに指定していますので、その範囲でご記入ください。
- 回答していただく方が限られる質問もありますので、質問の注意書きをご確認ください。
- 回答が「その他」の場合は、() 内に具体的にその内容を記入してください。
- ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒に入れ、9月24日(火)までに郵便ポストにご投函ください。(切手不要)

※本調査は、無記名で行い、調査結果は統計的に処理し、個人の名前が公表されることはありません。
また、調査の目的以外には一切使用いたしません。

<問合せ先>

大網白里市 地域づくり課 市民協働推進班

TEL 0475-70-0342

FAX 0475-72-8454

あなたご自身のことについてお伺いします

①性 別	1 男性	2 女性	
②年 代 (8月末時点)	1 20歳代	2 30歳代	3 40歳代
	4 50歳代	5 60歳代	6 70歳以上
③居住地区	1 瑞穂地区	永田、小中、萱野、砂田、神房、経田、駒込、ながた野、みずほ台、みやこ野	
	2 山辺地区	金谷郷、餅木、大竹、南玉、池田、季美の森南	
	3 大網地区	大網、仏島、みどりが丘、小西、養安寺、山口	
	4 増穂地区	富田、南横川、北横川、北飯塚、南飯塚、星谷、柿餅、柳橋、上貝塚、清名幸谷、木崎、柿餅上貝塚入会地、上谷新田	
	5 白里地区	南今泉、北今泉、細草、四天木、四天木甲、四天木乙、北吉田、桂山、九十根、長国、下ヶ傍示、二之袋、清水	
④世帯構成	1 単身(あなた1人)	2 夫婦・カップル	3 2世代家族(子どもと)
	4 2世代家族(親と)	5 3世代家族	6 その他()
⑤職 業	1 会社員・会社役員	2 自営業・自由業	3 パート・アルバイト
	4 公務員・教職員・団体職員	5 農林水産業	6 学生
	7 家事専業(主婦・主夫)	8 無職	9 その他()

男女平等に関する意識についてお伺いします

問1 現在の社会において、男女の地位はどのようになっていると思いますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

項 目	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない
① 家庭生活で	1	2	3	4	5	6
② 地域で	1	2	3	4	5	6
③ 社会通念・慣習で	1	2	3	4	5	6
④ 学校教育で	1	2	3	4	5	6
⑤ 職場で	1	2	3	4	5	6
⑥ 政治で	1	2	3	4	5	6
⑦ 法律や制度で	1	2	3	4	5	6
⑧ 社会全体で	1	2	3	4	5	6

男女の役割分担についてお伺いします

問2 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。(○は1つ)

- 1 そう思う 2 そう思わない 3 どちらともいえない 4 わからない

問3 結婚(事実婚含む)されている方にお伺いします。

あなたの家庭では、家事等の日常的な仕事は、主にどなたがしていますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

項目	夫	妻	家族で 分担	家族 (親・子)	該当 しない
① 家計の管理					
② 食事の支度					
③ 食事のあとかたづけ					
④ 食料品・日用品の買物					
⑤ 洗濯					
⑥ 掃除					
⑦ ごみ出し					
⑧ 簡単な家の修繕					
⑨ 子どもの日常の世話					
⑩ 家族の看護・介護					
⑪ 地域行事等への参加					

お仕事についてお伺いします

問4 女性が仕事を続けるうえで、障害となっているものは何だと思えますか。
(○は3つまで)

- 1 女性の雇用機会や採用数が男性より少ないこと
- 2 長く働き続けられるような職場の条件や制度が不十分なこと
- 3 職場での結婚や出産、育児を支援する制度や雇用主の理解が不十分なこと
- 4 保育施設や保育制度が不十分なこと（学童保育も含む）
- 5 職場復帰や再雇用の制度が不十分なこと
- 6 家族の理解や協力が得られないこと
- 7 子どもや病人、高齢者の世話が女性だけにまかされていること
- 8 仕事と家事の両立がむずかしいこと
- 9 女性自身が仕事を続けることを望んでいないこと
- 10 特にない
- 11 その他（)

問5 男女とも仕事と家庭の両立をしていくためには、どのような環境整備が必要だと思えますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 再雇用制度の促進
- 2 保育サービスや学童保育の充実
- 3 育児・介護休業制度の定着促進
- 4 育児・介護休業中の賃金、手当等等の充実
- 5 在宅勤務、フレックス制、育児短時間勤務制度の充実
- 6 看護・介護サービスの充実
- 7 昇進、昇給や仕事の分担など労働の場での男女平等の促進
- 8 非正規社員の労働条件を改善する
- 9 家事の省力化、外部化などによる家事負担の軽減
- 10 仕事と家庭を両立していくことに対する家族や周囲の理解と協力
- 11 その他（)

問6 女性の働き方について、次のどれが望ましいと思えますか。(○は1つ)

- 1 結婚や出産等にかかわらず、ずっと仕事を続ける
- 2 子育て・介護の時期だけ一時仕事は離れ、その後はフルタイムで仕事を続ける
- 3 子育て・介護の時期だけ一時仕事は離れ、その後はパートタイムで仕事を続ける
- 4 結婚するまで仕事を続け、結婚後は仕事につかない
- 5 子どもができるまで仕事を続け、その後は仕事につかない
- 6 仕事はもたない
- 7 その他（)

問7 現在、仕事をしている方にお伺いします。

あなたの職場では、男女の地位はどのようになっていると思いますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

項目	男性の方が優遇されている	平等である	女性の方が優遇されている	わからない
① 採用時の条件	1	2	3	4
② 賃金	1	2	3	4
③ 仕事の内容、研修の機会	1	2	3	4
④ 能力の評価	1	2	3	4
⑤ 昇進や昇格	1	2	3	4
⑥ 育児・介護休業等の制度	1	2	3	4
⑦ 職場全体の意識	1	2	3	4

問8 現在、仕事をしている方にお伺いします。

あなたの職場では、有給休暇や育児休業などを気兼ねなく取得できる環境にありますか。(○はそれぞれ1つずつ)

項目	取りやすい	どちらかといえば取りやすい	どちらかといえば取りにくい	取りにくい	どちらともいえない	制度がない	わからない
① 有給休暇	1	2	3	4	5	6	7
② 育児休業	1	2	3	4	5	6	7
③ 介護休業	1	2	3	4	5	6	7

問9 現在、働いている方で職場に育児休業制度がある方のみお答えください。

あなたは、機会があれば育児休業を取りたいと思いますか。(○は1つ)

1 取りたい	2 どちらかといえば取りたい
3 どちらかといえば取りたくない	4 取りたくない
5 どちらともいえない	6 わからない

女性の社会参加についてお伺いします

問10 職場や地域活動で、女性のリーダーが少ないように見受けられますが、その要因は何だと思えますか。(〇は2つまで)

- 1 責任ある地位につきたくないから
- 2 家事・育児に忙しく、仕事や地域活動に専念できないから
- 3 組織活動の経験が少ないから
- 4 指導力のある女性が少ないから
- 5 女性がリーダーではメンバーがついてこないから
- 6 女性がリーダーでは軽くみられるから
- 7 男性がリーダーとなることが一般的と考えられているから
- 8 女性がリーダーになるという選択肢がないから
- 9 その他 ()

問11 あなたは、今後、もっとさまざまな職業分野で、女性が指導的地位に占める割合が増える方がよいと思えますか。(〇は1つ)

- | | |
|-------------|-----------|
| 1 よいと思う | 2 よいと思わない |
| 3 どちらともいえない | 4 わからない |

問12 問11で1と回答した方のみお答えください。

次の職業や役職において、今後、女性の割合がもっと増える方がよいと思うのはどれですか。(〇は3つまで)

- | | |
|------------------------------|-------------------|
| 1 国会議員 | 2 県議会議員、市町村議会議員 |
| 3 県知事、市町村長 | 4 国家公務員・地方公務員の管理職 |
| 5 裁判官、検察官、弁護士 | 6 医師、歯科医師 |
| 7 学校の校長・教頭 | 8 大学・研究機関などの研究者 |
| 9 警察官、自衛官、消防士 | 10 企業の役員、経営者 |
| 11 地域活動団体の役員(区・自治会長、PTA会長など) | |
| 12 その他 () | |

問13 男性の家事、育児、介護等への参加を促進するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は2つまで)

- 1 男性の家事、育児、介護等への参加を促進するための啓発活動を行う
- 2 男性の労働時間を短くして家事、育児介護等への参加できる時間を増やす
- 3 仕事と子育ての両立を支援する体制を整備する
- 4 職場における理解を得やすい環境づくりを推進する
- 5 男性の家事、育児、介護等に関する技能を高めるような講座等を開催する
- 6 その他 ()

問14 政策決定の場へ女性の参画が増えることによって、社会がどのように変化することを期待しますか。(〇は1つ)

- 1 政治が身近になる
- 2 男性中心の考え方に変化が生じる
- 3 男女共同参画社会に向けての施策が推進される
- 4 特に期待することはない
- 5 女性が活躍できる社会が実現できる
- 6 その他 ()

問15 男女がともにさまざまな場面(仕事、家事、育児、介護、地域活動など)で積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

- 1 男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること
- 2 労働時間の短縮や休暇制度(育児休業・介護休暇・ボランティア休暇等)を普及させること
- 3 仕事と家庭の両立を支援する制度などの問題について、相談できる窓口を多く設けること
- 4 育児・介護に関するサービスを充実すること
- 5 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること
- 6 家庭や学校において、男女ともに、家事や育児を協力して行うよう教育すること
- 7 女性が経済的に自立し、社会的責任を果たせるような能力を身につけること
- 8 男性が生活面において、自立できるような能力を身につけること
- 9 職場や仕事中心の生き方、考え方を改めること
- 10 その他 ()

男女共同参画関係の用語についてお伺いします

問16 あなたは、次の言葉を知っていますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

項目	よく知っている	少しは知っている	聞いたことがある	知らない
① 男女雇用機会均等法	1	2	3	4
② 男女共同参画社会基本法	1	2	3	4
③ ジェンダー (社会的・文化的につくられた性別)	1	2	3	4
④ セクハラ (セクシャル・ハラスメント)	1	2	3	4
⑤ マタハラ (マタニティ・ハラスメント)	1	2	3	4
⑥ パワハラ (パワー・ハラスメント)	1	2	3	4
⑦ DV (ドメスティック・バイオレンス)	1	2	3	4
⑧ デートDV	1	2	3	4
⑨ ポジティブアクション (積極的改善措置)	1	2	3	4
⑩ ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)	1	2	3	4
⑪ 女性活躍推進法	1	2	3	4
⑫ 家族経営協定	1	2	3	4
⑬ LGBT (性別マイノリティ)	1	2	3	4
⑭ ダイバーシティ	1	2	3	4

問19 問18で1と回答した方のみお答えください。

相談しなかった理由はなぜですか。(〇は3つまで)

- 1 自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから
- 2 相談しても無駄だと思ったから
- 3 自分にも悪いところがあると思ったから
- 4 相談するほどのことではないと思ったから
- 5 他人に知られたくないと思ったから (世間体が悪いと思ったから)
- 6 暴力を受けたことを思い出したくなかったから
- 7 相談したことがわかると、さらに暴力を受けると思ったから
- 8 どこ (だれ) に相談したらいいのかわからなかったから
- 9 その他 ()

問20 DVについて、今後、行政に対してどのような対応等を望みますか。

(〇は3つまで)

- 1 警察による対応の充実
- 2 緊急一時避難所 (シェルター) の確保
- 3 相談体制の連携充実
- 4 相談機関等の周知、紹介
- 5 被害者の自立のための支援
- 6 加害者の更生のための支援
- 7 DV防止の意識啓発 (講演会、広報紙等による啓発)
- 8 学校教育におけるDV防止に関する教育の充実
- 9 その他 ()

問24 「男女共同参画社会」を実現していくまちづくりについて、ご意見、ご要望、感じていることなど、なんでも結構ですので自由に記入してください。

質問は以上で終了です。ご協力ありがとうございました。
この調査票を同封の返信用封筒に入れ、ポストに投函してください。(切手不要)

